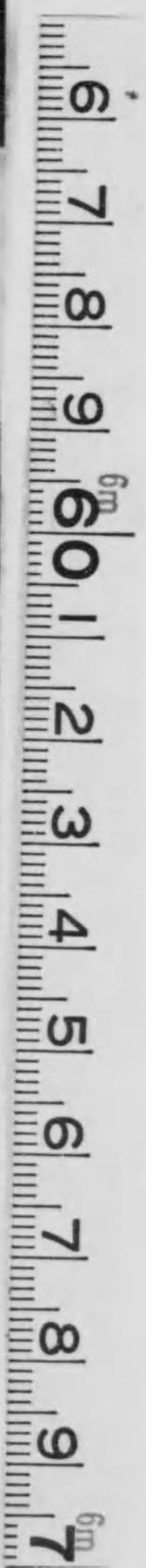


296
3



始



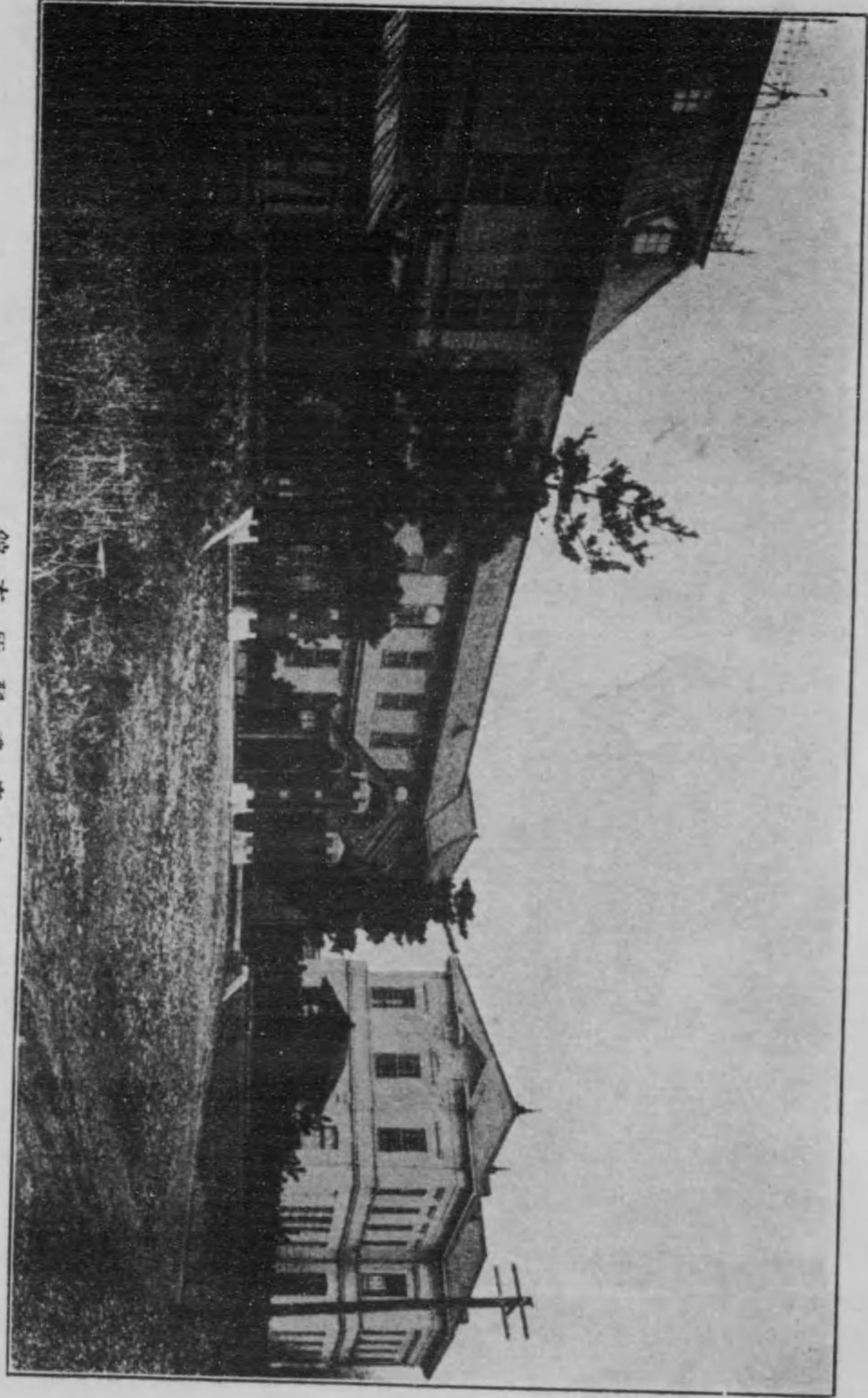
工5N-3

296
3

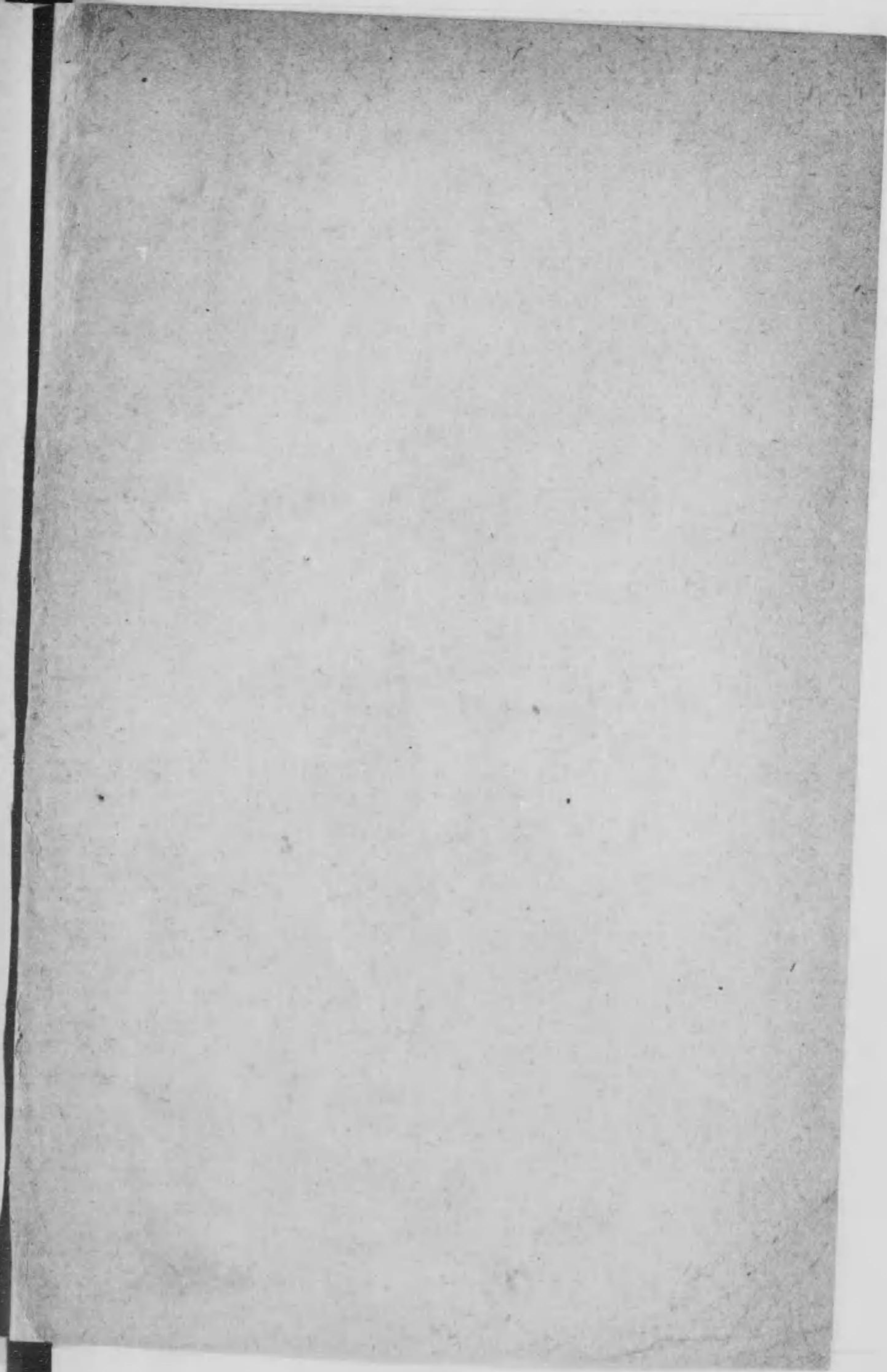
水產講習所一覽

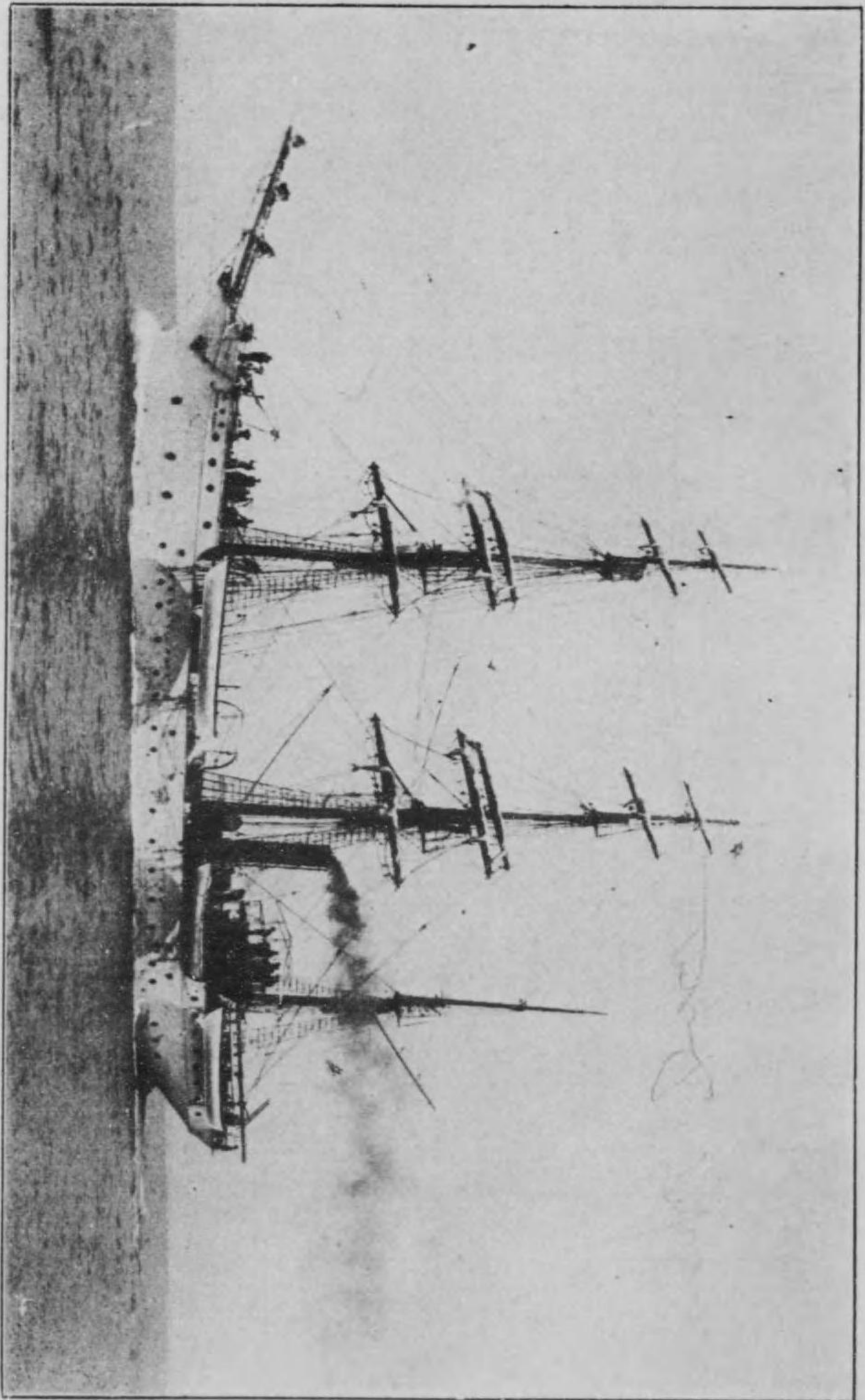
自大正七年三月
至大正七年三月

296-3

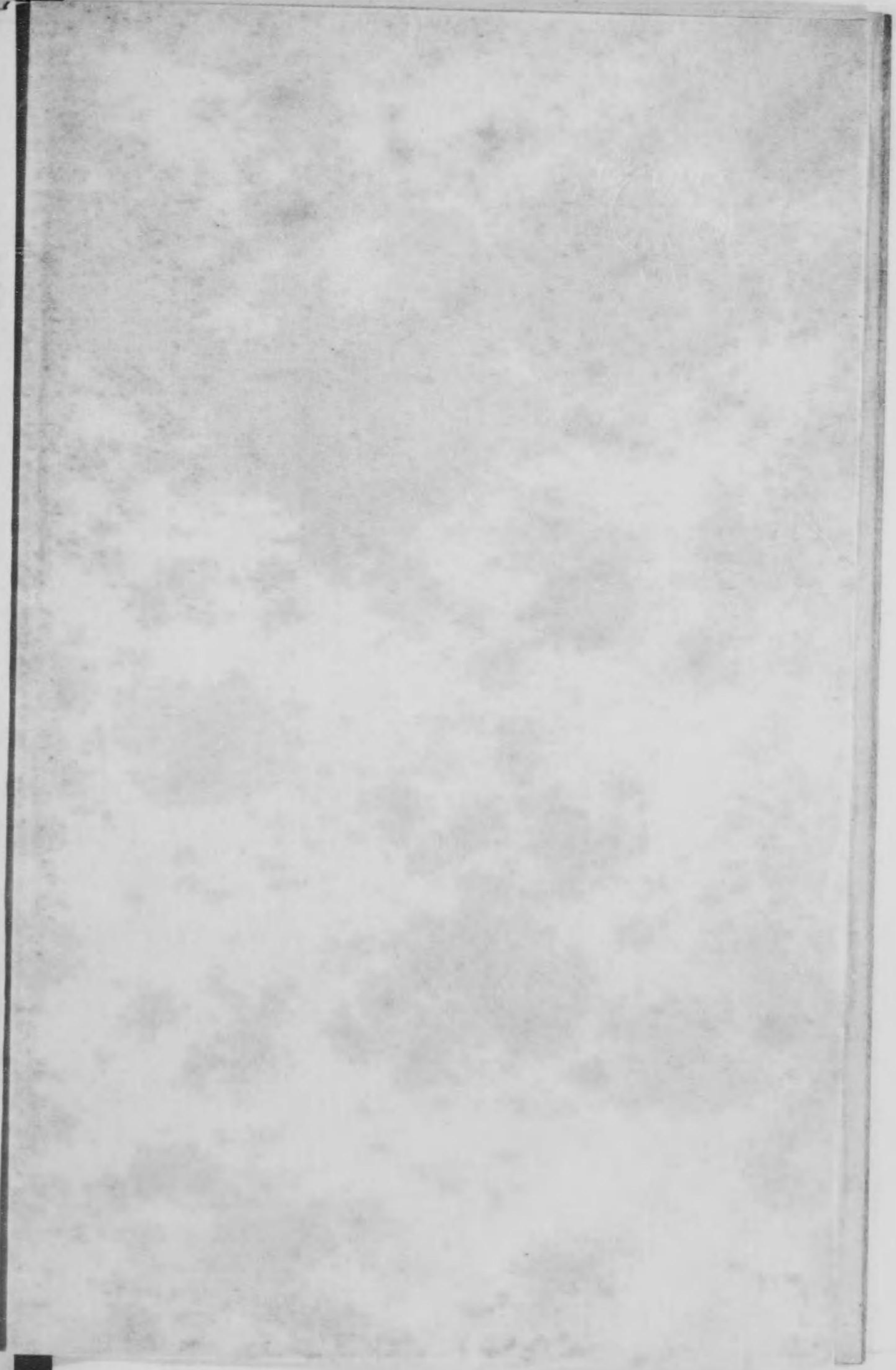


水產講習所本館





丸 艦 雲



目次

第一 沿革及組織

第一節 沿革概要……………一
 第二節 官制及事務規定……………三

一 水產講習所官制……………三

二 水產講習所處務規定……………四

三 水產講習所處務細則……………四

第一章 事務分掌……………四

第二章 文書取扱……………六

第三章 會計……………六

第四章 雜則……………七

第三節 職員……………七

第二 傳習

第一節 規則及規定……………一三

一 水產講習所傳習規則……………一三

二 水產講習所傳習規定……………一五

第一章 本科規定……………一五

目次

第二章 遠洋漁業科……………二三

第三章 研究科……………二四

第四章 別科……………二四

書式……………二五

實習規程……………二七

實習船規程……………二八

生徒心得……………三〇

寄宿舍規程……………三一

三 遠洋漁業練習生規程……………三一

第二節 講習功程……………三三

一 研究科……………三三

二 遠洋漁業科……………三三

三 本科……………三三

四 別科……………四一

五 指導及講話……………四一

第三 試驗及調查……………四一

第一節 試驗及調查ニ關スル組織……………四一



一 水産講習所試験規則	四一	第二節 圖書及標本ノ現況	六六
二 水産講習所種苗拂下規則	四三	第六 在外研究生	六六
第二節 各科事業ノ概要	四五	第一 在外研究生規程	六六
一 漁業基本調査部	四五	第二 戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外留學生等定員ニ關スル勅令	六七
二 漁撈試験部	四七	第三 在外研究生	六八
三 養殖試験部	四九	第七 生 徒	
四 製造試験部	五一	第一節 在學生徒	六九
五 化學試験部	五三	第一 生徒氏名	六九
六 漁船機械試験部	五六	第二 在學生徒府縣別	七三
七 編纂部	五九	第二節 卒業生	七六
八 試驗鑑定及設計等ノ依頼	五九	第一 卒業生氏名	七六
第四 本所敷地建物及諸設備		第二 卒業生狀況	七八
第一節 廳舎	六〇	附 錄	
第二節 諸設備	六一	一 職員移動	一一三
一 船艇	六一	二 學友會	一一四
二 實習場、實驗場及試驗地	六一	三 財團法人研究獎勵會	一一五
三 實驗室其他ノ設備	六三	四 試驗報告及其他刊行物	一一七
第五 圖書及標本			
第一節 圖書及標本ニ關スル規定	六四		

水産講習所一覽

第一 沿革及組織

第一節 沿革概要

本所ハ明治三十年三月二十二日勅令第四十七號水産講習所官制ニ基ツキ創設セラレ専ラ水産ニ關スル傳習及試験ヲ行フ

傳習事業ハ本所創立ノ際水産傳習所ノ生徒ヲ引繼ケリ始メ大日本水産會ハ水産教育ノ必要ニ鑑ミ明治二十二年水産傳習所ヲ起シ同二十六年農商務省ヨリ生徒養成ノ囑託ヲ受ケ修業年限ヲ三箇年ニ延長シ次テ文部省ヨリ水産科教員養成ヲ囑託セラレ教務ノ擴張ヲ行ヒシカ後本所ノ官設ト爲ルニ及ンテ遂ニ之ヲ閉所セリ本所設立當時講習科入學程度ハ尋常中學第三學年修業以上ト爲シ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テ漁撈、製造、養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケタルモ同三十三年講習科ヲ本科ト改稱スルニ及ヒ入學程度ヲ中學卒業以上ト爲シ漁撈、製造、養殖ノ三科中其一ヲ選ミテ入學セシムルコトト爲シ同四十四年入學者資格ヲ中學卒業、專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及道府縣立水産學校卒業生等トシ又水産家及水産學校卒業生ノ優先入學ヲ許シ可成實業者ヲ教養スルノ方針ヲ取レリ此他現業科ヲ設ケテ現業ヲ講習セシメ(明治三十年)又水産教員(同三十五年)製鹽技術員(同三十八年)特殊技術員(同四十二年)ノ養成ヲ爲シ且本科卒業生ノ爲研究科ヲ設ケ、尙ホ本科漁撈科卒業生ノ爲メ同三十三年ニ遠洋

漁業科ヲ設置セリ、卒業者及現業科在學者ノ資格ニ關シテハ明治三十二年文部省ハ文官任用令第三條ニ依リ本所講習科ヲ官公立中學校ト同等以上ノ者ト認定シ同四十年遞信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種運轉士又ハ乙種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セリ、大正五年九月本所ノ規則及規程ヲ更訂シ從前ノ學期及學年ヲ變更シテ每年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ヲ廢シ單ニ必要ニ應シテ短期講習ヲ行フコトトセリ

試驗事業ハ最初ハ傳習ノ傍一二製造ニ關スル試驗ヲ施行スルニ過キサリシモ明治三十七年試驗規程ノ制定ニ依リ水產生物、漁撈、養殖、化學、製造、漁船及機械ニ關スル事項ニ付調査及試驗研究ヲ爲スコトト爲リ且定員經費共ニ之ヲ増加シ進ンテ試驗鑑定ニ關スル當業者其他ノ依頼ニ應スルコトトシ爾來試驗事業ノ擴張ヲ圖リ大正三年三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調査部、漁撈試驗部、養殖試驗部、製造試驗部、化學試驗部、漁船機械試驗部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ傳習調査及試驗ニ關スル報告其ノ他ノ編纂ヲ行フコトトシ尙農商務省令ヲ以テ試驗規則及種苗拂下規則ヲ發布スルニ至レリ

設備ニ就テハ發舍ハ明治三十年本所設立ノ當時ニ於テ舊水產傳習所ヨリ之ヲ引繼キテ充用シ同三十三年ニ至リ地ヲ深川區越中島ニトシテ工ヲ起シ同三十五年竣工セリ實習場、實驗場及試驗地ハ深川區冬木町養魚試驗池、神奈川縣小田原實習場、千葉縣館山實習場及同灣内高島臨海實驗場等アリ又船舶ハ明治三十四年快鷹丸(百四十噸)ヲ新造シ同三十九年同船ノ朝鮮迎日灣ニ於テ遭難スルニ及ビ同四十一年雲鷹丸

(四百四十八噸)ヲ新造シ同四十年隼丸(二十八噸)ヲ新造シテ生徒實習ニ供シタルカ漸次其ノ範圍ヲ擴張シテ漁場及海洋ノ調査研究竝ニ漁業試驗ニモ使用スルニ至レリ、大正六年十月一日風水害ニ依リ本所建築物ハ總テ多少ノ被害アリ殊ニ後方面ノ諸建築物ハ殆ント倒塌シタルヲ以テ目下復舊工事中ナリ
所長ハ本所設立當時ハ官制ニ依リ水產局長之ニ任シ別ニ監事ヲ置キテ事務ヲ執ラシメ水產局長藤田四郎、華原清風、竹内正志、牧朴真相踵テ所長タリ明治三十六年官制改正ニ伴ヒ監事ヲ廢シ專任所長ヲ置クコトトナリ前監事松原新之助所長ニ任シ同四十四年一月松原新之助農商務技師ニ轉シ農商務技師下啓助之ニ代リ大正四十四年十二月所長下啓助農商務技師ニ轉シ水產局長松崎壽三所長心得ヲ命セラレ同六年二月三日松崎壽三本官ヲ免セラレ技師伊谷以知二郎之ニ代ル

第二節 官制及事務規程

一 水產講習所官制

明治三十年三月二十二日
勅令第四十七號

(沿革) 明治三十一年一月勅令第二八九號、三十三年三月同第七二號、三十四年四月同第四二號、三十六年一月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五五號、大正二年六月同第二〇四號改正

官制及事務規程

第一條	水產講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水產ノ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條	水產講習所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長	一 人
技師專任	十 人
教授專任	四 人
技手專任	九 人
助教專任	四 人
書記專任	五 人

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 (削除)

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

第六條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ニ従事ス

第八條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第十條 (削除)

一一 水産講習所處務規程

明治三十七年一月二十三日
訓令第三三號
(沿革) 明治四一年一月訓令第四〇號改正

第一條 水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主
管事務ノ處理ニ付キ其責ニ任ス

第二條 水産講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏

業基本調査部、漁撈試験部、養殖試験部、製造試験部、化學試験部、漁船機械試験部、編纂部、教務課及庶務課ヲ置キ庶務課ニ文書、會計、圖書標本ノ三掛ヲ置ク
課ニ課長、部及掛ニ主任ヲ置ク

第二條 各傳習部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 水産講習所傳習規程ニ依リ其ノ部ニ屬スル傳習ニ關スル事務

二 其ノ部ニ屬スル備夫ノ監督ニ關スル事項

三 其ノ部ニ屬スル器具、機械ノ保存及整理ニ關スル事項

四 其ノ部ニ屬スル實習場及船艇ニ關スル事項

第三條 漁業基本調査部、各試験部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 試験規則、種苗拂下規則ニ依リ各其ノ部ニ屬スル調査試験ニ關スル事項

二 其ノ部ニ屬スル備夫ノ監督ニ關スル事項

三 其ノ部ニ屬スル器具、機械ノ保存及整理ニ關スル事項

四 其ノ部ニ屬スル實習場、試験地及船艇ニ關スル事項

第四條 編纂部ニ於テハ傳習、調査及試験ニ關スル報告其ノ他ノ編纂事務ヲ掌ル

第五條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 生徒ノ募集及入退學ニ關スル事項

二 生徒ノ試験及卒業ニ關スル事項

三 生徒ノ寄宿舎入退ニ關スル事項

四 生徒及寄宿舎ノ風紀、衛生其ノ他ノ取締ニ關スル事項

官制及事務規程

ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第三條 水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上
所中處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設
クルコトヲ得

第四條 水産講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ
農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ

第五條 水産講習所長ハ講習及試験ノ成績ヲ審査
編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

第六條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付ス
ヘキ證書ニ署名スヘシ

第七條 水産講習所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳
ニ照會往復スルコトヲ得

第八條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項
ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

一二 水産講習所處務細則

大正三年三月二十五日

第一章 事務分掌

第一條 水産講習所ニ漁撈傳習部、製造傳習部、養殖傳習部、漁

五 生徒ノ實習旅行ニ關スル事項

六 生徒ノ賞罰ニ關スル事項

七 生徒ノ願届ニ關スル事項

八 傳習科目及時間配當ニ關スル事項

九 講堂、教室、生徒控所及教具ノ整理、取締ニ關スル事項

十 參觀人ニ關スル事項

十一 教務ニ關スル照會往復

第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

文書掛

一 御眞影ニ關スル事項

二 所員ノ進退、身分、出張及巡回ニ關スル事項

三 所長ノ官印及所印ノ管守ニ關スル事項

四 公文書類ノ接受、發送、保存及編纂ニ關スル事項

五 儀式ニ關スル事項

會計掛

一 經費及諸收入ノ豫算、決算及會計ニ關スル事項

二 官有財産及物品ニ關スル事項

三 營繕ニ關スル事項

四 守衛、給仕、小使等ノ備罷、賞與、監督ニ關スル事項

五 宿直ニ關スル事項

六 所内取締ニ關スル事項

圖書標本掛

- 一 圖書標本ノ出納、整理及保存ニ關スル事項
- 二 圖書目錄ノ編纂ニ關スル事項
- 三 圖書標本委員會ニ關スル事項
- 四 藏書印ノ管守ニ關スル事項
- 五 圖書標本ノ寄贈ニ對シテ謝狀發送ニ關スル事項
- 六 圖書標本室ノ取締ニ關スル事項
- 七 報告書類ノ交換及配布ニ關スル事項

第二章 文書取扱

- 第七條 庶務課ニ於テ接受シタル公文書類ハ文書掛ニ於テ之ヲ開封シ(親展文書ヲ除ク)接受ノ年月日及受付ノ番號ヲ附シ受付簿ニ記入シ所長ノ檢印ヲ受ケ主管ヲ區別シ各課長又ハ部主任ニ交付スヘシ
- 前項ニ依リ交付ヲ受ケタル書類ハ各主任ニ於テ其ノ處分意見ヲ附シ又ハ之ヲ成案ト爲シ庶務課長ヲ經テ所長ノ判決ヲ受ケ文書掛主任ニ交付スヘシ
- 第八條 接受シタル公文書ニ物品ノ添附セル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ帳簿ニ記入シ受領者ノ檢印ヲ受ケヘシ
- 第九條 文書掛主任ニ於テ所長判決済ノ成案ニシテ發送ヲ要スルモノヲ受ケタルトキハ淨書校合ヲ爲シ番號ヲ附シ帳簿ニ記入ノ上發送ノ手續ヲ爲スヘシ
- 發送ヲ終リ又ハ發送ヲ要セサル成案文書ハ保存ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 所員名ヲ以テ發送スル文書ハ必ス封筒ニ官氏名ヲ記シ主

- 任ノ檢印ヲ受ケヘシ
- 電話ヲ以テ特ニ通話料ヲ要スル通信ヲ爲サントスル場合ニ於テハ所長ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第十一條 所員ノ進退及賞罰ニ關スル事項ハ之ヲ機密事務トシテ取扱フヘシ
- 第十二條 公文書ハ完結ノ程度左ノ類別ニ依リ之ヲ會計年度毎ニ編纂保存スヘシ
 - 一 永久保存
 - 二 二十年保存
 - 三 十年保存
 - 四 五年以上十年以内参照ノ必要アリト認ムル文書
 - 五 一年以上五年以内参照ノ必要アリト認ムル文書
 - 六 一年保存
 - 七 一時ノ措辦ニ係ル文書

第三章 會計

- 第十三條 課、部又ハ掛ニ於テ物品ノ購入、修繕又ハ人夫ノ備入ヲ要スルトキハ各取扱主任ニ於テ請求書ニ其ノ員數及必要ノ理由ヲ記シ當該課長又ハ各部主任ノ檢印ヲ受ケ庶務課會計掛ニ廻付スヘシ

第四章 雜則

- 第十四條 重要ナル職務、試験又ハ庶務ニ關シ必要アリト認ムルトキハ所長ハ教官、技術官、各課長、主任又ハ關係職員ノ會議ヲ開クコトアルヘシ
- 第十五條 所員ハ出勤時限迄ニ必ス出頭シ自ら出勤簿ニ捺印スヘシ遲參ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ早退セントスルトキ亦同シ
- 第十六條 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出勤スルコト能ハサルトキハ速カニ届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ及フトキハ療養期間ヲ記載シタル醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第十七條

- 看護婦者、墓參、轉地療養其ノ他私事ノ爲旅行セントスルトキハ其ノ期間及旅行先ヲ記載シタル願書ヲ差出シテ許可ヲ受ケヘシ
- 轉地療養ノ爲ノ願書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第十八條 出張、巡回又ハ轉勤ノ命ヲ受ケタル者ハ其ノ出發又ハ歸所ヲ所長ニ届出ツヘシ
- 第十九條 忌服ヲ受ケタルモノハ其ノ事由及死亡者トノ親族關係ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ
- 第二十條 父母ノ祭日ニ出勤セサル者ハ讓メ其ノ旨ヲ届ケ出ツヘシ

第三節 職員

所長	伊谷以知二郎
技師	
蕃殖保護論	漁業基本調査部主任
植物學、同實驗	養殖試驗部主任
水産通論	
漁撈論(漁具)漁撈大意	漁撈試驗部主任
職員	
	農商務技師 北原 多作
	兼農商務技師 岡村金太郎
	理學博士 伊谷以知二郎
	兼農商務技師 川合角也
	漁撈傳習部主任
	生徒取締主任

漁撈論(漁法)
養殖論(鹹水養殖)、動物
學同實驗

漁撈試驗部員
養殖試驗部員

漁船論(西洋型)、製圖
法 規

漁船機械試驗部主任

漁撈論(漁法)
養殖論(淡水養殖、水質)
養殖法實習

漁撈試驗部員
養殖試驗部員

製造論(食品)
(在外研究生)

製造試驗部主任

經濟
漁獲物處理法、製造論
(貯藏)、機械學、製圖

教授

漁業基本調查部員
漁船機械試驗部員

漁場論(測量術)、養殖
(土木)

養殖試驗部員

農商務技師 下田 奎一

理 學 士 妹尾 秀實

兼農商務技師
兼特許局審査官
工 學 士 春日 信市

農商務技師 三善 春雄

小瀬 次郎

日暮 忠

稻葉安四郎

小野辰次郎

農 學 士 山 川 洵

理 學 士 淺野彦太郎

兼農商務書記官
法 學 士 三井 米松

兼農商務技師
兼特許局審査官
工 學 士 星野 三郎

兼農商務技師
工 學 士 橘 英三郎

製造論(食品)

技 手

製造傳習部主任
生徒 取 締

平野 茂吉

漁船論(日本型)、運用實
習、網釣具實習、製圖

漁撈試驗部員

關根 磯吉

漁場論(海洋)、養殖論
(餌料)

漁業基本調查部員
養殖試驗部員

堀 久俊

卷殖魚介類
利用法

漁撈試驗部員

山本 由一

漁船論(機關)

漁業基本調查部員
養殖試驗部員

石原 虎司

製造論(食品)

製造試驗部員

北川 政次郎

雲鷹丸運轉士

山本 靜一

食品、分析實驗

漁船機械試驗部員

森瀬 清一郎

製造論(化製品)

化學試驗部員

山本 祥吉

助 教

谷村 重忠

製造論(化製品)、分析
實驗

化學試驗部員

野元 俊一

職員

製造論(食品、化粧品)
細菌實驗、漁具(染料)
植物學、同實驗
製造論(食品)

書記

化學試驗部員
養殖試驗部員
製造試驗部員

圖書標本掛主任

一〇
木村金太郎
東道太郎
鈴木直辰

囑託

魚病研究及魚種改良試驗
冷凍試驗及物理學ニ關スル調査
機械ニ關スル調査

庶務課會計掛主任
庶務課
雲鷹丸乘組
教務課
庶務課

東京帝國大學農科大學教授 石川千代松
東京帝國大學農科大學教授 長岡半太郎
東京帝國大學農科大學教授 井口在屋
東京帝國大學農科大學教授 奧健藏

水產動物學

生物調査

化學ニ關スル事項

航海術、運用術
製造論(貯藏)、魚病論
細菌實驗

漁業基本調査ニ關スル事項
漁業基本調査ニ關スル事項
漁場調査
細菌及貯藏
水産應用機械ニ關スル試驗及調査

海洋學ニ關スル研究事項、漁業基本調査ニ關スル事項

法規
氣象學

水産講習所新營及修繕工事設計監督
電氣應用漁具試驗

物理學、同實驗

職員

東京帝國大學農科大學教授 岸上鎌吉
東京帝國大學農科大學教授 鈴木梅太郎
東京帝國大學農科大學教授 岡田武松
東京帝國大學農科大學教授 丸橋彦三郎
東京帝國大學農科大學教授 岸榮太郎
東京帝國大學農科大學教授 西村寅三
東京帝國大學農科大學教授 加茂正雄
東京帝國大學農科大學教授 寺田寅彦
東京帝國大學農科大學教授 川久保修吉
東京帝國大學農科大學教授 吉田得一
東京帝國大學農科大學教授 榎本惣太郎
東京帝國大學農科大學教授 西健
東京帝國大學農科大學教授 中村左衛門太郎

物理學、同實驗、數學、簿記

漁撈論(漁具)

海洋學、漁場論(湖沼)

救急療法

英語

貝殼珊瑚彫刻

英語、獨逸語

湖沼學、植物學、同實驗

製造論(化製品)、化學

化學

魚病論、動物學、同實驗

水産貿易

動物、發生、動物及發生實驗

貝殼珊瑚利用ニ關スル事項

海苔色素試験

酵素ニ關スル試験

體育教師

水産物色素晒白其他化學試験

赤潮魚病其他細菌ニ關スル調査

魚病調査

丸沼外ニ沼養殖試験ニ於ケル試驗事項

雲鷹丸機關長

魚種改良試驗及魚病調査ニ關スル事項

雲鷹丸運轉士事務取扱

子

爵

池上泰次郎

中村利吉

田中阿歌麿

北村銀平

檜山剛三

淺井勝治郎

相原一郎

中野治房

松井秀三郎

檜山義質

池田晏平

小南清

石井重美

佛川悌之輔

古橋余四郎

大槻清三郎

秋山吉五郎

寺尾捨新

第二傳習

第一節 規則及規程

一 水産講習所傳習規則

明治三十年四月

(沿革) 明治三十三年一月告示第七號、同三十七年四月

同第九〇號、同四十四年三月同第一九九號、大正二年

四月同第一〇三號、同二年七月同第二三三號同五

年九月同第一七〇號改正

第一條 本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ講習ヲ爲ス

第二條 本所ニ本科、遠洋漁業科、研究科 別科ヲ置ク

本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分ツ

第三條 本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ

各科ニ必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ習

得セシム

研究科ニ於テハ既修學科又ハ其ノ關係學科ヲ專

規則及規程

攻セシム

別科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ノ三科中種目ヲ限リ專ラ技術ヲ習得セシム但シ其ノ種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第四條 修業年限ハ本科及遠洋漁業科ハ三箇年研究科ハ三箇年以内別科ハ一箇年トス但シ遠洋漁業科及別科ノ修業年限ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 本所ハ必要ト認ムルトキハ第二條ノ外短期講習ヲ行ヒ水産ニ關スル特殊ノ種目ニ就キ學理及技術ヲ習得セシム
前項講習ノ種目及期間ハ水産講習所長ニ於テ其ノ都度之ヲ定ム

第六條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第七條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

- 一 本科ニ在リテハ左記各號ノ一ニ該當スルモ
- (イ) 中學校卒業者
- (ロ) 文部省專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者
- (ハ) 文部省專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ該當スル者

- (ニ) 道府縣立水產學校本科卒業者又ハ本所ノ適當ト認ムル水產學校及甲種程度ノ實業學校ノ水產科卒業者
- 二 遠洋漁業科ニ在リテハ本科漁撈科卒業者又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者
- 三 研究科ニ在リテハ本科卒業者
- 四 別科ニ在リテハ左記各號ノ一ニ該當スルモ

一四

(イ) 水產學校本科又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル水產學校別科若ハ府縣立水產講習所ノ卒業者

- (ロ) 甲種農學校又ハ府縣立中學校若ハ之ト同等以上ノ認定アル私立中學校ノ卒業者
- (ハ) 二箇年以上水產ノ業務ニ従事シタル者若ハ水產家ノ子弟
- (ニ) 其ノ他本所ノ適當ト認ムル履歴ヲ有スル者

第五條ノ規定ニ依ル短期講習志願者ノ資格ハ水產講習所長ニ於テ其ノ都度之ヲ定ム

第九條 本科ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書、遠洋漁業科又ハ研究科ヲ卒ヘタル者ニハ證明書、別科ヲ卒ヘタル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第十條 學術優等品行方正ニシテ他ノ生徒ノ模範トナルヘキ者ハ特待生トス

第十一條 本所ノ規則、告示又ハ命令ニ違反シ若

ハ怠慢不品行其ノ他生徒タル本分ニ背クノ行爲アル者ハ懲罰ヲ加フ

第十二條 學業ヲ怠リ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス

第十三條 本規則施行ニ關スル規程ハ水產講習所長之ヲ定ム

附則

本規則ハ大正五年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス
大正五年九月十一日ヨリ始マル學年ハ大正六年三月三十一日ヲ以テ一學年トシ之ヲ一箇年ト見做ス

本規則施行前ニ入學シ現ニ在學中ノ現業科生徒ハ別科生徒トス

二 水產講習所傳習規則

明治三十年四月

(沿革) 明治三十一年一月、同三十三年一月、同三十三年三月、同三十三年九月、同三十七年四月、同四十四年三月、大正二年四月、同六月、同五年九月、同五年十二月改正

第一章 本科規程

第一條 本科ノ各學科課程左ノ如シ

學科目	學年學期			漁			撈			科		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
水產通論	一	一	一									
漁撈論	二	二	二									
漁具論	三	三	三									
漁場論	二	二	二									
漁獲物處理法	三	三	三									
航海術	三	三	三									
航海術	三	三	三									
運海術	三	三	三									

規則及規程

學科目	養殖學			水產通論			淡水養殖			魚病學			動物學		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
第一學期															
第二學期															
第三學期															
第一學期															
第二學期															
第三學期															
第一學期															
第二學期															
第三學期															

習實及驗實	製分物細	動物、植物	計	外流撈國	法規及經濟	數學及簿記	氣象學	物理學	植物學	動物學	學水產化學		
											第一學期	第二學期	第三學期
第一學期													
第二學期													
第三學期													
第一學期													
第二學期													
第三學期													
第一學期													
第二學期													
第三學期													

化細論造製	無機、有機	商貯化食	水產通論	學科目	製		
					第一學期	第二學期	第三學期
第一學期							
第二學期							
第三學期							
第一學期							
第二學期							
第三學期							
第一學期							
第二學期							
第三學期							

習實及驗實	流場觀測氣象及	流船製圖	操艇、製作、生物	計	外國語	救急療法	蕃殖保護論	法規及經濟	數學及簿記	海洋及氣象學	物理學	植物學	動物學	流船論	船體		
															第一學期	第二學期	第三學期
第一學期																	
第二學期																	
第三學期																	
第一學期																	
第二學期																	
第三學期																	
第一學期																	
第二學期																	
第三學期																	

動物學	生理	一																				
	衛生																					
植物學	普通	二																				
	水生																					
化學	有機	三																				
	無機																					
物理學	保護論	三																				
	學																					
海洋學	氣象學	三																				
	論																					
法規及經濟	簿記	三																				
	論																					
外語	大	二																				
	意																					
實習及實驗	動物、植物	四																				
	細菌																					
製造大意	分	一																				
	析																					

- 一 第三學年ニ於テハ定時以外ニ於テ題目ヲ定メテ各自研究ヲ爲サシム
- 二 外國語ハ英語トシ隨意科トシテ獨逸語ヲ課ス
- 三 本表ノ外各科必要ト認ムル科目ニ就キ課外講義ヲ課スルトアルヘシ
- 四 體育トシテ各科ニ擊劍柔道及操艇水泳等隨時ニ之ヲ課ス

- 五 各科第三學年ノ學科ノ講義ハ實習ノ都合ニ依リ多少變更スルコトアルヘシ
- 二 學期及休業
- 第一學期 一學年ヲ分テ三學期トス
- 第一學期授業ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至リ第

二學期授業ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第三學期授業ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

各學期授業以外ノ期間ニ於テハ實習ヲ課ス但シ實習ノ都合ニ依リ休業スルコトアルヘシ

第三條 休業日左ノ如シ

- 一日 曜日
- 一日 大祭祝日
- 一 記念日 三月二十二日

三 入學

第四條 入學試業ハ學年開始前ニ於テ之ヲ行フ

第五條 入學試業ニ合格シタル者ハ其ノ成績ノ順位ニ依リ入學ヲ許可ス但シ水産業者若ハ其ノ子弟又ハ道府縣立水産學校本科卒業業者ハ銓衡ニ依リ優先入學セシムルコトアルヘシ

第六條 入學試業ハ中學卒業ノ程度ニ依リ左ノ學科ヲ試験シ及體格検査ヲ行フ

規則及規程

一 國語漢文 一 化學 一 英語

一 動物學 一 物理學 一 植物學

一 作文 一 地理 一 數學

前項ノ學科ハ場合ニ依リ其ノ一科又ハ數科ノ試業ヲ行ハサルコトアルヘシ

第七條 入學志願者ハ漁撈、製造、養殖ノ三科中其ノ一科ヲ撰擇スヘシ

入學ノ許可ヲ受ケタル後ハ他ノ科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後轉科ヲ望ム者ハ銓衡ノ上他科ノ第一學年ニ編入スルコトアルヘシ

第八條 入學志願者ハ書式第一號ノ入學願書ニ左記各號ノ書類及第九條ノ入學試業料ヲ添付シテ本所長ニ差出スヘシ

- 一 書式第二號ニ依ル履歷書
- 二 傳習規則第八條第一項第一號ノ(イ)又ハ(ハ)若ハ(ニ)ニ該當スル者ハ當該學校長ノ卒

業證明書若ハ卒業豫期證明書在學中各學年ノ
席次及成績表又同條第一項第一號ノ(ロ)ニ該
當スル者ハ之ヲ證明スル書類

三 第五條但書ニ該當スル者ハ書式第三號ニ依
ル證明書

四 受験當日前六箇月以内ニ單身脫帽ノ上半身
ヲ撮影シタル手札形寫真但シ裏面ニ志望學科
名及族籍氏名竝ニ生年月日ヲ自書スヘシ

第九條 入學試業料ハ金三圓トシ收入印紙ヲ以テ
之ヲ納ムヘシ既收ノ場合ニハ之ヲ返還セス

第十條 退學シタル者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ
上學年ノ始メニ於テ原級又ハ原級以下ニ編入ス
ルコトアルヘシ

四 在 學

第十一條 入學ヲ許可セラレタル者ハ四月十日迄
ニ書式第四號ニ依ル在學證書ヲ本所長ニ差出ス
コトヲ要ス正當ノ事由ニ因ラスシテ其ノ手續ヲ

遅延スル者ニ對シテハ入學ノ許可ヲ取消スコト
アルヘシ

第十二條 保證人ハ二人トシ内一人ハ入學者ノ父
兄親戚又ハ其ノ入學者ニ學資ヲ支給スル者他ノ
一人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在住シ公民權ヲ有
スル者若ハ本所ノ適當ト認ムル者タルコトヲ要
ス

本所ハ保證人ニシテ其ノ責務ヲ盡ササルモノト
認メタルトキハ之カ變更ヲ命スヘシ

第十三條 保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺
クニ至リタルトキハ遲滞ナク之ヲ改メ轉居旅行
改印等ノ場合ニ於テハ其ノ都度直ニ之ヲ届出ツ
ヘシ

第十四條 生徒ハ所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

五 缺席、缺課

第十五條 病氣其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ遲
刻又ハ缺課スル者ハ直ニ本人ヨリ之ヲ届出テ、

缺席スル者ハ其ノ事由ヲ記シ通學生ハ保證人連
署ヲ以テ寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ速ニ之
ヲ届出ツヘシ但シ疾病ニ因リ引續キ缺席一週間
以上ニ互ルトキハ通學生ハ醫師ノ診斷書、在舍
中ノ者ハ本所囑託醫ノ證明書ヲ其ノ届書ニ添付
スヘシ

入スルコトアルヘシ

七 特 待

第十九條 特待生ノ特待期間ハ次ノ學年間トス

第二十條 特待生ニハ賞金又ハ賞品ヲ給ス

第二十一條 特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル行
爲アリト認ムルトキハ直ニ特待ヲ停止ス

八 懲 罰

第二十二條 懲罰ハ戒飭、停學及放所トシ所爲ノ
情狀ニ依リ之ヲ科ス

九 退學及除名

第二十三條 疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ退學セ
ントスル者ハ其ノ事由ヲ記シ保證人連署ヲ以テ
本所長ニ願出ツヘシ

第二十四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除
名ス

- 一 數々遅刻缺課又ハ缺席スルモノ
- 二 一箇月以上無届缺席スルモノ

六 休 學

第十六條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ一學期以上修
學スルコト能ハサルトキハ許可ヲ受ケ其學年間
休學スルコトヲ得

第十七條 休學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事
由ヲ記シ保證人連署ヲ以テ本所長ニ願出ツヘシ
其ノ疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘ
シ

第十八條 休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入
ス但シ陸軍兵役ニ服スル者ニシテ服役滿期後直
ニ就學セントスル者ハ其ノ學年ニ於テ原級ニ編

- 三 數々戒飭ノ處分ヲ受クルモノ
- 四 停學ノ處分三回ニ及フモノ
- 五 同一ノ學級ニ於テ試業不合格二回ニ及フモノ
- 六 成業ノ見込ナキモノ

十 試業、進級及卒業

第二十五條 學科ノ試業ハ一學期間一回以上之ヲ行フ

第二十六條 試業ニ缺席シタル者ハ左ノ場合ヲ除

- クノ外追試業ヲ施行セス總テ零點ヲ付ス
- 一 一學期ノミ課シタル學科ハ缺席ノ理由正當ナル場合ニ限り他學科ノ成績勤怠等ヲ斟酌シ詮議ノ上追試業ヲ施行ス
- 二 病氣又ハ止ヲ得サル事故ニ因リ試業ヲ受クルコト能ハサル者ハ其ノ理由ノ明瞭ナル場合ニ限り該學年中ニ得タル他ノ學期試業點ヲ標準トシ勤怠ヲ參酌シテ認定點ヲ付シ該學期試

業點ニ代フルコトアルヘシ

第二十七條 最終學年ノ試業ハ其ノ學年中ニ教授

シタル學科ノ外既修ノ學科中ニ就キ卒業試問ヲ行ヒ又必要ト認ムルトキハ卒業論文ヲ提出セシメテ之ヲ行フ

實驗及實習ノ評點ハ平生ノ成績、勤怠及報告書ニ依リ之ヲ定ム

定期ノ實驗、及實習ヲ缺キタル場合ニ於テハ卒業ヲ延期スルコトアルヘシ

第二十八條 試業ノ評點ハ一百ヲ以テ定點トス

第二十九條 各學期ノ終リニ於テ其ノ學期間ニ於ケル學科及實驗、實習ノ評點ヲ計算シ其ノ平均點ヲ以テ學期試業ノ得點トス

第三十條 各學年ノ終リニ於テ當該學年ノ各學科及實驗、實習ノ學期試業ノ評點ヲ合計シ之ヲ平均シタルモノヲ以テ各學科及實驗、實習ノ得點トシ其ノ得點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ該學

年ノ得點トス

最終學年ニ於テハ他ノ學年ニ準シテ平均點ヲ求め之ニ實習點、卒業試問及卒業論文ノ評點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ得點トス

第三十一條 學年ノ成績各學科及實驗、實習並ニ卒業試問、卒業論文ノ得點五十點、平均六十點以上ヲ得タル者ハ進級又ハ卒業セシム

第三十二條 生徒ノ席次ハ學年試業ノ得點ニ依リ卒業生ノ席次ハ各學年試業ノ得點ヲ合計シテ之ヲ定ム

第三十三條 勤怠及品行ノ良否ハ評點、席次及進級ノ參考ニ資ス

第三十四條 最終學年ノ試業ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十五條 在學中學業優等品行善良ナル者ニハ特ニ優等卒業證書ヲ授與ス

第二章 遠洋漁業科

規則及規程

第三十六條 遠洋漁業科ニ入學セントスル者ハ書

式第一號ニ準シタル願書ヲ本所長ニ差出スヘシ入學者ハ銓衡ノ上之ヲ許可ス

第三十七條 遠洋漁業科生徒ハ本所實習船又ハ内國若ハ外國ノ漁船ニ乗組ミ漁業、航海、運用及其ノ他遠洋漁業ニ必要ナル技術ヲ練習セシム但シ時宜ニヨリ期間ヲ定メ本所ニ於テ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第三十八條 疾病其ノ他止ヲ得サル事由ニ因リ修業ニ堪ヘ難キ者ハ期間ヲ定メテ休學ヲ願出ツヘシ休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第三十九條 乗船實習中ハ水夫漁獵長及船長ノ爲スヘキ作業並ニ職務ニ就キ實習スヘシ

第四十條 乗船實習中ハ漁撈日誌ヲ調製シ毎日ノ觀測、操業、漁況其ノ他必要ノ事由ヲ記入シ船長ノ認印ヲ受ケ又一事項ニ付實習調査ヲ終リタルトキハ其ノ報告書ヲ作製スヘシ
前項ノ漁撈日誌又ハ報告書ハ速ニ之ヲ本所長ニ

差出スヘシ實習中ト雖檢閲ノ必要アルトキハ日誌ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第四十一條 下船中練習セシムヘキ事項ハ隨時之ヲ定ム

第四十二條 修業ヲ完了シタルトキハ漁撈日誌、報告書及成績ヲ考查シ證明書ヲ授與ス但シ必要ニ應シ特ニ試業ヲ行フコトアルヘシ

第四十三條 本章ニ定ムルモノヲ除クノ外第一章ノ規定ハ之ヲ遠洋漁業科ニ準用ス

第三章 研究科

第四十四條 研究科ニ入學セントスル者ハ書式第五號ニ依ル願書ヲ本所長ニ差出スヘシ

入學者ハ銓衡ノ上之ヲ許可ス

第四十五條 研究科生徒ハ教官ノ指導ヲ受ケ本所ニ於テ研究ニ從事シ又ハ必要ニ應シ學科ヲ指定シテ聽講セシム但シ場合ニ依リ他ノ場所ヲ定メ研究ニ從事セシムルコトアルヘシ

第四十六條 研究ヲ結了シタルトキハ研究事項ニ就キ論文ヲ提出スヘシ

第四十七條 論文ヲ考查シ相當ノ資格アリト認ムル者ニハ證明書ヲ授與ス

第四十八條 本章ニ定ムルモノヲ除クノ外第一章及第二章第三十八條ノ規定ハ之ヲ研究科ニ準用ス

第四章 別科

第四十九條 入學志願者ハ願書ニ書式第六號ニ依ル體格検査書ヲ添ヘ本所長ニ差出スヘシ

第一章第八條ノ規定ハ前項願書ノ場合ニ之ヲ準用ス

入學者ハ銓衡ノ上之ヲ許可ス

第五十條 實技ヲ習得セリト認メラル、者ニハ證書ヲ授與ス

第五十一條 本章ニ定ムルモノ、外第一章ノ規定ハ之ヲ別科ニ準用ス

大正五年九月十一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル學科及課程ハ別ニ之ヲ定ム

明治四十三年三月特殊技術員養成科規程ハ之ヲ廢止ス

書式

○第一號(用紙美濃)

收入 入學願書 受験地何々(朱書)

- 私儀御所本科何々科(別科)へ入學(何々専修)志願ニ付御許可相成度左記書類相添此段相願候也
- 履歷書(書式第二號)
- 卒業證明書若ハ卒業豫期證明書又ハ檢定合格證明書
- 學業成績證明書
- 業務證明書(書式第三號ニ準シ優先入學資格者及別科志願者ニ限ル)
- 寫眞
- 體格検査書(書式第六號別科志願者ニ限ル)
- 本籍族稱 道府縣市郡町村番地 華土族平民戸主又ハ何某何男弟等
- 現住所 道府縣市郡町村番地寄留又ハ何某方同居止宿等
- 年月日 何 某 何年何月何日生

規則及規程

○第二號(用紙美濃)

履歷書

本籍族稱	家業	氏名	出生年月日	學業	兵役	職	賞罰
道府縣市郡町村番地華土族平民戸主又ハ何某何男弟等	何業(戸主ノ家業ヲ記ス家業ナキモノハ其趣ヲ記スヘシ)	何某(片假名ニテ傍訓ヲ附スベシ)	明治 年 月 日生	一何年月日官公立何學校ニ入り何學修業何年月日卒業或ハ何々ニ付中途退學或ハ何年間修業等 一何年月日ヨリ何年月日迄何處何某ニ從ヒ何年間何學修業(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫)	來何年徵兵適齡 何年月日ヨリ何年月日迄何師團何旅團何兵何隊ニ入り陸軍現役ニ服セリ 何年月日何處ニ於テ徵兵検査ヲ受ケ何々ニ付國民軍ニ編入セララル等	ハ現今在職中等 何年月日何業ニ從事何年月日廢業或ハ現今從事何年月日ヨリ迄何月間何々漁業會社何々丸ニ乘組或ハ何々會社工場、養殖場ニ入り何業實習等	何年月日何所ニ於テ何々ニ付賞罰ヲ受ケタル等

水産講習所長宛
備考 遠洋漁業科及別科ニハ收入印紙貼用ヲ要セス
收入印紙貼用ニ就テハ別項入學試業料ニ關スル條參照

右之通相違無之候也

○第三號

業務證明書

道府縣市町村番地
華士族平民戸主又ハ何某何男弟等

氏

名

何年何月何日生

本人又ハ父兄何某ハ何年ヨリ何處ニ於テ水産業
何々營業又ハ何年何月ヨリ何年何月迄水産業何
々ニ從事シタル者ニ相違無之候也

市町村長若ハ業務主

何

某印

年月日

○第四號(用紙美濃)

收入
印紙

在學證書

私儀今般何々科へ入學御許可相成候ニ付テハ御
現則等固ク遵守シ専心勉勵卒業ニ至ル迄猥リニ
退學致ス間敷仍テ在學證書如件

本籍家業
某男弟等

年月日

何

某印

何年何月何日生

現住所

右某儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等
固ク相守ラセ且本人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ
於テ引受可申ハ勿論御所御趣意ノ旨ヲ體シ平素
督勵可致候仍テ保證如斯候也

族籍職業(學生ノ父兄親戚又ハ學費支
學生トノ關係(給人タル關係ヲ記スヘシ)

保證人

何

何年何月何日生

現住所
族籍職業(學生トノ關係)

保證人

何

何年何月何日生

水産講習所長某殿

前記保證人

○第五號(用紙美濃)

入學願書

一何々(研究ノ事項)

私儀何年何月御所何科卒業致候處尙前記ノ事項
ニ就キ何年間在所研究致度候間御詮議ノ上入學
許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

年月日

本籍及族稱

道府縣市町村番地
華士族平民戸主又ハ何某何男弟等

現住所

道府縣市町村番地寄留又ハ
何某方同居止宿等

氏名

何

某印

出生年月日

何年何月何日生

水産講習所長某殿

○第六號(用紙美濃)

體格検査書

族籍某男弟等

何

某

何年何月何日生

體格(甲、乙、丙)

最モ強健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ク
者ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄
弱ナル者若ハ著シキ病歴ヲ有スル
者ヲ丙トス

體質(強健、稍弱、弱)

特別ナル事項ハ其ノ條件ヲ記

身長(何尺寸分)

體重(何貫匁)

胸圍(何尺寸分)

視力(何々)

聽力(尋常)

神經系

呼吸器

規則及規程

一血行器

一皮膚其他

一脊柱

一齒牙

一瘡

一言語

一既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

検査年月日

道府縣市町村番地

何學校々醫者ハ公立病院

(學位若ハ稱號) 何

某印

何年何月何日生

水産講習所入學試業料ニ關スル件

大正六年二月二十六日農商務省第四號

水産講習所入學試業料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印チ爲サスシテ差出ス

ヘシ水産講習所長ハ其ノ收受スヘキモノナルヲ認メタル後願書ノ

○實習規程

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(沿革) 明治三十三年三月、大正二年六月改正

第一條 實習ハ本所及ヒ實習場實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船

舶ニ於テ從事セシム

第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム

第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其ノ往復ノ旅費ヲ補給

ス但シ本所實習場及試験地並ニ本所及實習場試験地ヨリ鐵道十
六哩海路十海里以内ニ出張スル者及遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ
支給セズ
 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ
受ケヘシ
 第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組合ニ對スル通達其
ノ他實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム
 第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ
 第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作
成シテ之ヲ擔當教官ニ差出スヘシ但シ遠洋漁業科生徒ニ在リテ
ハ水産講習所傳習規程第三十九條及第四十條ニ依ル
 第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其
ノ事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ
得ス

○實習船規程

明治四十三年七月

(沿革) 明治四十三年一月及二月改正

第一章 總 則
 第一條 實習船ハ本所生徒ヲシテ漁撈、航海、運用、及機關ニ關
スル學術並ニ技業ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス
 第二章 職 員
 第二條 實習船ニ左ノ職員ヲ置ク但シ場合ニ依リ變更スルコトア
ルヘシ
 一 船 長
 二 教 官
 三 運轉士 運轉士補 四 機關長 機關士
 五 事務長
 第三條 船長ハ實習、風紀、衛生、其ノ他全般ノ船務ヲ總轄ス
 第四條 船長ハ每實習期ノ終リニ於テ其ノ實習報告書別表書式ノ

考課表及衛生狀態調査書ヲ添ヘ所長ニ提出スヘシ但シ實習報告
書ハ其ノ實習期中便宜數回ニ分割シテ提出スルコトヲ得
 第五條 船長ハ所長ノ決裁ヲ經テ實習船内規ヲ定メ又ハ之ヲ改廢
スルコトヲ得
 第六條 教官ハ船長ノ命ヲ承ケ各々其ノ擔當課業ノ實習ニ任シ且
少乗組生徒取締其ノ他船務ニ從事ス
 臨時乗組ヲ命セラレタル教官ハ特別ノ場合ヲ除ケ外前項後段ノ
事務ニ從事スル限リニアラス
 第七條 運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ運用術ノ實習、船内風紀ノ取締
其ノ他ノ船務ニ從事ス
 運轉士補ハ船長ノ命ヲ承ケ運轉士ノ職務ヲ補助ス
 第八條 機關長ハ船長ノ命ヲ承ケ機關術ノ實習其ノ他ノ船務ニ從
事ス
 機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關長ノ職務ヲ補助ス
 第九條 事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ文書帳簿其ノ他經理及衛生ニ關
スル事項ヲ擔當ス
 第十條 職員ハ每實習期ノ終リニ各々其擔當課業ニ對スル生徒ノ
實習評點表ヲ作製シ之ヲ船長ニ提出スヘシ
 第三章 實 習
 第十一條 實習期間ヲ三期トシ各四箇月ヲ以テ一期トス但シ場合
ニ依リ變更スルコトアルヘシ
 第十二條 實習科目左ノ如シ但シ場合ニ依リ變更又ハ増減スルコ
トアルヘシ
 一 漁撈法
 リテハ實習日誌並ニ臨時試業ノ評點ノ合約點其ノ他ノ課業ニ在
リテハ擔當教官ノ見込ニ依リ之ヲ定ム
 第十五條 各職員ハ豫メ協議ノ上其擔當課業ニ付順序ヲ定メ尙天
候其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ適宜課業スヘシ
 第四章 風紀衛生及上陸
 第十六條 風紀衛生及上陸ニ關シテハ本規程ニ定メアルモノノ外
船長定ムルコトノ内規ニ依リ之ヲ行フ
 第十七條 船長ハ船務ニ差支ナク且ツ衛生上其ノ他ノ故障ナキヲ
認メタルトキハ相當ノ時間職員生徒ノ上陸ヲ許可スルコトヲ得
 第十八條 上陸ヲ許可スヘキ生徒ノ員數ハ通常ノ場合ニ在リテハ
其ノ半數ヲ超過スルコトヲ得ス
 第十九條 船内ニ於ケル運動遊戲ハ健康ヲ増進シ士氣ヲ鼓舞シ嗜
好ヲ高尚ナラシムルニ足ルト認ムルモノ、外之ヲ許可スルコト
ヲ得ス
 第二十條 事務長ハ衛生日誌ヲ調製シ且ツ毎月一回生徒ノ衛生狀
態ヲ調査シ之ヲ船長ニ報告スヘシ
 第二十一條 職員生徒力疾病傷疾ニ罹リタルトキハ船長ハ所長ニ
經伺シテ相當ノ期間特ニ公暇又ハ下船療養ヲ許可スルコトヲ得
但シ生徒ニツキテハ經伺ノ限リニアラス
 交通不便其ノ他ノ事情ニ依リ豫メ所長ニ經伺スルコトヲ得サル
場合ハ事後其ノ旨ヲ所長ニ報告スヘシ
 第二十二條 職員生徒上陸中疾病傷疾ニ罹リ定刻ニ歸船シ能ハサ
ルトキハ直チニ醫師診斷書ヲ添ヘ船長ニ届出ツヘシ
 第五章 賞 罰

出漁、漁具使用法、魚群偵察、漁法、漁艇ノ運用、漁獲物
處理法、漁具作製及修理、漁具保存、漁業ノ地方慣習制度
及經濟調査、漁獲物ノ種類及性質調査、漁具漁船ノ種類及
構造調査
 二 航海術
 推測、實測、羅盤差測定、羅盤修正、經緯儀誤差測定、氣
象觀測、潮時算法
 三 運用術
 操帆、操舵、適帆、荒天航法、應急修理、船體船具保存法、
技業、信號法、運轉法、衝突豫防法、非常召集、消防配置、
當直勤務、守備法、諸圓材取扱、糧食貯藏品積載法、出入
港手續
 四 機關術
 汽機及汽罐取扱及管理法、冷蔵機取扱及管理法
 第十三條 碇泊中ハ船長ノ見込ヲ以テ研究ノ爲生徒ヲシテ當該地
方ノ水産狀況ヲ調査又ハ視察セシムルコトヲ得
 前項ノ調査又ハ視察ヲ終リタルトキハ生徒ヲシテ各其ノ報告ヲ
提出セシムルコトアルヘシ報告書ハ其ノ實習期ノ終ニ船長ノ提
出スヘキ實習報告書ニ添付スヘシ
 第十三條ノ二 船長ハ一實習航海期間内ニ於テ實習上必要ト認ム
ル場合ハ生徒ヲシテ交番ニ他ノ漁船ニ便乗セシムルコトヲ得但
シ此場合ニ在リテハ交番人員數、便乗船ノ種類、船名及其所有
主ニツキ直チニ所長ニ報告スヘシ
 第十四條 實習成績ノ評點ハ各實習期ノ終ニ運用術及航海術ニマ
規則及規程

- 第二十三條 船長ハ生徒ノ品行方正ニシテ實習ノ成績良好ナルモノニ限リ碇泊中一定ノ期間特別公暇ヲ與フルコトヲ得
- 第二十四條 船長ハ本則及諸規則心得等ニ背戾シタル生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得
- 第二十五條 懲戒ハ上陸禁止及加役ノ二種トス
上陸禁止ハ七日以内トシ碇泊日數ニ於テ之ヲ算ス加役ハ七日以内トシ常務時間外一日二時間以内役務ニ服セシム
- 第二十六條 生徒ニシテ犯則度ヲ重ネ又ハ重大ナル不都合ノ所爲アリタルトキハ船長ハ所長ニ其處分ヲ申請スヘシ

實習第 期考課表 生徒

年 齡	年 月 日 生	科 目	評 點	全 點
上 船	年 月 日	流 撈		一〇〇
下 船	年 月 日	運 用		一〇〇
全 實 習	日 間	航 海		一〇〇
在 船 數	日 間	機 關		一〇〇
日 實 習	日 間	報 告 書		一〇〇
賞		合 計		
罰		平 均		
體 質		出 欠 及 動 意		一〇〇

○生徒心得

(沿革) 明治三十三年三月改正 明治三十年四月

格	體量	身 長	尺 寸	尺 寸	尺 寸	性 質	品 行	動 意	意 見	年 月 日
	績 合 計									

- 第一條 本所々定ノ條規ニ準據シ學生ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アルヘカラス
- 第二條 本所ノ制服及制帽ハ入學後一箇月以内ニ於テ調製シ之ヲ着用スヘシ
- 第三條 事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時日ヲ限リ寄宿生ハ生徒取締通學生ハ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 控所ノ外變舍内ニ於テハ喫煙スヘカラス
- 第五條 通學生ハ許可ナクシテ寄宿舍ニ出入スヘカラス
- 第六條 告示ハ掲出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムヘキカ故ニ常ニ揭示ニ注意スヘシ

第七條 學術研究又ハ實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ出發歸所共ニ届出ヘシ

○寄宿舍規程

- (沿革) 明治三十三年三月改正 明治三十年四月
- 第一條 寄宿生ハ取締ノ監督ヲ受クヘシ
 - 第二條 寄宿生ハ規律衛生等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ
 - 第三條 寄宿舍ハ毎年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ツ
 - 第四條 毎朝夕所定ノ時間或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ
 - 第五條 寄宿生ハ左ノ時限ノ外ハ外出スルヲ許サス
一 平日ハ終業時後午後九時迄土曜日ハ午後十時迄
二 休業日ハ午前點檢後ヨリ午後十時迄
 - 但シ事宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ
 - 第六條 外泊又ハ時限内ニ歸舍シ難キ事情アルモノハ豫メ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ
但シ至急ヲ要スル場合ハ口頭又ハ書面ヲ以テ生徒取締ノ許可ヲ得後本條ノ手續ヲナスヘシ
 - 第七條 許可ナク歸舍ノ時期ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出テ其處分ヲ待ツヘシ
 - 第八條 入舍又ハ退舍セントスルモノハ規定ノ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ヘシ
 - 第九條 管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分チ各部ニ部長副部長各一人ヲ置キ生徒取締ノ指揮ニ從ヒ部内一般ノ取締ニ任ス

規則及規程

三 遠洋漁業練習生規程

- (沿革) 明治三十一年五月六日 告示 第一二二號
月同第一二九號、同四二年七月同第三三六號、大正四年九月同第二二八號改正
- 第一條 遠洋漁業練習生ハ水産講習所本科卒業生又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者ヨリ之ヲ採用ス
 - 第二條 前條ニ依リ採用セラレタル者ハ之ヲ外國ニ派遣シ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習セシムルモノトス
 - 練習スヘキ事項及練習地ハ農商務大臣之ヲ指定

ス

第三條 遠洋漁業練習生ノ修業期限ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外三年トス

第四條 遠洋漁業練習生採用ノ員數、時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條 遠洋漁業練習生ノ志願者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ履歷書及醫師ノ體格検査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 遠洋漁業練習生ニ採用セラレタルトキハ一週間以内ニ第二號書式ニ依ル證書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條 遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財產アル者タルコトヲ要ス保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ遲滯ナク之ヲ届出ヘシ

第八條 遠洋漁業練習生ニハ相當ノ月手當及旅行手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第九條 遠洋漁業練習生ハ毎年二回以上練習事項ニ關スル報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條 農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込ナキ者其ノ他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少ヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當金ノ全部若ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

附 則

本規程改正前遠洋漁業練習生ニ採用セラレタル者ニ付テハ仍從前ノ規程ヲ適用ス

○第一號書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

年月日

族籍住所職業誰子弟

本人

姓

名印

生年月日

族籍住所職業

保證人

姓

名印

農商務大臣爵氏名殿

○第二號書式

印紙

證

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令等堅ク遵守可致ハ勿論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證人ニ於テ速ニ償還可致候也

年月日

族籍住所職業誰子弟

本人

姓

名印

族籍住所職業

保證人

姓

名印

農商務大臣爵氏名殿

第二節 講習功程

一 研究科

目下在學ノ生徒ハ漁撈科四名養殖科二名合計六名ニシテ各自専攻ノ題目ニ就テ教官指導ノ下ニ其研究ヲ爲シ或ハ關係學科ノ聽講ヲ爲サシム

二 遠洋漁業科

規則及規程

目下在學ノ生徒ハ十五名ニシテ漁業船舶ニ乗組ヲ命シ漁業及航海運用ニ關スル技術ヲ練習セシム

三 本科

目下在學ノ生徒ハ百九十二名ニシテ本科ノ教程ハ學年ノ始ニ於テ學科課程表ニ基キ一學年間に授ケヘキ各學科ノ時數ヲ豫定シ教授事項ノ要目ヲ配當シテ之ヲ定メ之ニ依テ教授ヲ爲セリ而シテ本學年間に教授シタル時數及擔當教官左ノ如シ

第二十一學年教授時數及教授擔當表

學 科 目 科 別	第一學年		第二學年		第三學年		教 官 氏 名
	漁撈科	製造科 養殖科	漁撈科	製造科 養殖科	漁撈科	製造科 養殖科	
	二二 時	二二 時	四 時	四 時	四 時	四 時	
水產通論							技師 伊谷以知二郎
漁撈論	六六		八三		一七		技師 川合角也
漁具	三一						囑託 中村利吉
漁具							助教 木村金太郎
漁法							技師 小瀨武次郎
測湖海							技師 丸川久俊
漁獲物處理法							囑託 中野治房
航海術	九六						教授 星野三郎
運海術							囑託 岸榮太郎
船體	一八						技師 關根 廣吉
機器	一三						技師 春日 信市
漁船論							技師 石原 虎司
緊急療法							囑託 北村 銀平

規則及規程

學 科 目 科 別	第一學年		第二學年		第三學年		教 官 氏 名
	漁撈科	製造科 養殖科	漁撈科	製造科 養殖科	漁撈科	製造科 養殖科	
	二二 時	二二 時	四 時	四 時	四 時	四 時	
水產通論							助教 中山 留八
漁撈論							技師 北川 政次郎
漁具							技師 北川 政次郎
漁具							助教 中山 留八
漁法							技師 小野 辰太郎
測湖海							技師 小野 辰太郎
漁獲物處理法							助教 木村 金太郎
航海術							技師 關根 廣吉
運海術							技師 關根 廣吉
船體							技師 關根 廣吉
機器							技師 關根 廣吉
漁船論							技師 關根 廣吉
緊急療法							囑託 北村 銀平

習 實 及 驗 實											合 計	英 語	流 撈 大 意	魚 介 類 利 用 法			
製 圖	釣 具	索 具	網 具	氣 象	土 木	機 關	運 用	網 菌	分 析	植 物					動 物		
	四五	二	四九				七一			一一	二八	七五二					九四
									五三	二六	二八	七二四	五八				八二
								二六	五二	四三	三一	七一九	五八				九二
四三		四一	二二	五		八	四八					六六六					九〇
								一六	九七			七〇九					八一
									五一	二七	一七	六九六					八八
					五	五						八八					八
												一〇六					二八
												一六二	三七				四八
													技手 山本 由一				囑託 相原 一郎 介

經 濟	法 規	簿 記	數 學	氣 象	海 洋	機 械	物 理		著 殖 保 護 論	化 學		植 物 學		學 科 目 別	學 年	教 官 氏 名
							力 學	物 理		水 產 化 學	有 機 機	無 機 機	水 產 植 物			
			一〇一	三一	二九		三〇	六〇					二五	第一學年	流撈科	
			一〇一	三一			三〇	六〇		二九		九六	六四	第一學年	製造科	
			一〇一	三一	二九		三〇	六〇				九六	五七	第一學年	養殖科	
四二	四四	二三				六〇								第二學年	流撈科	
四二	四四	二三				六〇				四二	九五			第二學年	製造科	
四二	四四	二三									九五	五四		第二學年	養殖科	
四						一〇			八					第三學年	流撈科	
						二二				二五				第三學年	製造科	
三									八					第三學年	養殖科	
教授 三井 米松	囑託 川久 保修吉	囑託 池上 泰次郎	囑託 池上 泰次郎	囑託 吉田 得一	囑託 田中 阿歌麿	教授 星野 三郎	囑託 池上 泰次郎	囑託 中村 左衛門 太郎	技師 北原 多作	囑託 池田 晏平	囑託 松井 秀三郎	囑託 池田 晏平	技師 岡村 金太郎	技師 岡村 金太郎	助教 東 道太郎	囑託 中野 治房

學科	學年	製造法	養殖法	第一學年			第二學年			第三學年			教官氏名
				流撈科	製造科	養殖科	流撈科	製造科	養殖科	流撈科	製造科	養殖科	
合計		二〇六	一三七	一五二	一六七	一三六	一五七	一〇	一〇六	一二九			

本表ノ外定時以外ニ於テ隨意科トシテ獨逸語ヲ課シタルトモ其時數ハ之ヲ略ス

本學年ニ於テ所内實習ノ外技術ヲ練習セシムル爲メ所外實習場、實習船又ハ實業家ノ工場、漁船、養魚池等ニ於テ實施セシメタル事項大要左ノ如シ

第	學年	學期	場	所	項	目
第一	大正六年	自七月九日至八月十日	千葉縣	高ノ島實驗場	水泳、漁艇操縱並動植物實驗	
第一	大正六年	自四月一日至四月七日	千葉縣	館山	トロール及小船ノ運用	

第	學年	學期	場	所	項	目
第二	大正六年	自七月九日至八月廿九日	千葉縣	館山、乙濱、波佐間、神奈川、靜岡、伊豆、東京、府、大島沿岸	各種漁業、各種漁具製作、漁船運用、洋製測、航海、捕魚、水泳	
第二	大正七年	自七月九日至八月廿九日	鳥取縣	鳥取縣	鯉、刀魚漁業	
第二	大正七年	自三月廿四日至三月卅一日	雲鷹丸	(館山)	機關實習	
第二	大正六年	自三月廿九日至四月八日	千葉縣	御宿	運用航海實習	
第二	大正六年	自三月二十日至四月二十日	青森、函館、岩手、余市、高島、小樽		鯉、刀魚、各種漁業	

第	學年	學期	場	所	項	目
第三	大正六年	自四月十六日至五月三日	靜岡縣	燒津町	大敷網漁業	
第三	大正六年	自四月十日	一人	神奈川縣小田原町兩山田	大敷網漁業	
第三	大正六年	自五月二十日至九月二十日	一人	露領勸業加	鯉、鯉其他漁業	
第三	大正六年	自五月廿四日至十一月三日	雲鷹丸 (オコツク海)		鯉一本釣漁業、ピリ、トロール漁業、鯉、刺網漁業其他各種漁業	
第三	大正六年	自七月十七日至九月廿五日	一人	千葉縣水産試驗場所屬船ふさ丸	鯉釣、秋刀魚漁業	
第三	大正六年	自九月廿六日至十月十七日	一人	福島縣水産試驗場所屬船磐城丸	鯉釣漁業	
第三	大正七年	自十一月十八日至一月十五日	二人	富山縣水見	大敷網漁業	
第三	大正七年	自十二月一日	一人	靜岡縣磐田郡福田村	大敷網漁業	
第三	大正七年	自十二月廿八日至大正七年三月十五日	一人	靜岡縣燒津	大敷網漁業	
第三	大正七年	自大正七年一月四日至三月十五日	一人	山口縣下關	冷蔵運搬業	

規則及規程

學年	學期	場	所	項	目
第一學年	大正六年	自七月九日至八月十日	千葉縣	高ノ島實驗場	水泳、漁艇操縱並動植物實驗
第二學年	大正六年	自一月廿六日至三月十五日	一人	靜岡縣伊豆網代村	大敷網漁業
第二學年	大正六年	自一月廿六日至三月十五日	一人	千葉縣安房郡岩井袋村	大敷網漁業
第二學年	大正六年	自十一月廿五日至三月十五日	一人	靜岡縣蒲原郡蒲原町	大敷網漁業
第二學年	大正六年	自十一月廿五日至三月十五日	一人	神奈川縣足柄下郡網代及真鶴	大敷網漁業
第二學年	大正六年	自十一月廿五日至三月十五日	一人	神奈川縣酒匂村	大敷網漁業
第二學年	大正六年	自十一月廿五日至三月十五日	十三人	農商務省所屬船得撫丸 (小笠原島附近)	鮭漁業
第二學年	大正六年	自三月十一日至三月十五日	半丸		機關實習

學年	期	場	所	項目
第二學年	大正六年 自七月五日 至七月廿四日	茨城、福島、宮城ノ三縣	生魚ノ輸送、節類其他乾製品、醃漬法、沃度調味品醃漬法等ノ製造及經濟關係ノ探取及販賣、水産物ノ取引漁業組織ニ關スル調査	
第三學年	大正六年 自四月三日 至四月廿三日	札幌、小樽、函館、室蘭、石巻、鹽釜	各種水産物製造方法並ニ取引方法	
第三學年	自六月廿日 至八月十日	神奈川縣小田原實習場	節類乾魚、鹽藏肥料各種醃漬法、簿記、鮮魚輸送試驗	
第三學年	自八月十一日 至八月三十一日	大阪、京都、兵庫、福井、富山、新潟ノ二府四縣	製造法、各種水産物製法並ニ販賣取引等	
第三學年	自九月十日 至九月十日	朝鮮方面	各種水産物製造法及取引状況	
第三學年	自十月廿二日 至十一月廿五日	神奈川縣小田原實習場	各種醃漬品、鹽藏肥料、乾製品、調味品、肥料其他各種製造法	
第三學年	大正七年 自一月八日 至三月五日	兵庫縣姫路市	クローム一浴製革法	
第三學年	自一月十五日 至三月十五日	千葉縣香取試驗場	水産罐詰業ノ副業トシテ畜産品研究	

學年	期	場	所	項目
第一學年	大正六年 自七月九日 至八月十日	千葉縣高ノ島實驗場	水泳、漁艇操縱並動物實驗	
第二學年	大正六年 自七月五日 至八月廿日	一人 千葉縣行徳町字新濱	養殖實習	
第二學年	自七月五日 至八月廿日	二人 愛知縣渥美郡渥美	養殖實習	
第二學年	自七月五日 至八月廿日	二人 愛知縣渥美郡神野新田	養殖實習	
第二學年	自七月五日 至八月廿日	一人 深川區冬木町	養殖實習	
第二學年	自七月五日 至八月廿日	一人 東京府大森森ヶ崎	養殖實習	
第二學年	自七月五日 至八月廿日	二人 靜岡縣濱名郡村柿村	養殖實習	
第二學年	自七月五日 至八月廿日	二人 神奈川縣大師河原字夜光	養殖實習	
第二學年	大正六年 自四月一日 至四月七日	神奈川縣金澤	養殖法	

學年	期	場	所	項目
第三學年	自五月十五日 至五月卅一日	千葉縣高ノ島實驗場	鹹水魚人工孵化法及海藻養殖法	
第三學年	自七月四日 至七月六日	東京、神奈川縣大師河原、千葉縣行徳町	淡水魚類養殖法	
第三學年	自七月五日 至七月十八日	神奈川縣金澤	養蠶法	
第三學年	自七月廿一日 至八月十三日	靜岡、愛知、三重、奈良、大阪、兵庫、岡山、廣島、滋賀ノ一府八縣	各種魚介藻類養殖法	
第三學年	自十二月一日 至十二月十五日	新潟縣村上	鮭鱒人工孵化法	
第三學年	大正七年 自二月十日 至二月十一日	神奈川縣金澤	海苔養殖	

四別科
 本學年ニ於テハ貝殻珊瑚ノ産地ヨリ水産工藝專修生徒ヲ募集シ隨時入學ヲ許可スルコトトシ目下在學ノ生徒十五名アリ
 尙本學年ニ於テ水産業者及其子弟中ヨリ罐詰專修生徒十五名ヲ募集シ大正六年九月十七日ヨリ十月十三日迄學科ノ講義ヲナシ十月廿六日ヨリ十二月十三日迄神奈川縣小田原實習場ニ於テ罐詰製造ノ實習ヲナセリ

五指導及講話
 地方水産業指導ノ爲メ講話又ハ講話ヲナシタルモノハいたばがき養殖法ニ就キ兵庫縣ニ於テ爲シタルモノハ海藻養殖法ニ就テ山形岩手兩縣ニ於テセルモノ及養殖保護並ニ漁撈法ニ就テ三重縣ニ於テ爲セルモノ等ナリ

第三 試驗及調査

第一節 試驗及調査ニ關スル組織

本所ハ一般水産業ノ發達ヲ圖ル爲メ大正三年三月本所處務細則ヲ定メ漁業基本調査部、漁撈、養殖、製造、化學及漁船機械ノ五試験部ヲ設ケ該各事項ニ付試験及調査ヲ爲シ且ツ本所ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ一般ノ依頼ニ應スル爲メ試験規則ヲ設

試驗及調査

ケ又種苗配付ヲナス爲メ種苗拂下規則ヲ設ケタツ其規則左ノ如シ

一 水産講習所試験規則

大正三年三月農商務省令第五號

第一條 水産講習所ハ漁業基本調査、漁撈、養殖、製造、化學、漁船及機械ニ關スル事項ニ付試験、鑑定、分析、檢定及設計ノ依頼ヲ受ケタルトキ

ハ主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スル
コトヲ得

第二條 前條ノ規程ニ依リ依頼ヲ爲サムトスル者
ハ願書ニ依頼事項及目的ヲ明カナラシムヘキ詳
細ナル説明書類並必要ノ圖面及現品ヲ添附シテ
差出スヘシ

前項ニ依リ水産製造品等ノ鑑定又ハ分析ノ依頼
ヲ爲サムトスル者ノ差出スヘキ現品ハ左記ノ區
別ニ依ルヘシ但シ必要ノ場合ニハ更ニ相當ノ數
量ヲ差出サシムルコトアルヘシ

製造ニ關スル事項

罐詰類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	三箇以上
	分析	特別成分	一成分毎ニ	三箇以上
鹽藏乾腊類	鑑定	形大ナルモノ	二	二箇以上
	分析	形小ナルモノ	二	二箇以上
節類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	一尾分
	分析	特別成分	一成分毎ニ	一尾分
越嶺新類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	二箇以上
	分析	特別成分	一成分毎ニ	五十箇以上

淨子 鑑定 五箇以上
釣鉤 鑑定 十本以上
塗料 鑑定 一貫匁ヲ染メ得ヘキ材料
分析 百匁以上

養殖ニ關スル事項

餌料 分析 二百匁以上
水質 分析 一升五合以上
土質 分析 三升以上
分析 五百匁以上

前項ニ掲ケサル事項ニ關シテハ前項ニ準シ適當
ノ數量ヲ差出スヘシ

第三條 水産講習所試験又ハ鑑定ノ必要ナシト認
ムルトキハ其ノ依頼ニ應セス

第四條 差出シタル現品ハ依頼ニ應セサル場合又
ハ出願ノ際依頼者ニ於テ豫メ返付ヲ申出テ其ノ
承認ヲ得タル場合ノ外之ヲ返付セス

第五條 本規則ニ依リ依頼ヲ受ケタル事項ニ關シ
必要アル場合ニ於テハ依頼者ヲシテ旅費ヲ負擔
セシメ又ハ器具、機械、原料、消耗品又ハ人夫
等ヲ提供セシムルコトアルヘシ

試験及調査

四二

肉類	分析	普通成分	一成分毎ニ	一貫匁以上
	分析	特別成分	一成分毎ニ	五百匁以上
肥料	分析			三百匁以上
脂肪油及蠟	鑑定			三合又ハ一斤以上
	分析			六合又ハ二斤以上
食用油	鑑定			三合又ハ一斤以上
	分析			六合又ハ二斤以上
藥用肝油	鑑定			一封度又ハ二合以上
	分析			一封度又ハ四合以上
皮革	鑑定			一坪又ハ二枚以上
食用藻類鑑定	鑑定			同
寒天及其原藻	鑑定	製品		五本又ハ十匁以上
	鑑定	原藻		五十匁以上
糊料及其原藻	鑑定	製品		十匁又ハ二枚以上
	鑑定	原藻		十匁以上
沃度、沃度灰及其原藻	鑑定	沃度及灰		一封度以上
	分析	原藻		五十匁以上
罐詰用鐵葉	鑑定			二枚以上
	分析			二枚以上
硫酸紙其他罐內被物	鑑定	紙類其他ノモノ		二枚以上
	分析	罐材ニ加工シタルモノ		五箇以上
漁具材料等ニ關スル事項	鑑定			同
網地	鑑定			一間以上
網糸	鑑定			十間以上
網	鑑定			十間以上

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年農商務省告示第四十三號水産講習所
試験規程及同年農商務省告示第六百六十三號試験
又ハ鑑定依頼者心得ハ之ヲ廢止ス

書式

一 事項	何々	試驗(調査、鑑定、分析、檢定、設計)願
一 添附書類	何通	
一 現品	何々	
前記事項御試験(調査、鑑定、分析、檢定、設計)依頼致度 別紙説明書類(及現品)相添ヘ此段相願候也		
年 月 日	住所	
	依頼人	何 某 印
	水産講習所長氏名殿	

一 水産講習所種苗拂下規則

大正三年三月農商務省令第六號

第一條 水産動植物種苗ノ拂下ヲ受ケムトスル者
ハ第一號様式ニ依リ願書ニ養殖ノ場所、面積及

四三

設備等ニ關スル設計書ヲ添へ水産講習所長ニ差
出スヘシ

第二條 拂下クヘキ種苗ノ種類、數量及價格ハ官
報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 種苗ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ
各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一 地方水産試験場、水産講習所、學校、水産
組合、漁業組合、産業組合

二 道、府、縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體

三 一年以上養殖事業ニ従事シ相當ノ成績ヲ舉
ケタルモノ

前項ニ該當セサル者ト雖水産講習所長ニ於テ適
當ト認メタル者ニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアル
ヘシ

第四條 水産講習所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ
水産動植物ノ養殖試験ヲ爲ス者ニ對シ無償ニテ
種苗ヲ下付スルコトヲ得

第一條ノ規程ハ前項ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケム
トスル者ニ之ヲ準用ス

第五條 種苗拂下ノ許可ノ通知アリタルトキハ出
願人ハ水産講習所長ノ指定シタル期限迄ニ其ノ
價格ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ依ルトキハ書留郵
便ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條 出願人種苗ノ送附ヲ受ケタルトキハ第二
號様式ノ領收證ヲ差出スヘシ

第七條 種苗ノ送付ニ要スル荷造費、運賃及其ノ
送付中ニ生シタル種苗ノ斃死、損傷等ノ損害ハ
出願者ノ負擔トス

第八條 種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ水産
講習所長ノ指定シタル種苗ノ發育狀況等ニ關ス
ル事項ヲ水産講習所長ニ報告スヘシ

第一號様式

種苗拂下願
一 何々 何尾(粒)

右養殖致度候ニ付拂下相成度御所種苗拂下規則ニ依リ
此段相願候也

年 月 日 何縣何郡何町(村)

漁業組合理事(出願人資格)

何 某 印

水産講習所長氏名殿

(受領者出頭スルコト能ハサルトキハ種苗届先、取扱譯名及取
扱運送店名ヲ附記スヘシ)

第二號様式

種苗領收證

一 何々 何尾(粒)

右領收候也

年 月 日 何縣何郡何町(村)

水産講習所長氏名殿

何 某 印

第二節 各部事業ノ概要

一 漁業基本調査部

漁業基本調査ハ海洋ノ状態及重要水族ノ生態ヲ調

試験及調査

査シ漁業ノ學術的基礎ヲ作り以テ漁獲豊凶ノ原因
ヲ明カニシ其増進ヲ期シ漁場ノ擴張ヲ圖ルノ目的
ニ出テ農商務省ニ於テハ明治四十二年以降之カ調
査ニ従事シタリシカ大正三年四月該事務ヲ本所ニ
移シ且遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁場ノ調査事務
ヲ委囑セラレタルヲ以テ漁業基本調査部ヲ設ケ雲
鷹丸隼丸等ヲ以テ調査ヲ施行シ且地方水産試験場
及燈臺等ノ海洋觀測報告ヲ徵シ報告書ヲ編シ若シ
クハ官報ニ掲載セリ。

一 生物調査

(イ)魚卵及稚魚ノ研究 明治四十五年以來千葉縣下
館山高島實驗場ニ於テ魚卵及稚魚ノ研究ヲ施行
シ大正四年度ニ於テ本所試驗報告第十一卷第五
冊ニ其成績ノ一部ヲ發表シタルモ尙未知ノ材料
ニ就キ引續キ研究中ナリ。

(ロ)蝦蟹類調査研究 蝦蟹類ノ罐詰及乾製品ノ輸出
ハ逐年増加スルヲ以テ此等漁業ノ發達ヲ圖リ蕃

殖保護ノ方法ヲ講センカ爲メ本所ハ重要蝦蟹ノ種類及分布並ニ其蕃殖狀態ノ研究ニ從事シ目下引續キ研究中ナリ。

たらばかに、さくらら及び瀬戸内海産蝦ニ關シテハ試驗報告トシテ既ニ公表セリ。

(ハ) 鱸ノ調査 全國關係諸府縣ト聯絡シ昨年度ヨリ鱸ノ調査ニ着手シ其去來ト海水溫度及比重トノ關係ニ就キ調査中ナリ。

二 海洋調査

漁業豐凶ノ原因ハ主トシテ海流ノ移動トニ伴フ浮游生物ノ消長トニ在リ而シテ漁場ノ位置ハ海底ノ性質、水深、水温、比重、水色等ヲ參酌シテ檢出スルモノナルヲ以テ大西洋沿岸諸國ニテハ夙ニ聯合調査會ヲ起シ各自重要魚族ノ習性、産卵場、漁場、漁期等ノ研究ニ從事ス本邦ニテハ未タ如斯設備ナキモ本所ハ現在ノ設備ヲ利用シ得ル限度ニ於テ又燈臺、地方水産試驗場、

講習所ト連絡シ各種ノ調査試驗ヲ行ヘリ其主要ナル事項左ノ如シ。

(イ) 相模灘調査 海洋狀態ノ最モ錯綜セル相模灘及伊豆七島附近ノ海洋ト重要魚族トノ關係ヲ研究センカ爲メ大正四年十二月以來隼丸ヲ以テ調査シ大正六年ニ於テハ七、八、九、十二月及大正七年ニテハ二月ニ之カ調査ヲ施行セリ。

(ロ) 金華山沖調査 本所ハ大正三年以來年々十月雲鷹丸ヲ以テ金華山沖合東方約二百哩ノ間ニ於テ精密ナル調査ヲ行ヒ此位置ニ於ケル定期調査ノ基準ヲ作レリ乃チ大正六年十月ニ於テモ同一場所ニ於テ同様ノ調査ヲナシタリ其結果此附近ニアリテハ暖寒兩流ノ混合甚シク爲メニ諸種ノ流動ヲ生シ頗ル錯綜セル海洋狀態ヲ現出セルコト及大正三年以降年々ノ熱量ヲ比較セシニ大正四年ハ三年ニ比シ熱量大ニシテ六年ハ五年ニ比シテ著シク小ナリシコトヲ確メタリ。

(ハ) オホーツク海調査 雲鷹丸ヲ以テ大正六年七八

九月オホーツク海ノ海洋調査ヲ行ヒ特ニ堪察加西岸ニ於テ鱈及鮭漁業ト海洋狀態トノ關係ヲ調査シタルカ就中鮭、紅鮭ノ親魚ノ最多洄歸年齡ハ滿五ヶ年ナルコト、たらば蟹ノ幼兒ト認めラルヘキモノ、天然ニ於ケル發生順序ト從來怪光ト稱セラレタルモノハ主トシテ微小甲殻類「メトリヂヤ、ロンガ」ノ集團ガ夜間群ヲ移動ニ伴フテ生スル刺激ノ爲ニ熾烈ナル發光ヲ行フモノナルコト等ヲ闡明セリ。

二 漁撈試驗部

甲 漁具使用試驗

一、發動機船巾着網片手廻漁法試驗 本所ハ發動機漁船ヲ使用スル片手廻漁法ヲ試驗スルノ必要ヲ認め大正五年度夏期館山灣ニ於テ之ヲ行ヒ稍々成績ヲ擧グルヲ得大正六年度モ繼續試驗セルニ成績益々良好ナルヲ以テ本年度ニ

試驗及調査

於テハ更ニ漁網及漁船ヲ改造シ本試驗ヲ繼續シテ一層研究ノ歩ヲ進メントス。

二、定置漁具試驗

數年前ヨリ鯛大數網漁場ノ地理的關係魚族來游ノ狀況、網ノ構造及敷設方法其他經濟事項ノ調査試驗ヲ開始シ主トシテ建網敷設ニ最適當ナル位置及網ノ敷設ト潮流速度トノ關係トヲ究ムトシ各地ニ於テ實地調査ニ着手セシカ大正五年度以來事務ノ都合上一時中止セシモ本年度ヨリ引續キ各地漁場ニ於テ繼續研究セントス。

尙大正三年度ヨリ千葉縣水産講習所ト聯絡シテ同縣下ニ於テ小規模ノ定置漁具ヲ敷設シ潮流ト網敷設トノ關係、浮子網地染料ノ良否網ノ材料等ニ就キ試驗セシモ天候及漁場ノ關係上一昨年以來一時中止シタリ本年度ハ館山灣ニ於ケル試驗ヲ復活シ繼續試驗セントス。

三、鮭鱈流網試驗

(イ) 從來鮭鱒ハ河川ニ溯上スル前沖合ニ群泳ヲ認ムルヲ以テ大正三、四年度雲鷹丸ヲシテオコツク海距岸二三十哩ノ沖合ニ於テ流網ヲ試験セシメ成績ノ見ルヘキモノアリシモ盛漁期ヲ逸セシテ以テ五年度ニ於テハ初漁期ヨリ盛漁期ヲ通シテ之カ試験ヲ行ヒ且其ノ漁獲物ヲ船内ニテ罐詰ニ製作スル試験ヲナシ稍好結果ヲ得タルヲ以テ昨年度ハ少シク規模ヲ大ニシテ前記鮭鱒ノ外ニ紅鱒ヲ加ヘ其ノ漁獲及船内罐詰製造ヲ試験シ益々有望ヲ認メタルヲ以テ本年度モ繼續試験セントス。

(ロ) 鮭モ亦産卵期以外オコツク海ニ其ノ群游ヲ認ムルコト往々之アルヲ以テ沖取法ヲ試験スルノ必要ヲ認メ大正四年度以來樺太東海岸ニ於テ同試験ヲ行ヒシモ充分ノ結果ヲ得ス故ニ本年度モ引續キ同方面ニテ繼續試験セントス。

乙 漁具試験

(イ) 網絲ノ腐敗試験 網絲ノ腐敗ハ水溫、水質等ノ差ニ依リ甚シク差アルヲ以テ其ノ程度ニヨリ染料ヲ施スハ保存上必要ノ條件ナルニ係ラス之カ試験ヲナシタルコトナキヲ以テ染料ヲ施ス時期ヲ誤ル場合少ナカラス故ニ一昨年度ヨリ之カ試験ヲ行ヒ水溫水質ニヨル差異ヲ明ニセントセルモ未タ成績ヲ舉クル能ハサルヲ以テ大正六年度モ引續キ其ノ試験ヲ繼續シ尙本年度ハ産地ノ差異ニヨル藁繩ノ優劣ヲ試験セントス。

(ロ) 網絲及ヒ網地ニ對スル水ノ抵抗試験 本試験ハ既ニ其一部ヲ本所試験報告第十卷第五冊ニ於テ報告シタルモ設備完全セサルヲ以テ一時中止セリ。

(ハ) 染料試験 「コールタール」ヲ漁具ノ染料トシテ使用シ有效ナルハ既ニ定論アルモ其ノ良否撰別法ニ就テハ未タ研究セルトコロナシ然レトモ當業者ノ切望スル所ナルヲ以テ一昨年度以來試験

丙、集魚燈試験

(イ) 水中ニ於ケル照度ノ寫眞的研究 前年度來館山灣ニ於テ研究中ナリシカ大正六年度ハ事務ノ都合上中止セルヲ以テ本年度ハ更ニ研究ヲ行ハントス。

三 養殖試験部

一、淡水養殖試験

(イ) 溫水性魚類養殖試験 深川區冬木町養魚池ニ於テ前年度ニ繼續シ鯉卵ノ孵化試験ヲ行ヒ種苗拂下規則ニ依リ昨六年度ニ拂下ケタル鯉兒ハ日本種二萬三千尾ニシテ千葉、神奈川、栃木、群馬、埼玉、巖手ノ六縣ニ配付セリ、又しらす鰻ノ池中飼育及ヒ養魚ノ餌料ニ關スル試験ハ前年度ニ繼續試験シタルモ十月初旬ノ洪水ノ爲メ流失シ成績ヲ舉クルニ至ラス其他鰻ノ遠距離輸送試験トシテ佐賀ヨリ東京迄ノ鐵道輸送ヲナシ又群馬

試験及調査

縣前橋迄鱒兒ノ輸送試験ヲナシ何レモ好結果ヲ得タリ。

(ロ) 冷水性魚類養殖試験 冷水性魚類養殖ハ前年度ニ繼續シ群馬縣丸沼ニ於テ米國種紅鱒卵ノ人工受精ヲ行ヒ十萬六千餘粒ノ卵ヲ採取シ内四萬粒ヲ佐賀、滋賀、長野ノ三縣下ニ分與シ殘餘ヲ丸沼ニテ孵化放流シ又姫鱒卵三十餘萬粒ヲ採取シ内二十九萬粒ヲ群馬、栃木、福島、岡山、静岡、長野ノ六縣下ニ分與シ殘餘ヲ丸沼ニテ孵化放流シタリ。

又茨城縣霞ヶ浦産公魚卵ヲ丸沼ニ輸送孵化シ同魚ノ移殖試験ヲ行ヒタリ。

二、鹹水養殖試験

(イ) 輸出生牡蠣養殖試験 米國西部沿岸へ生蠣ノ儘輸出スルノ目的ヲ以テ、從來ヨリ神奈川縣下金澤灣ニ於テまがきの養殖試験地ヲ設置シ四十四年ヨリ今日ニ至ルマテ米國シヤトル、桑港、布

哇ホノル、地方へ屢々輸出シ試賣シタルニ其成績良好ニシテ斃死率僅ニ約一割ノ割合ヲ以テ對岸ニ到着スルコトヲ確メ、輸出問題ニツキ一光明ヲ開キタルモノナリ。爾來對岸米國養蠶家ノ注意ヲ喚起シ本邦ヨリ輸入ヲ希望スルモノ増加ノ傾向アリト雖モ經濟的ニ商品トシテ輸出シ永ク國產伸長ヲ計ルヘキハ尙今後ノ努力ヲ要スル所多シ、依テ六年度ヨリ專ラ經濟的試驗ニ着手シ、同年シヤトルへ向ケ輸出シタル實數七萬個ニ及ベリ。又いたばがきニ就テハ豫テ兵庫縣ノ囑託ニ依リ該種蠶床ヲ調査シ、養殖方法ヲ指導シタルカ、大正五年八月始メテ投入シタル介殼ニ附着シタル稚貝ノ成育佳良ニシテ、既ニ六年度ノ冬期ニハ二寸五分ノ殼長ニ達シ之ヲ採捕販賣スルノ結果ヲ得タリ。

(ロ) 牡蠣ノ餌料及水質、土質分析試驗 本試驗ハ大正三年度ヨリ引續キ試驗中ニシテ養蠶上ノ基礎

(ハ) 水前寺苔移植試驗 先年度ニ於テ水前寺苔ヲ府下井頭池へ移植シタルモ同地ニテハ種々ノ不便アルヲ以テ本年度ハ去ル四月福岡縣金川産ノモノヲ府下北多摩郡神代村深大寺境内ノ小池ニ移植シタルニ其後夏季ニ至リ繁茂シタルモ冬季ノ嚴寒ナリシト降雨尠ナカリシ爲メ水量ノ減少シタルヨリ藻量著シク減少シタリ。

(ニ) 藻類ノ蕃殖試驗 茲このりハ從來其蕃殖法不明ノ爲メ之ガ蕃殖ヲ謀ルコト能ハザリシモ昨大正六年ヨリ新潟縣ト連絡シ能生ノ沿岸ニ於テ其發生ノ方法及時期ヲ調査シタルニ十一月末乃至十二月頃ニ於テ五分乃至一寸ノ嫩植物ノ一二種ノほんだわら類ノ枝ニ附着發生スルモノヲ得タルニヨリ其孢子ヲ以テ萌發スルモノナルコトヲ闡明シ因テ研究ノ端緒ヲ得タリ。

(ホ) ホカチメ成長試驗 前年ニ引續キ千葉縣水産試驗場ト連絡シテ安房郡富崎村布良ニ於ケル試驗地

試驗及調査

的研究タラシメントス。

三、魚病ノ研究

鯛ノ筋肉寄生蟲ハ其後長崎、石川及神奈川ノ諸縣ヨリ材料ヲ得テ調査シタルニ分布ノ可ナリ弘キコトヲ知レリ。

四、藻類養殖試驗

(イ) 海苔施肥經濟試驗 大正六年度ニ於テハ一昨五年度ト同一ノ場所ニ於テ同一ノ方法ニ依リ施行シタルニ種々ノ障害ノ爲メ試驗ハ失敗ニ歸シタレトモ毎回海苔ノ評價上ヨリ見レハ概シテ施肥シタルモノノ方高價ナルヲ確メタリ。

(ロ) 海苔色素試驗 あさくさのりノ含有スル色素ハ紅藻素、藻青素、葉綠素並ニ黃色ヲ呈スル色素ナルコトハ既ニ知レル所ナリ本年度ノ試驗ニ於テ該黄色々素ハ葉黃素及ヒ「カロチン」ナルコトヲ知り目下此等ノ色素ノ含有量ニ就テ試驗中ナリ。

ト神奈川水産試驗場ト連絡シテ葉山ニ設ケタルモノトニ於テ試驗中ナリ。

五、養殖土木試驗

本試驗モ前年度ニ繼續シ滋賀縣高嶋郡知内川ニ魚梯雛形ヲ裝置シ鮎ノ浜上カト水流トニ關スル試驗ヲ爲シタリ。

四 製造試驗部

一、自働製罐機械及ヒ罐詰機械試驗

本所ハ罐詰業發達ノ趨勢ニ鑑ミ時代ノ要求ニ基キ獨ニ米國製罐會社ヨリ自働製罐機械並ニ之ニ關聯シテ必要ナル罐詰機械ヲ購入シ大正六年度以後ニ於テ之カ實地試驗ヲ行ヘリ。

自働製罐機械ハ切斷機、罐體製作機、胴縁折機、單軸卷縮機、空罐試驗機、蓋底打抜及ヒ蓋底緣整形機、コンバウンド塗着及ヒ乾燥機ヨリ成リ之ヲ所内製罐工場内ニ据付ケ罐詰機械ハ假縮機、

脱氣函、J型卷縮機、及ヒ殺菌釜ヨリ成リ之ヲ小田原實習場ニ据付ケタリ本年度ニ於テハ右ノ兩機ヲ使用シ製罐竝ニ罐詰試験ヲ施行スルニ際シ本科生ノ外ニ別科生ヲ募集シテ其傳習ヲナサシメ右兩機械ノ普及ト應用トヲ圖リタリ。

二、油漬罐詰用油脱臭試験

油漬罐詰事業ハ時局ノ影響ヲ受ケ最近ニ於テ最モ有利ナル狀況ニ發達スルニ至リシカ昨年、後半期以來之カ一原料タル外國産油ノ輸入困難トナルニ及ヒ製造業者ハ少カラサル打撃ニ遭遇シ遂ニ外國産油ニ代フルニ本邦産油ヲ以テスルノ必要ヲ痛切ニ感ズルニ至リタリ本所ハ數年以來本邦産油ヲ研究シ既ニ油煤用トシテ差支ナキマテノ品質ヲ得ルニ至リタリシカ注入用トシテハ幾分ノ臭氣殘存シ使用困難ナルカ故ニ新ニ本年度ヨリ脱臭試験ヲ開始シ以テ此急要ニ應ゼンコトヲ力メタリ幸ニシテ試験ノ結果良好ニ進涉

シ稍、満足スベキ成績ヲ得ルニ至リタルヲ以テ本所ハ更ニ新式油脱臭裝置ヲ考案シ目下其据付ニ着手中ナリ是カ實地試験ハ明年度ニ於テ行フコトトナルヘシ。

三、油漬罐詰熟成試験

本所ハ數年以來ノ經驗ニ依リ鯷油漬罐詰ノ上ニ俗ニ熟成ト稱セラルル變化ノ起ルコトヲ知り其變化ノ程度ニ依リ著シク商品價値ヲ左右スルコトヲ認識シタリ因テ此變化カ如何ナルモノニシテ又如何ニ商品價値ト關係ヲ有スルヤヲ究メ更ニ進ンテ如何ナル方法ニ依リ其善變化ヲ開發助長シ若クハ促進シ得ヘキヤト云フコトヲ目的トシテ試験ヲ行ヒ其成績ヲ發表セリ。

四、調味料製造試験

水産物ハ調味料ノ原料ニ適應スルモノ多シト雖モ本邦ニ於テハ未タ之ガ利用ノ途開發セラレサルモノ少カラス鯷又ハ貝類ノ如キ其一例ナリ。

本所ハ之ヲ遺憾トシ昨年來此等原料トスル調味料ノ製造試験ヲ開始シ本年度ニ於テハ幾分満足スベキ結果ヲ得ルニ至リ本事業ノ工業トシテ成立シ得ベキコトノ確信ヲ得ルニ至レリ本試験ハ更ニ明年ニ繼續シ工業的見地ヨリ研究センコトヲ期セリ。

五、低熱罐詰法ノ理論的研究

昨年度ニ於テ低熱罐詰法ハ包藏法ヲ主體トセルモノニシテ「アツペール」法ヲ主體トスルモノニアラザルベシト云フ推論ヲ得タリ本年度ニ於テ試験セシ結果ニ基クニ此推論ハ稍、正鵠ヲ得タルモノト承認シ得ラルルヲ以テ將來ニ於テハ更ニ同思想ノ應用ヲ擴張シ一般食品貯藏方法ノ新ナル研究ヲ誘出シ得ベシトノ概念ヲ得ルニ至レリ。

六、魚膠試驗

水産物原料トスル水膠試験ハ既ニ成效シ民間

試験及調査

ニ其製造ヲ開始シ輸入ヲ防遏スルニ至リタルヲ以テ固形膠ノ試験ニ移リ現今専ラ食用「ゼラチン」ノ製造及ヒ膠利用試験トシテ飛行機ニ魚膠ヲ利用スル研究ヲ開始セリ。

七、魚油硬化及ヒ精製試験

硬化試験ハ鯨油、鱈油、鮭油等ニ就テ之ヲ行ヒ又精製試験ハ工業用鱈油ヲ藥用タラシムル目的ノ下ニ之ヲ行ヘリ。

八、製革試験

臘豚獸毛皮ノ鞣製及ヒ色染試験ハ前年來ノ試験ヲ繼續シ共ニ一段ノ進歩ヲ觀タリ。又抹香鯨ノ頭皮ハ質硬ク含油量少ナク食用若クハ採油用トシテ不適當ナルヲ以テ之ガ製革試験ヲ行ヒ靴底革トシテ稍、適當ナル製品ヲ得タリ。

五 化學試驗部

一、魚類白子ノ研究

前年度に比べ、より、むつ、すすき、さわら、いしなぎノ白子ヨリ六種ノ新シキ「プロタミン」ヲ發見シ、其化學的性狀並ニ生理的作用ニ就キテノ研究ノ結果ハ已ニ之ヲ公表セリ、本年度更ニかつを、おひようノ白子ヨリ二種ノ「プロタミン」ヲ分離シタリ。

二、水産物營養價値試驗

本試驗ハ本邦食物ノ主要部ヲ占ムル水産物ノ成分及ヒ營養價値ヲ明ニセントスルニアリ、本年度水産動物ノ筋肉蛋白質十數種ヲ分析シ旁ラ代表的ノモノ數種ヲ撰ミ之ヲ以テ之ヲ唯一ノ窒素源トスル人工營養物ヲ調製シ依テ動物試驗ヲ施行シタルニ興味ナル結果ヲ得タリ。

三、うるしぐさ及ビあさくさのり

ノ研究

試驗ノ都合上研究ヲ行ハス。

四、鯉節ノ研究

(イ) 製造工程中ノ變化其他ニ關スル研究ハ本所試驗報告第八卷第一冊及ヒ第十冊ニ報セシカ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ鹿兒島、高知、三重、静岡、福島ノ五縣ト聯合シテ行ヘル普通法及ヒ濕乾法ノ比較試驗品(前年度品評ヲナセルモノ)ニ就キ成分ノ分析試驗ヲ完了セリ。

(ロ) 前年度ヨリ繼續試驗ナル漁場ノ相違ニヨル鯉肉ノ成分比較ニ關スル試驗モ亦完了ヲ告ケタリ。

五、調味料ニ關スル研究

本年度ニ於テ鯉節研究ノ結果弘ク魚類ノ鮮肉ヨリ鯉節ト同様ノ調味料ヲ化學的ニ容易ニ製造スル方法ヲ案出シ特許ヲ得次テ「イノシン酸」ニ關シ研究ニ着手セリ。

六、昆布醬油釀造試驗

本年度都合ニヨリ試驗ヲ行ハス。

七、寒天原料藻類ニ關スル調査試驗

本年度各地産原藻ノ凝固力測定ニ就キ試驗セル結果當業者ノ賞揚スル伊豆産石花菜ノ凝固力優秀ナルヲ確メ又從來劣等視セラレタル他國産石花菜中ニモ前者ニ劣ラサル良品アルヲ發見セリ。

八、寒天製造上おごノ配合率ニ

關スル調査試驗

試驗ノ結果製品ノ凝固力ハおごヲ配合スヘキ石花菜ノ品質ニ大ナル關係ヲ有スレトモおごノ配合三割ヲ超過スルトキハ石花菜ノ品質特ニ優秀ナルカ又ハ製法極メテ巧妙ナルニアラサレハ製品ノ凝固力良好ナラサルコトヲ確得シタリ。

九、苦汁利用試驗

試驗ノ都合上行ハス。

一〇、海藻沃度加里含量調査試驗

試驗及調査

四、鯉節ノ研究

(イ) 製造工程中ノ變化其他ニ關スル研究ハ本所試驗報告第八卷第一冊及ヒ第十冊ニ報セシカ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ鹿兒島、高知、三重、静岡、福島ノ五縣ト聯合シテ行ヘル普通法及ヒ濕乾法ノ比較試驗品(前年度品評ヲナセルモノ)ニ就キ成分ノ分析試驗ヲ完了セリ。

(ロ) 前年度ヨリ繼續試驗ナル漁場ノ相違ニヨル鯉肉ノ成分比較ニ關スル試驗モ亦完了ヲ告ケタリ。

五、調味料ニ關スル研究

本年度ニ於テ鯉節研究ノ結果弘ク魚類ノ鮮肉ヨリ鯉節ト同様ノ調味料ヲ化學的ニ容易ニ製造スル方法ヲ案出シ特許ヲ得次テ「イノシン酸」ニ關シ研究ニ着手セリ。

六、昆布醬油釀造試驗

本年度都合ニヨリ試驗ヲ行ハス。

前年度ヨリ繼續シ千葉縣水産試驗場ト協力シ試驗ヲ施行セシカ不幸ニモ水害ノ爲九月以後ハ中止ノヤムナキニ至レリ、本試驗ハ試驗資料採集上從來ノ方法ニ缺點アルヲ認メ特ニ本所員ヲ特派シテ資料ヲ精撰シ更ニ試験ヲ續行セントス。

一一、鯉節微ニ關スル試驗

本年度鯉節ノ名産地ナル静岡、高知、鹿兒島ノ三縣ヨリ同地ニ於テ普通良種ト認メラルル微種ヲ得研究ヲナシ良種ヲ撰擇シ引續キ實地微付試驗ヲ施行セントス。

一二、罐詰腐敗細菌ニ關スル研究

本研究ハ罐詰内容ノ變化ノ主因トシテ罐内ニ生存スル細菌ノ性狀ヲ闡明セントスルニアリ、本年度ハ水蒸類及ヒ鯉油漬罐詰ニツキ細菌ノ發育適温及ヒ性狀ニツキ研究セリ。

一三、牡蠣ノ細菌學的調査

本邦養蠶場及ヒ市販ノ牡蠣ノ受クル汚水ノ影響程度ヲ檢セントシ神奈川縣下金澤ナル本所養蠶場、品川灣ニ於ケル東京府養蠶場及ヒ深川ニ於ケル市販牡蠣ニ就キ細菌學的檢査ヲ行ヒタルニ米國合衆國ノ檢査標準ニ照シ大部分合格セリ。

一四、本所「ドック」海水ノ

細菌學的調查

本成績ハ網絲腐敗ニ關スル試驗ノ一部トシテ施行セルモノニシテ大正六年一月ヨリ同十二月ニ至ル期間毎月十五日海水ノ細菌數ヲ檢セリ、其結果諸細菌數ハ概シテ溫度ノ高低ニ比例シ著シキ増減ヲナセルヲ窺知セリ。

六 漁船機械試驗部

一、推進器保護裝置試驗

補助機關附漁船ニテ網漁業ヲ行フ場合ニハ推進器ヲ保護スルコト肝要ナリ本所ハ大正四年度ヨ

故ニ傾斜ト推進力ノ試驗ヲ行ヒ漁船ノ推進效力ヲ増大セシムル必要ヲ認メ其試驗ヲ施行中海嘯ノ爲メ本試驗ヲ中止セリ。

五、彫刻機

佛國ヨリ購入シタル彫刻機ニ改良ヲ加ヘ同時ニ同形ノ貝卸數個ヲ彫刻シ得ル様改造シ好結果ヲ得タリ尙ホ彫刻用及物ノ彫刻速度及物鋼ノ品質等ニ就キテ試驗中ナリシカ海嘯ノ爲メ機械ヲ破損シ本試驗ヲ中止セリ。

六、貝卸ノ加工機

貝卸ノ加工機ハ他ノ工業用諸機械ニ比スレハ甚タシク遜色アリ故ニ本所ハ大正五年度ニ於テ貝卸加工機並ニ工具一般ノ調査ヲナシ尙本年モ引續キ之カ調査ヲ繼續中海嘯ニヨリ調査書類ヲ流失セリ。

七、冷蔵庫應用試驗

試驗及調查

リ之カ研究ニ從事シ具體案ヲ得タルヲ以テ大正六年度ニ於テ實物試驗施行中海嘯ニヨリ其裝置ヲ流失シ本試驗ヲ中止セリ。

二、一重漁艇試驗

和船型ノ漁艇ヲ「ドローリー」艇ノ如ク重ネ得ル様ニ製作シ試驗シタルニ成績良好ナリシヲ以テ石川、長崎兩縣水産試驗場ニ於テ使用中ナリ。

三、船底防腐ニ關スル試驗

船底塗料ハ種類多クアリト雖モ其效力未タ不明ノモノ多キヲ以テ本所ハ昨年度ニ於テ小規模ニ之カ試驗ヲ行ヒタルモ何等具體的結果ヲ得ザリシカ大正六年度モ本試驗ヲ施行中海嘯ニヨリ試驗材料ヲ流失シ試驗ヲ中止セリ。

四、推進器傾斜試驗

螺旋推進器軸ハ水平ニ据付クルヲ可トスレトモ漁船ハ其ノ構造上大ナル傾斜ヲ附セサルヲ得ス

大正六年度ニ於テ冷蔵庫ヲ應用シ鱈肝油及抹香鯨ノ蠟分分離試驗ヲ施行中海嘯ノ爲メ中止セリ。

八、簡易冷蔵法ノ試驗

本冷蔵法ハ鹽水ヲ真空蒸發槽内ニ送り其ノ一部ノ蒸發潛熱ヲ殘部ノ鹽水中ヨリ奪取セシメテ低溫度ノ鹽水ヲ得之ヲ冷却媒介劑トスル方法ニシテ最モ漁船ノ冷蔵法ニ適スト認メ之カ試驗中海嘯ニヨリ試驗裝置ヲ流失シタルヲ以テ本試驗ヲ中止セリ。

九、副漁具設計ニ要スル張力調査

大正四年度ニ於テ千葉縣下ノ鰮揚網括網及ヒ鰮延繩、幹繩ノ張力捲揚速度ノ調査ヲナシ大正五年度ニ於テ宮城縣水産試驗場及ヒ富山縣水産試驗場ト協力シテ鰮刺網及ヒ鰮大敷網ノ調査ヲ遂ケタリ尙引續キ他ノ漁業ニ就キ之カ調査ヲ繼續中海嘯ノ爲メ調査書類及調查用器械ヲ悉ク流失

シタルヲ以テ本調査ヲ中止セリ。

十、速度變換「キャブスタン」

大正五年度ニ於テ網具又ハ繩具ヲ捲揚ケ然モ捲揚速度ヲ平滑ニ變換シ得ル「キャブスタン」ヲ設計シ之カ試驗ヲナシ稍、好結果ヲ得タリ大正六年ニ於テ傳達馬力機械の効率ノ増進並ニ取扱ノ研究ヲナセリ其成績良好ナリシヲ以テ山口、愛媛兩縣水産試驗場ニ於テ同機ヲ製作シ試驗中ナリ。

一一、「フレキシブルシャフト」ニ

依ル「ラインホーラー」

小形漁船内ニ於テ据付場所ノ節約ト同時ニ任意ノ位置ニ据付ケ得ル目的ヲ以テ「ワイヤーロープ」ニテ簡單ニ動力ヲ傳達セシムル「ラインホーラー」ヲ試驗セルカ結果良好ナリキ尙傳達馬力動力傳達ニ伴フ「シャフト」ノ伸縮据付方法等ニ就キ試驗中海嘯ノ被害ヲ受ケ本試驗ヲ中止セリ。

一二、發動機ノ甲板操縱裝置

從來漁船ノ發動機ハ機關室ニテ回轉ノ調整及ヒ逆轉器ノ操縱ヲ行ヘリ而シテ各種ノ網漁業繩漁業ニ於テハ船體ノ操作ヲ敏活ニシ且ツ漁撈長ノ意ノ如クニ船體ヲ操縱セントスル場合ニ於テ船體ノ操縱者カ直ニ發動機ノ操縱ヲ行ヒ得ルヲ要ス依リテ本所ハ甲板上ニテ側路弁及ヒ調速器ヲ操縱シテ回轉調整ヲナシ軸振リ竿仕掛ニテ逆轉器ノ操縱ヲナシ得ル裝置ヲ案出シ福島縣水産試驗場所屬發動機船塲城丸ニ据付ケ試驗ヲ行ヒタルニ成績良好ナリ。

一三、海中震動覺知器

本器ハ魚波ヲ感受シ魚類ノ集合ヲ覺知セントスル器械ニシテ大正二年以來之カ試驗ヲ繼續中海嘯ノ爲メ器械ヲ流失シ本試驗ヲ中止セリ。

一四、乾燥機試驗

乾燥機内ノ氣流溫度乾燥率等ノ試驗ヲ繼續中海嘯ノ爲メ被害ヲ受ケ本試驗ヲ中止セリ。

七 編纂部

大正六年度ニ於テ編纂出版シタル試驗報告ハ第十卷第一冊ヨリ第六冊マテニシテ其細目ハ卷末ニ記載セリ此他漁業基本調査報告第五冊ヲ出版シタリ。

八 試驗鑑定及設計等ノ依頼

本所試驗規則ニ依リ大正六年度中試驗鑑定等ヲ出願セル總數五十四件ニシテ其ノ種類ヲ大別スレハ左ノ如シ

六件

食物製造及食用落花生油ノ良否鑑定	二十件
製造試驗	十六件
機械鑑定	四件
漁具染料其他試驗	八件
計	五十四件

右ノ中主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

油漬罐詰用落花生油及胡麻油脫臭精製試驗オリ
 一、ブ油ノ鑑定、落花生油ノ鑑定、冷蔵庫ヲ應用シ抹香鯨ノ蠟分ヲ分離スル工業的試驗、冷蔵庫ニテ鱈肝油ノ蠟分分離方法ノ製品ニ及ホス關係、サンダー式製罐試驗、紅鱈流網蟹刺網漁業試驗等ナリ。

第四章 本所敷地建物及諸設備

明治三十年本所創立ノ當時ニ於テハ舊水産講習所ノ建物ヲ充用シタリシカ同三十三年新築ノ必要ヲ感シ位置ヲ東京市深川區越中島ニトシ同年四月工ヲ起シ同三十五年三月即チ滿三箇年ニシテ竣工

本所敷地建物及諸設備

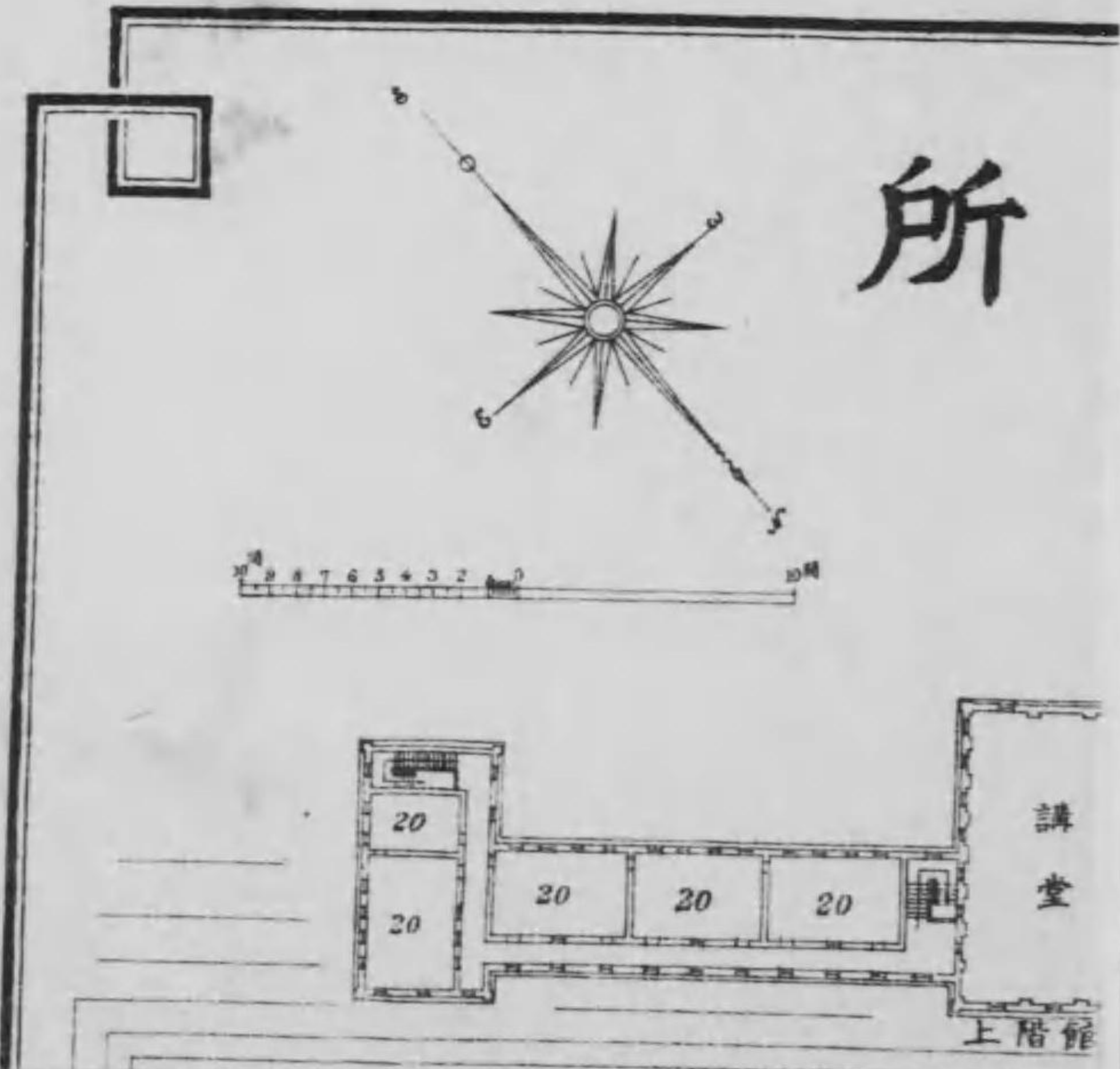
セリ敷地面積一萬四百三十二坪餘内繋船場千九百二坪餘アリ其後冷蔵庫、船塲場、製革實習場等ノ増築ヲナシ同四十二年ニハ圖書及標本室ヲ同四十四年ニハ各種試驗ニ使用スヘキ家屋ヲ新築シタ

リ同四十三年海嘯ニ依リ實習場其他蓄電池室破壊シタルヲ以テ之ヲ改修シ其際蓄電池室、汽罐室等ノ爲ニ三十三坪餘ノ増築ヲ爲シ又冷蔵庫ハ大正二年八月火災ニ罹リ焼失シタルヲ以テ之ヲ改築シ縮メコロフ式乾燥室、「ドラフトチャンバー」及恒温室ヲ増築シタ
同六年十月暴風海嘯ニ依リ本所建物ハ總テ多少ノ被害アリ殊ニ後方面ノ諸建物（漁撈製造ノ實習室、冷蔵庫、調理及製革實習場及寄宿舎並ニ附屬建物等）ハ殆ンド倒壊シタルヲ以テ目下復舊工事中ニ屬ス、而シテ教室、試験室、寄宿舎、圖書及標本室其他ノ配置、實驗室及實習場ニ於ケル設備ハ大要左ノ如シ

第一節 廳 舍

本所ノ建物ハ本館、實驗室、試驗室、實習室、圖書室、標本陳列室等ヨリ成ル
本館ハ二階建ニシテ教室、事務室、講堂等ニ充ツ、教室ハ一室六十人ヲ容ル、コトヲ得其數十二室アリ其他物理、化學ノ特別教室物理實驗室及準基礎機械室等ヲ設ク、講堂ハ面積七十七坪ニシテ各室ニハ暖房裝置アリ
中央ノ一棟ハ平家建ニシテ實驗室ニ充ツ其中部ハ養殖科並ニ細菌學ニ關スル實驗及實習ノ用ニ供シ他ノ中部ハ化學分析室トス
後部ニアル一棟ノ實習場ハ平家建ニシテ漁撈、製造ノ二ニ分チ其一部ヲ漁撈實習室ニ充テ網具、釣具、船具等ノ設計、製作、修補ノ場所及製圖室トナス他ノ一部ヲ製造ノ實習場トシ沃度、油蠟、罐詰及汽罐室等ニ分ツ

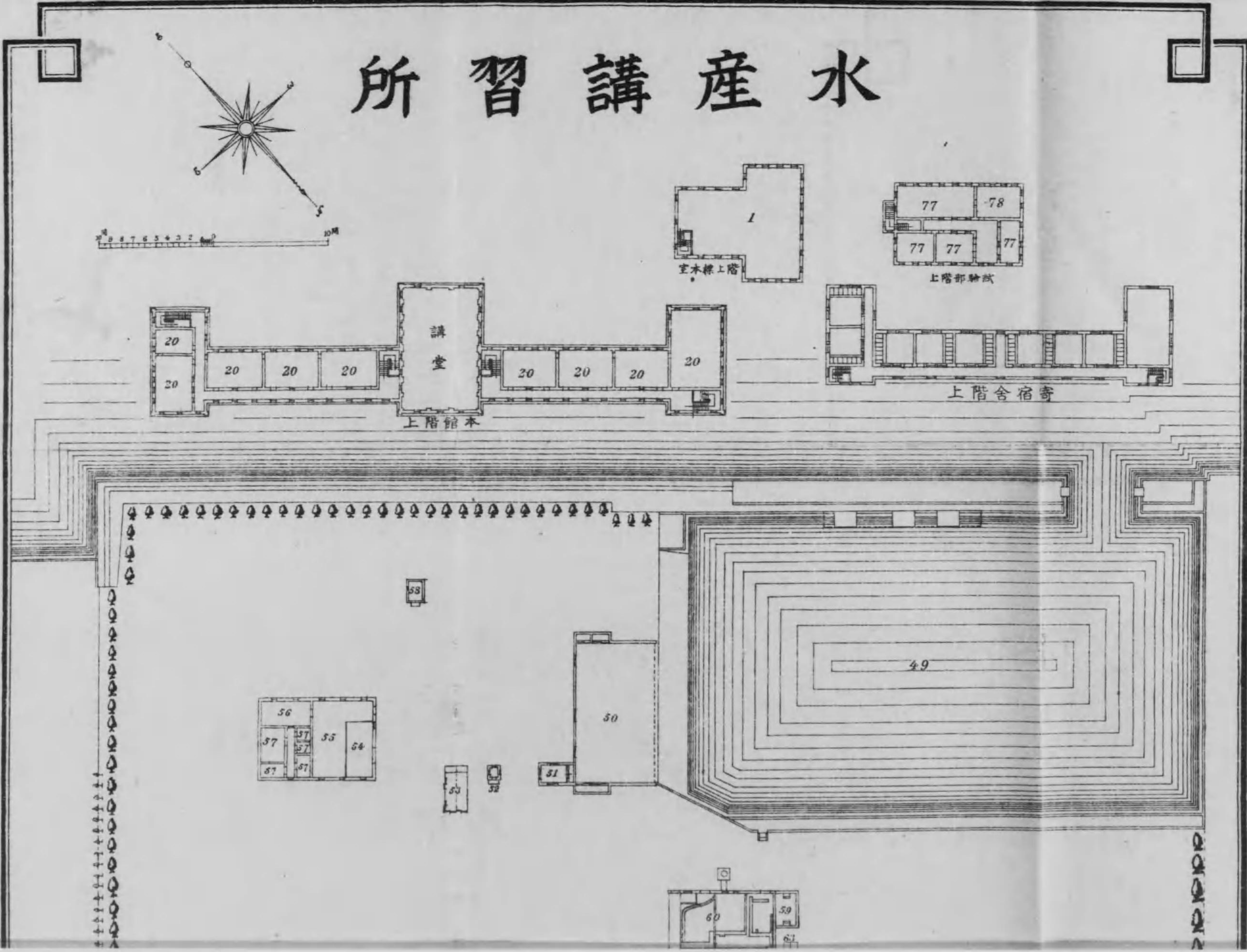
最後方ニ冷蔵庫アリ冷凍ニ關スル試驗及實習ヲ行フ又其側ニ調理場及製革實習場ヲ設ク
圖書及標本室ハ別棟トシ其階上ヲ漁撈及養殖ニ關スル標本ノ陳列ニ充テ階下ノ一室ヲ製造標本ノ陳列室トシ他ノ一部ヲ書庫トナシ生徒閱覽室ヲ附屬セシム
各種試驗ニ使用スヘキ家屋ハ明治四十四年三月竣工シ階下ヲ化學、生物學等ノ實驗室トシ階上ハ漁業基本調査部及漁船漁具等ノ陳列室トセリ
艇庫ハ流艇ヲ引揚クヘキ起重機ヲ備ヘ又發動機ノ馬力ヲ檢定シ得ル運轉臺ヲ裝置セリ
繫船場ハ敷地ノ一隅ヲ區劃シテ水門ヲ設ケ實習用ノ端艇及ヒ流艇ヲ繫留スル所トス
寄宿舎ハ二階建ニシテ自修室ト寢室トヲ兼テ室ノ一隅床上二尺五寸ノ高サニ寢臺ヲ設ケ一室六人ヲ定員トス
體育獎勵ノ趣旨ヲ以テ學友會ニ運動部ヲ置キ寄宿舎ノ前庭ニ柔道及擊劍道場ヲ設ク
電燈及ヒ原動力ハ作業ニ使用セル汽罐ノ蒸氣ニ依リテ發動機ヲ廻轉シ又更ニ蓄電池ヲ設ケテ常ニ剩餘ノ電氣ヲ蓄ヘ置キ以テ點燈ニ供シ又機械運轉ノ原動力トシテ隨所ニ其動力ヲ應用セリ、然ルニ明治四十三年七月海嘯ノ爲メ蓄電池ヲ破壊セラレタルニ依リ點燈用電力ヲ他ニ仰クノ已ムヲ得サルニ由リ其設備ヲ爲シ蓄電池室ヲ中庭ニ移シ且「モーターゼネレーター」室ヲ設ケ本所發電ノ電力ト他ノ電力トヲ併用シ得ルコトトセリ

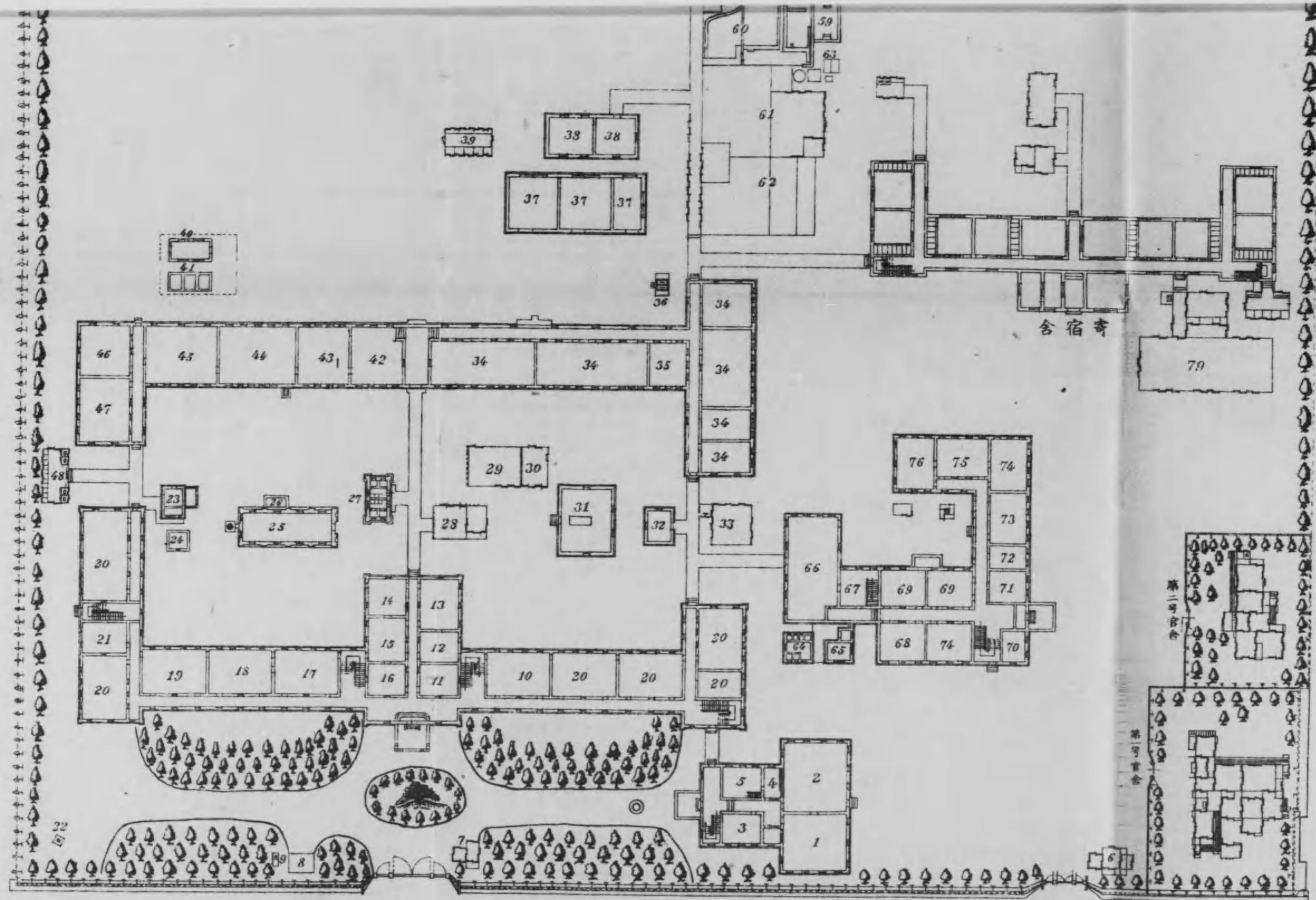


- 53 52 5 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79
- 製糖部
 - 煉製室
 - 調理室
 - 冷蔵庫汽罐室
 - 同機及製水機
 - 汽罐室
 - 物置
 - 發動機室
 - 油蠟室
 - 沃度室
 - 浴室
 - 便所
 - 定夫室
 - 生徒控室
 - 製品置場
 - 製造傳習部
 - 製造試驗部
 - 暗室
 - 天秤室
 - 生理化學室
 - 淡水養殖室
 - 電氣分解室
 - 海洋調査部
 - 漁撈標本室
 - 道場

所

水産講習所





舍宿奇

79

第一号宿舍

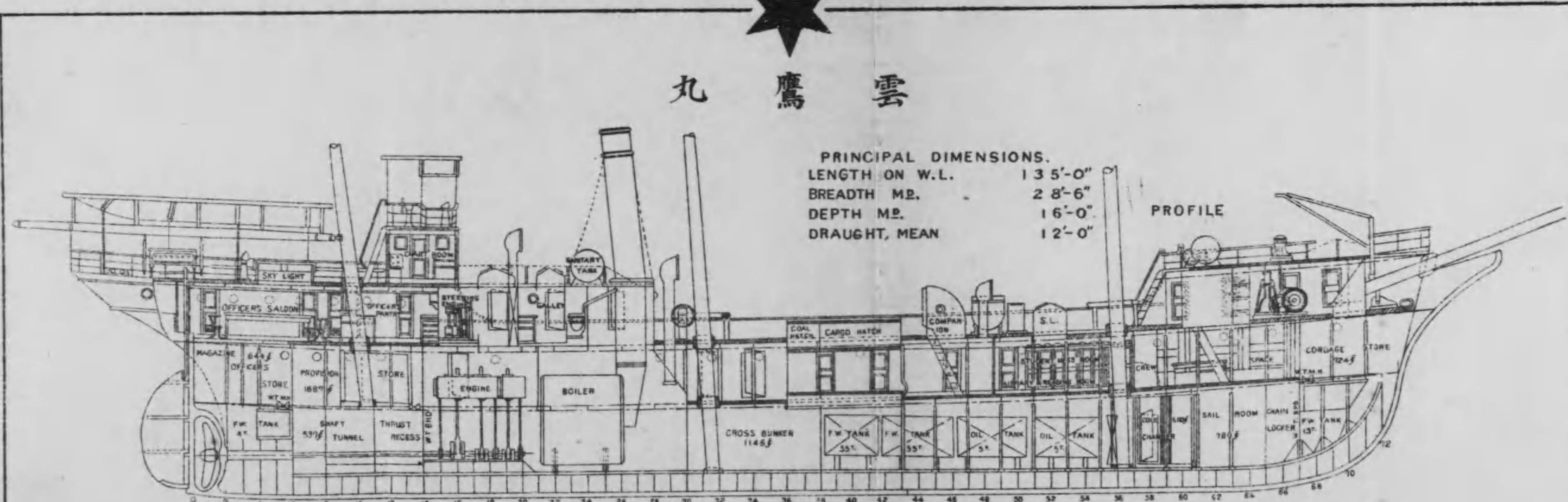
第二号宿舍

- 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
- 標本室 圖書閱覽室 特別閱覽室 圖書室 書庫 專門事務所 表門同上 供待所 同便所 教務課 應接室 宿直室 教直室 所長室 庶務課 庶務室 庶務會計室 會議室 航海、海洋學機械室 物理準備室 百葉窗 細菌培養室 恆溫室 暖房汽爐室 蒸餾器室 職員便所 小使室 商人控所 倉庫 藥品室 分析室 同秤室 天秤室 酸類蒸發室 蓄電池室 魚病研究室 養殖試驗部 植物實驗室 動物實驗室 細菌室 同菌室 便所 船場 發動機試驗室 調理室 冷藏庫汽罐室 同機補及製水機 冷藏庫 汽罐室 發動機室 油機室 浴室 便所 定夫室 生徒控室 製造傳習部 製造試驗部 暗室 天秤室 化學試驗部 生理化學室 淡水養殖室 電氣分解室 海洋調查部 運標本室

九 鷹 雲

PRINCIPAL DIMENSIONS.
 LENGTH ON W.L. 135'-0"
 BREADTH M.B. 28'-6"
 DEPTH M.B. 16'-0"
 DRAUGHT, MEAN 12'-0"

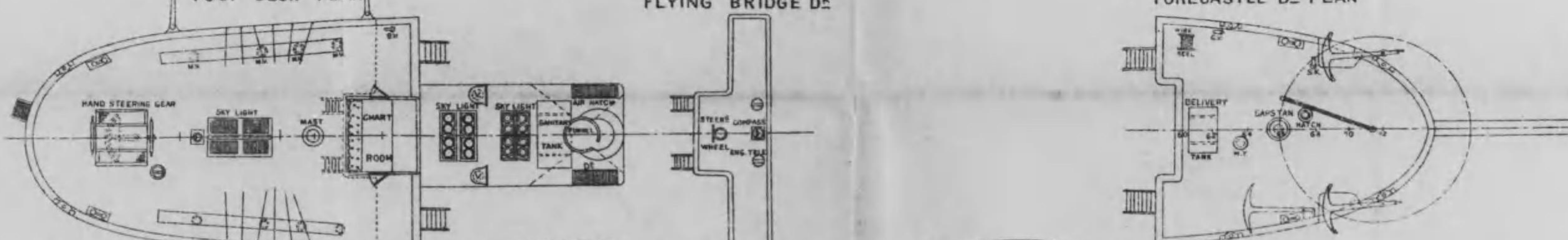
PROFILE



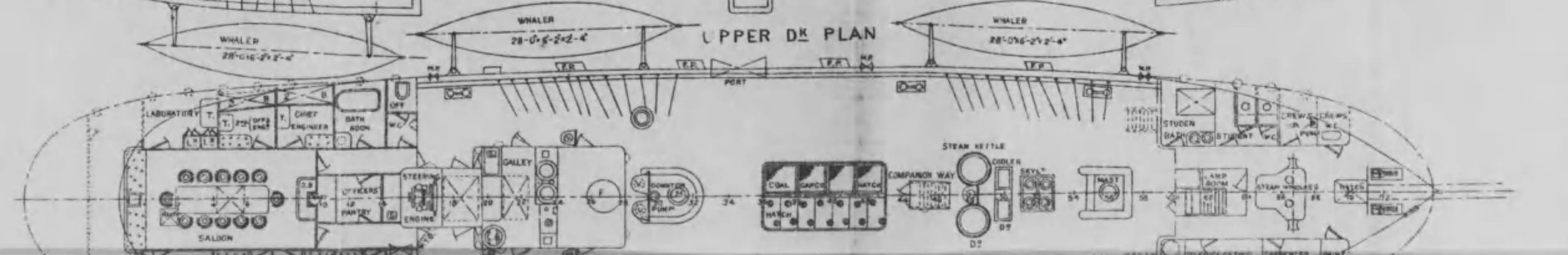
POOP DECK PLAN

FLYING BRIDGE DECK PLAN

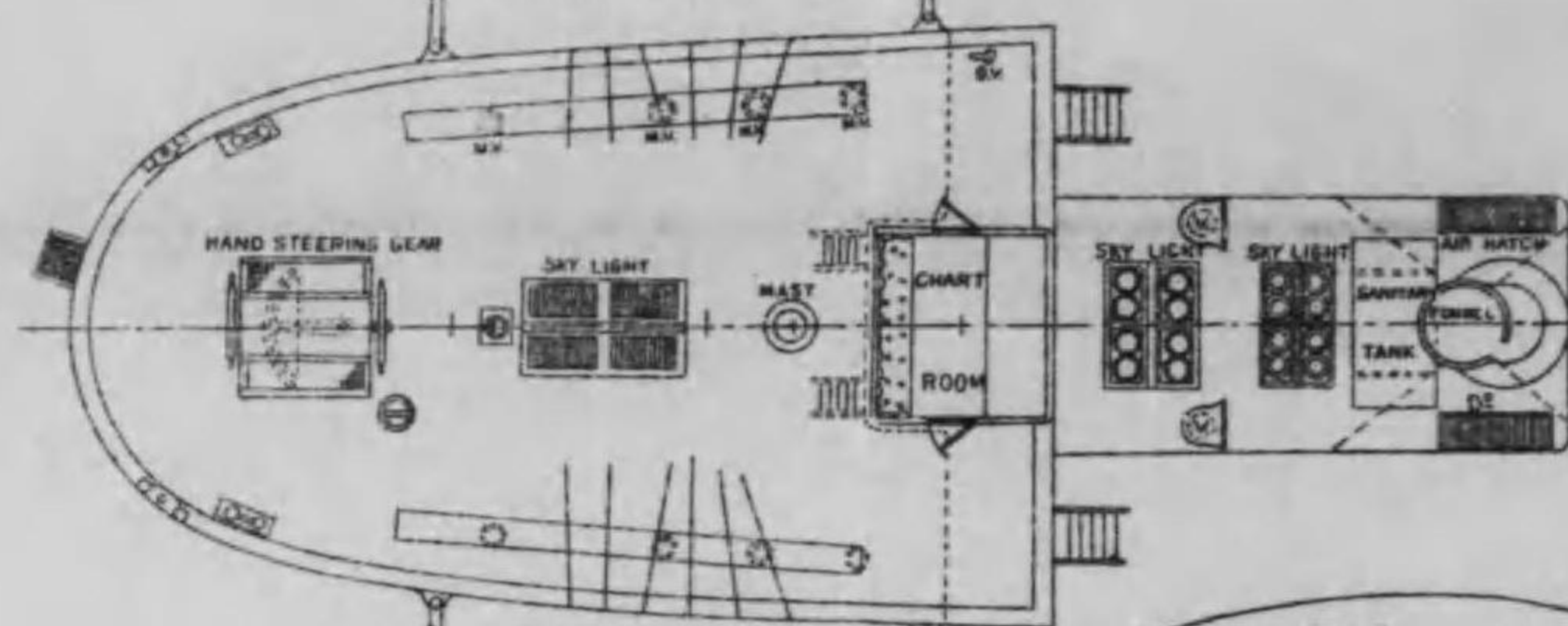
FORECASTLE DECK PLAN



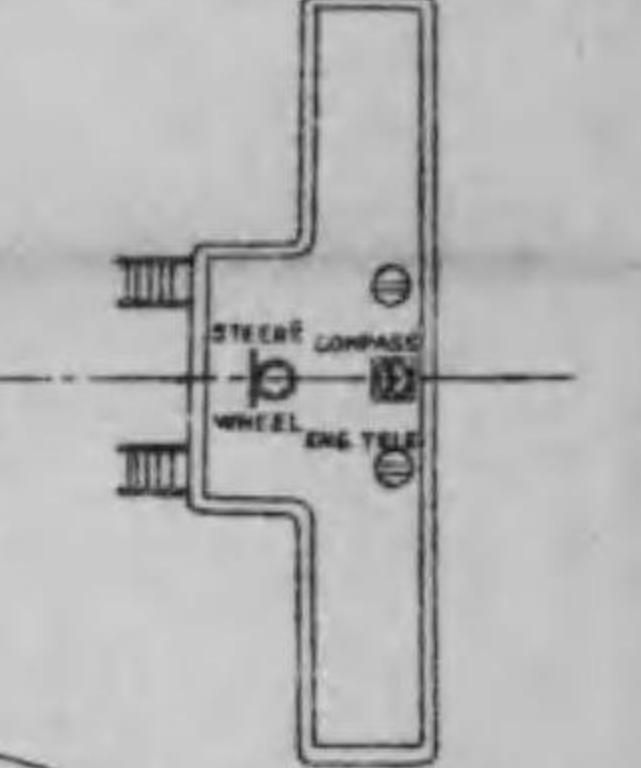
UPPER DECK PLAN



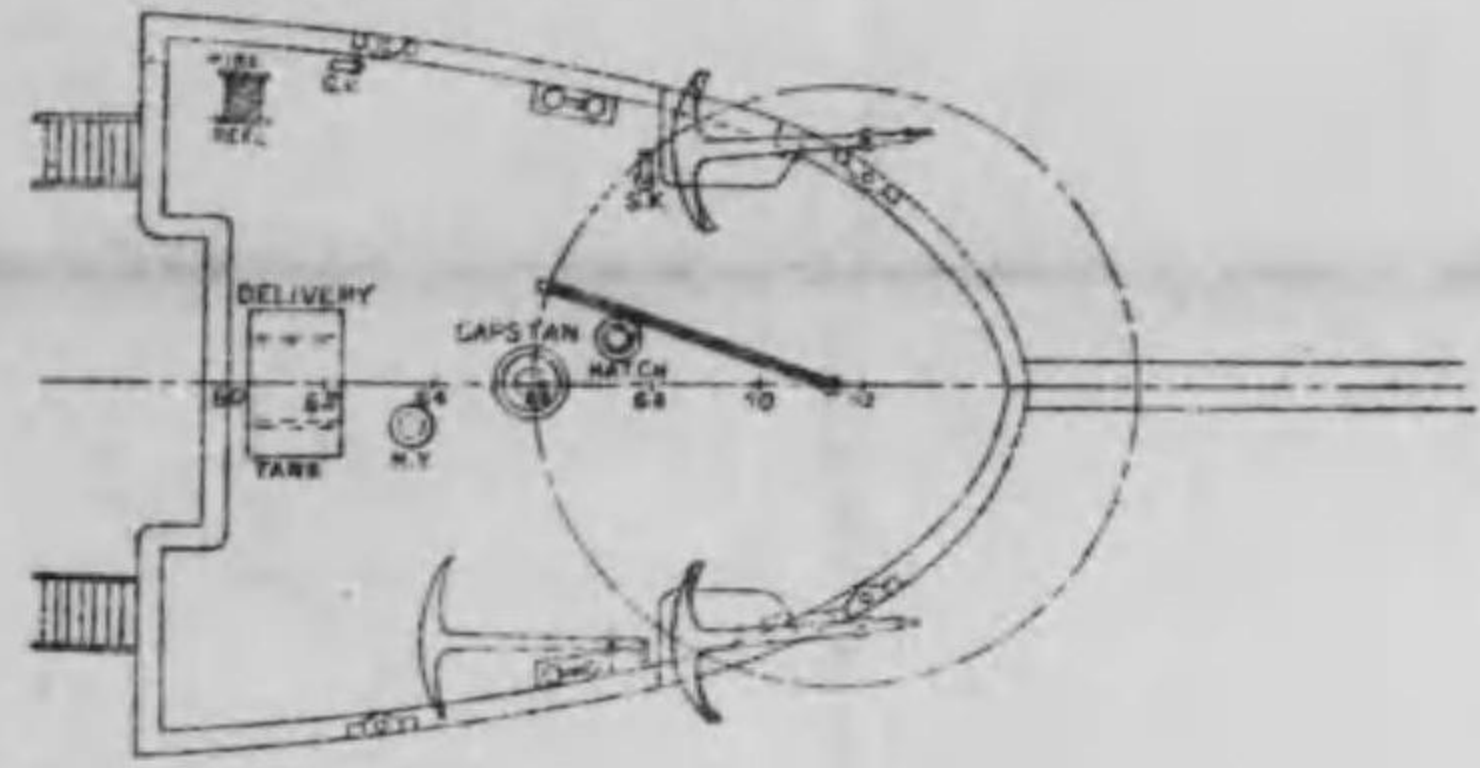
POOP DECK PLAN



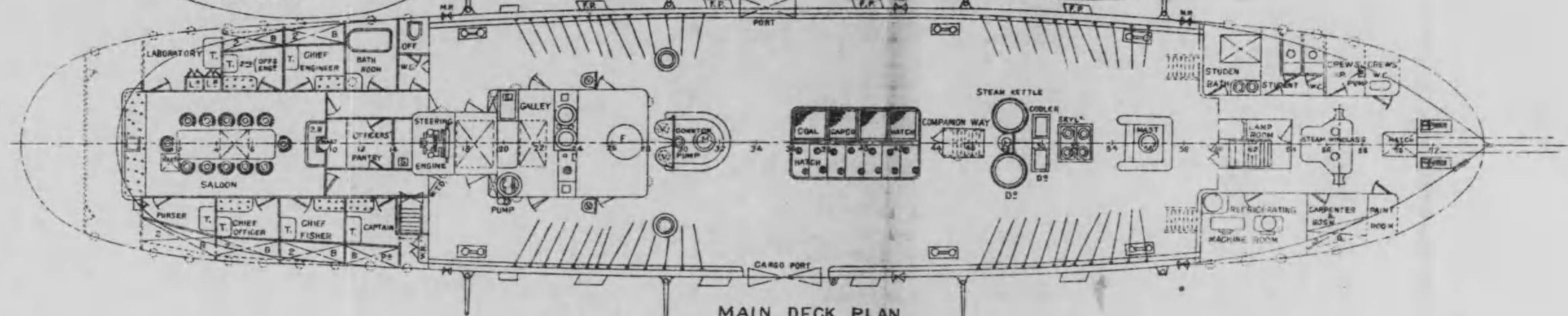
FLYING BRIDGE DECK



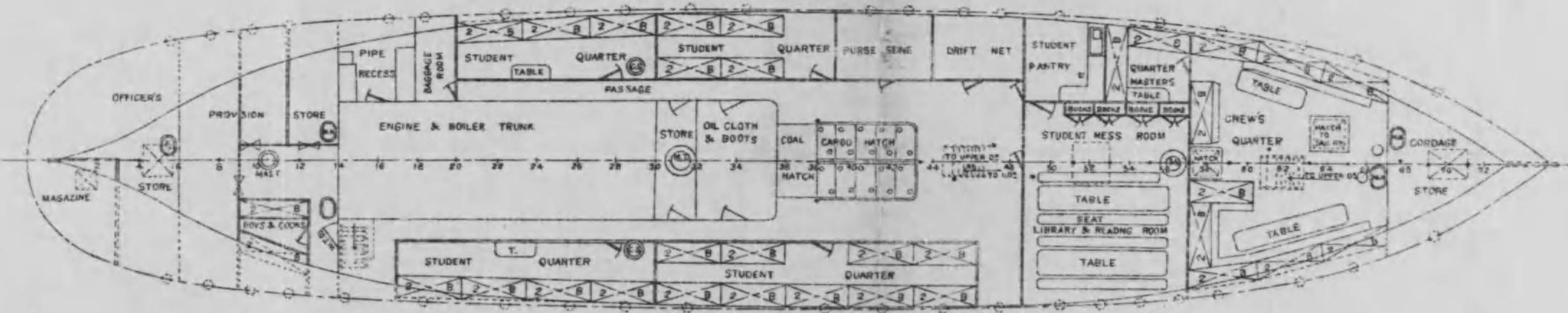
FORECASTLE DECK PLAN



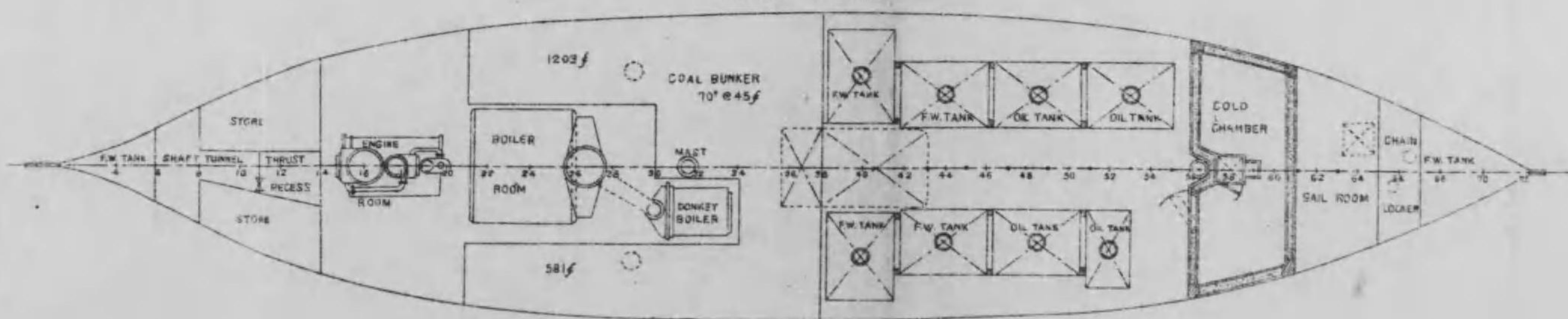
UPPER DECK PLAN



MAIN DECK PLAN

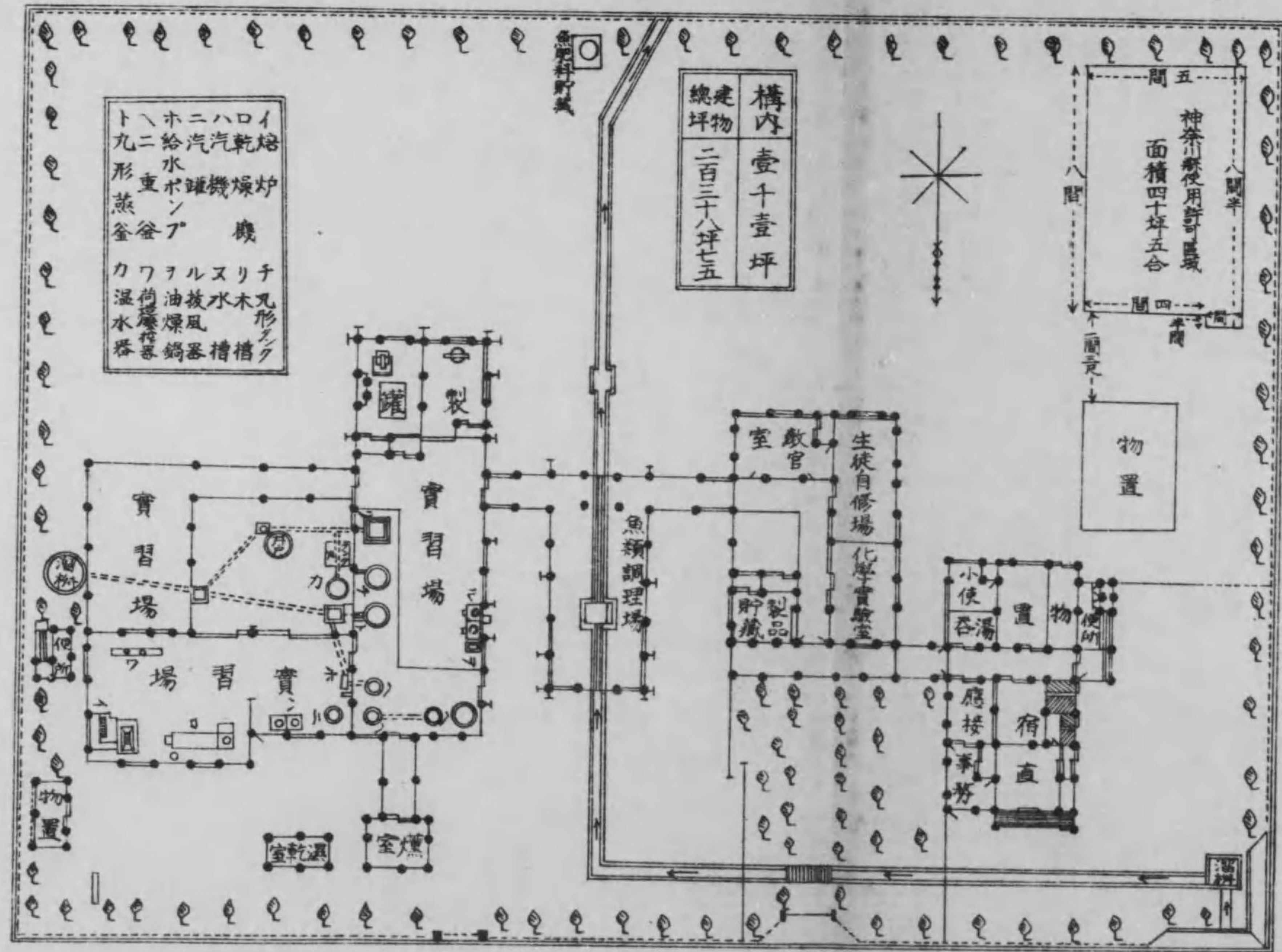


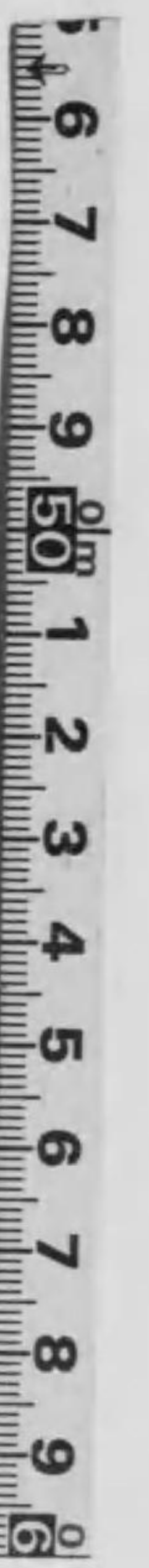
HO'LD PLAN.



平均吃水	深	幅	长	總噸
一六〇〇	一八	四二	一四二	一四〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

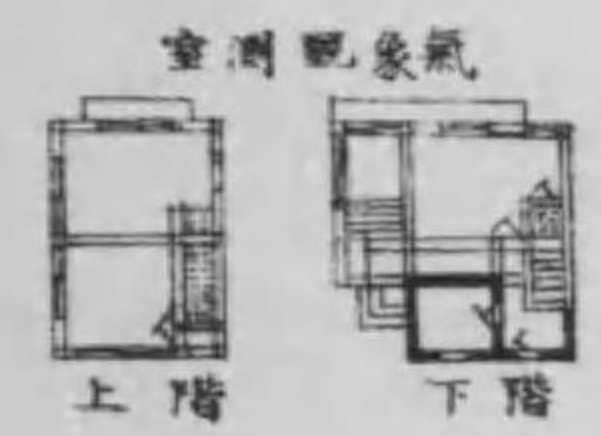
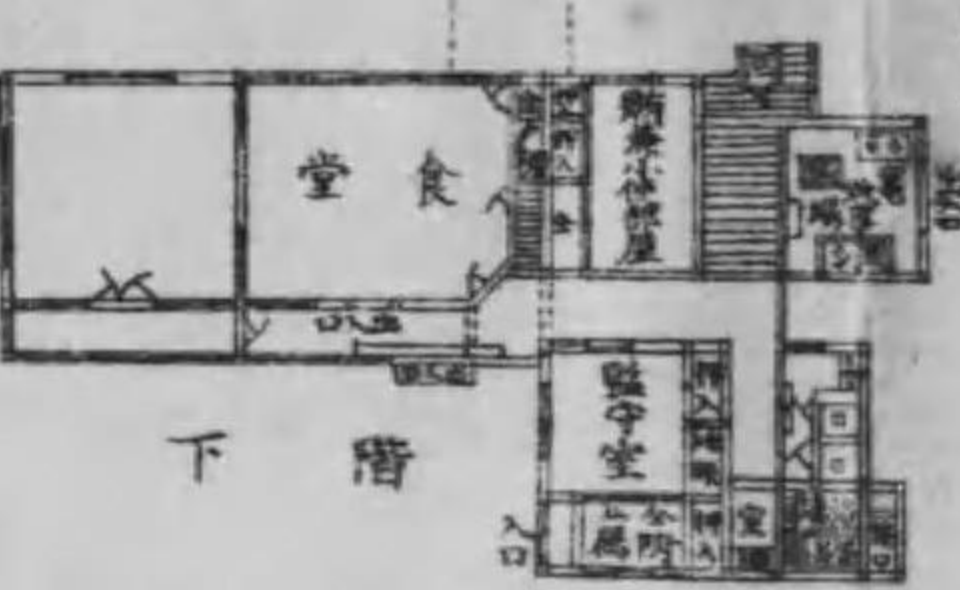
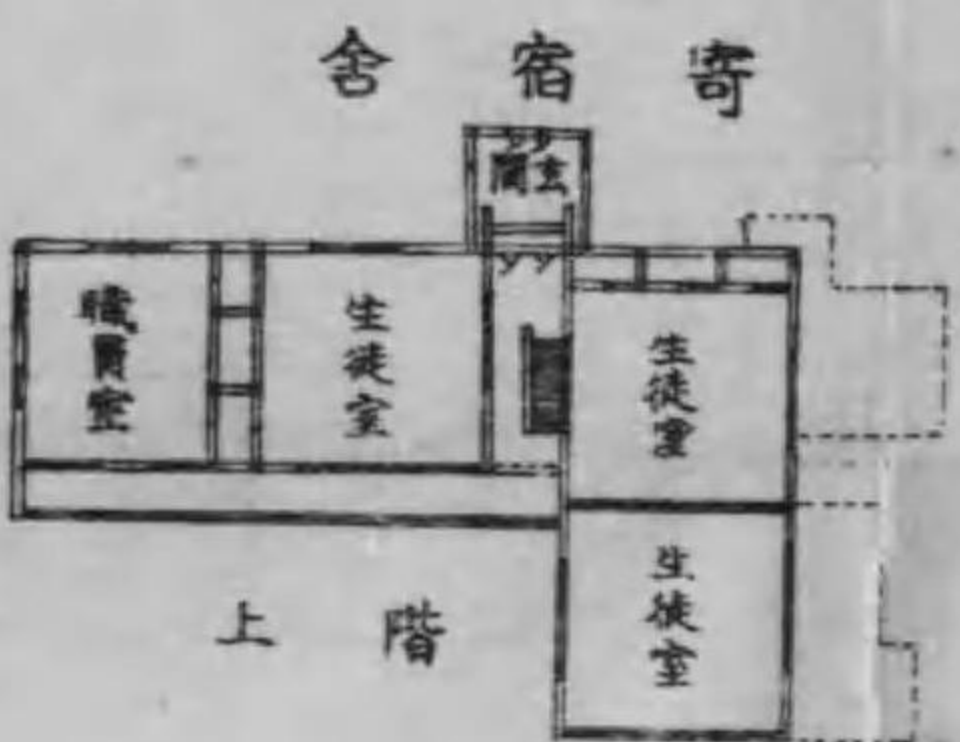
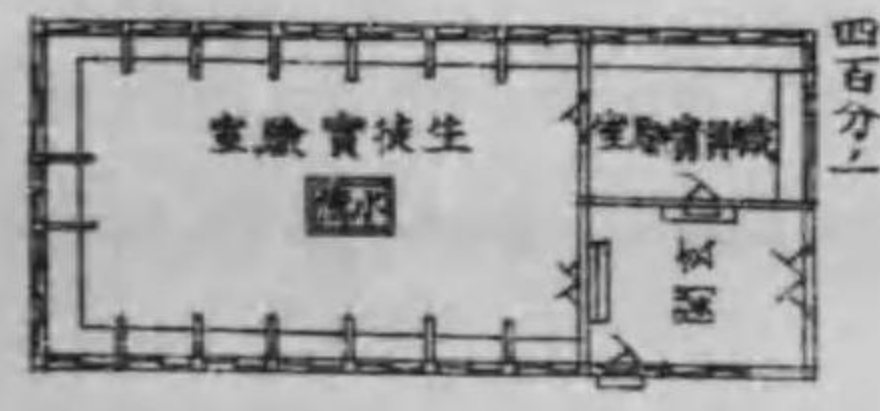
小田原實習場





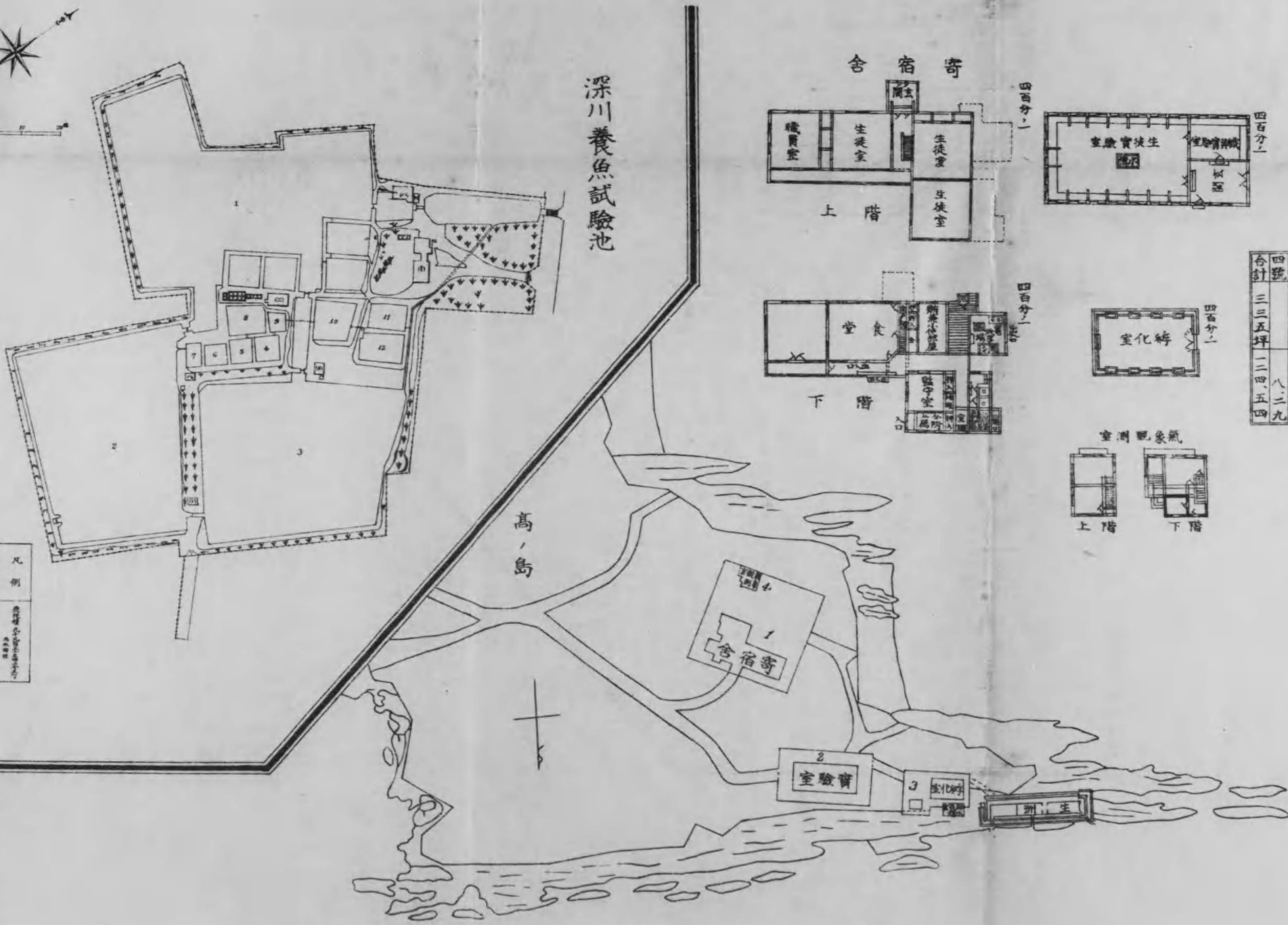
高島實驗場
縮尺一千二百分之二

敷地	建物
一號 一六〇坪	五六坪二五
二號 一九九坪	四五〇〇
三號 五六坪	一五〇〇
四號 八二九	二四五四
合計 三三五坪	



深川養魚試驗池

高島



凡例	凡例
一 凡例	一 凡例
二 凡例	二 凡例
三 凡例	三 凡例
四 凡例	四 凡例
五 凡例	五 凡例
六 凡例	六 凡例
七 凡例	七 凡例
八 凡例	八 凡例
九 凡例	九 凡例
十 凡例	十 凡例

第二節 諸設備

一 船 艇

一 雲鷹丸

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「バーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十八噸ニ五アリ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助汽關ヲ備ヘ汽力平均速力八哩半ナリ

本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年二月進水シ三月試運轉チナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ生徒ノ實習ニ供セリ其構造大要ハ本船ノ船尾樓ハ士官室、士官會食室及配膳室ヨリ成リ學生室ハ四室ニシテ共ニ第二甲板上汽爐室圍壁ノ兩側ニ在リ各室ヲ通シテ四十人ヲ容ルヘク其前部ニ學生會食室兼讀書室アリ船首樓内ニハ蒸汽揚糶機ヲ備ヘ其兩舷ニ水夫長室生徒及水夫夫ノ浴室、便所、冷蔵機室等アリ、第二甲板船首部ノ支水隔壁ノ後部ハ水夫夫室ニシテ二十二人ヲ容ルヘシ機關室ニハ三聯表面冷汽機一臺ト長九呎六吋徑十呎ノ主汽罐一個及「ドシキ」汽罐一個ヲ備ヘ主汽罐休止中暖房其他甲板諸機械ノ運轉用ニ供シ別ニ諸室及ヒ給内其他ノ燈火用トシテ發電機一臺ヲ備フ又汽機室内ニハ五噸蒸發機及「三百ガロン」蒸溜器ヲ備ヘテ海水ヨリ所用ノ淡水ヲ製スルノ用ニ供シ汽爐室ノ前部内側ハ石炭庫ニシテ其容積約百噸ナリ汽機室上部ニ蒸氣操舵機アリテ「フライインダブリツヂ」上ニ於テ操舵スルコトヲ得又船首部ニ探海燈ヲ備フ

本所敷地建物及諸設備

船倉ハ機關室前部ニアリ其一部ニ漁獲物ヨリ採取セル油約二十二噸ヲ貯フヘキ鐵製「タンク」四個ヲ備フ上甲板前橋後部ニ鐵製二重釜及鋼製冷却槽ヲ設ケテ採油ノ用ニ供シ舷外ニハ流艇ヲ懸吊シ第二甲板上ニハ漁具一切ヲ格納スヘキ倉庫ヲ有ス前年度ニ於テ「モートル」附「ルーカス」式測深器、連結採水器、轉倒寒暖計、閉塞自在「ブラシク」ト「ネット」等ヲ新ニ設備シ、生徒ノ實習、漁業上ノ試驗ノ外、漁場及海洋調査等ノ使用ニ便セリ

二 隼 丸

本船ハ「ケツチ」型帆船ニシテ東京石川島造船所ニ於テ明治四十年四月建造ニ著手シ同年十月竣工ヨリ長五十二呎七五幅十三呎八五深六呎〇五總噸數二十八噸六七アリ補助機關トシテ四十馬力石油發動機ヲ有ス

本船ハ元ト生徒實習ヲ主トシタルモ海洋ノ研究及漁業試驗ノ爲メ地方ノ請求等ニ依リ派遣スルコト多ク目下専ラ試驗ノ用ニ供セリ

二 實習場實驗場及試驗地

一 館山假實習場

館山假實習場ハ實習船ノ繫泊及出入ニ便ナル千葉県安房郡館山ニ設ケ一般漁具、船具等ヲ備ヘ漁撈實習、氣象觀測及漁具ノ製作、設計、修理等ノ實習ニ供ス

二 小田原實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣小田原町ニ設ケ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セル所ニシテ一定ノ期間生徒ヲシテ製造ノ技術練習ノ傍ヲ自ラ經濟ヲ擔當シ企業ノ實際ニ練熟セシムル所トス其設備ノ程度モ民間ノ實情ニ適合セシメントテ圖リ機械ノ動力ハ手動ヲ主トシ汽力ハ壓式汽機一箇ヲ備フ又水ノ供給ハ製造事業ニ必要ナルヲ以テ構内ニ流水ヲ引キ魚類其他ノ洗滌ニ便セリ大正六年三月中自働縫詰機械ヲ設置シタリ

三 深川養魚試驗地

深川區冬木町養魚試驗地ハ總地積九千九百三十五坪二合七勺アリ淡水魚族養成ノ試驗ヲ兼テ生徒實習ノ用ニ供セリ而シテ養魚池ノ總面積ハ六千七百七十七坪ニシテ之ヲ十一箇ニ區別シ隅田川分流ヨリ用水ヲ引入シ各池ニハ水開ヲ設ケテ水量ヲ調節スルノ裝置ヲナシ又大正四年度ニ於テ灌水及排水用トシテ離心動機筒ノ裝置ヲナセリ

四 高島實驗場

千葉縣箱山高島實驗場ハ鹹水産魚族ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一斑ニ通セシムルヲ主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシムルヲシテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メニ孵化室活洲並實驗室ヲ設ケ又氣象觀測室及寄宿舎ヲ附設セリ、孵化室ハ桁行五間梁間三間ノ石造平房建ニシテ内部ヲ「ダ、キ」トシ小形ノ「アクリリウム」ヲ設ケテ

魚貝類ノ習性其他ヲ研究スルノ便ニ供フ活洲ハ孵化室ノ四圍ニ突出セル岩角ノ一部ヲ掘鑿シテ造リタルモノニシテ二個ヨリ成リ内一個ハ長サ四十八尺幅十五尺深サ十二尺他ノ一個ハ長サ三十尺幅十二尺深サ九尺ニシテ幅二尺ノ隧道ヲ設ケテ海水ノ循環ニ便ナラシメタリ

實驗室ハ桁行十間梁間四間半ノ木造平房建ニシテ内部ヲ二二分チ水槽ヲ設置シ海魚卵ノ孵化試驗用其他各種生物ノ研究ニ資セリ氣象觀測室ハ二階建トシ總坪數十一坪ノ木造トス各種ノ觀測器械ヲ設備シテ實習及觀測ノ用ニ供シ海況ノ變化ト呼應シテ其ノ水族ノ習性ニ及ホス關係ヲ研究セントスルノ用ニ供セリ

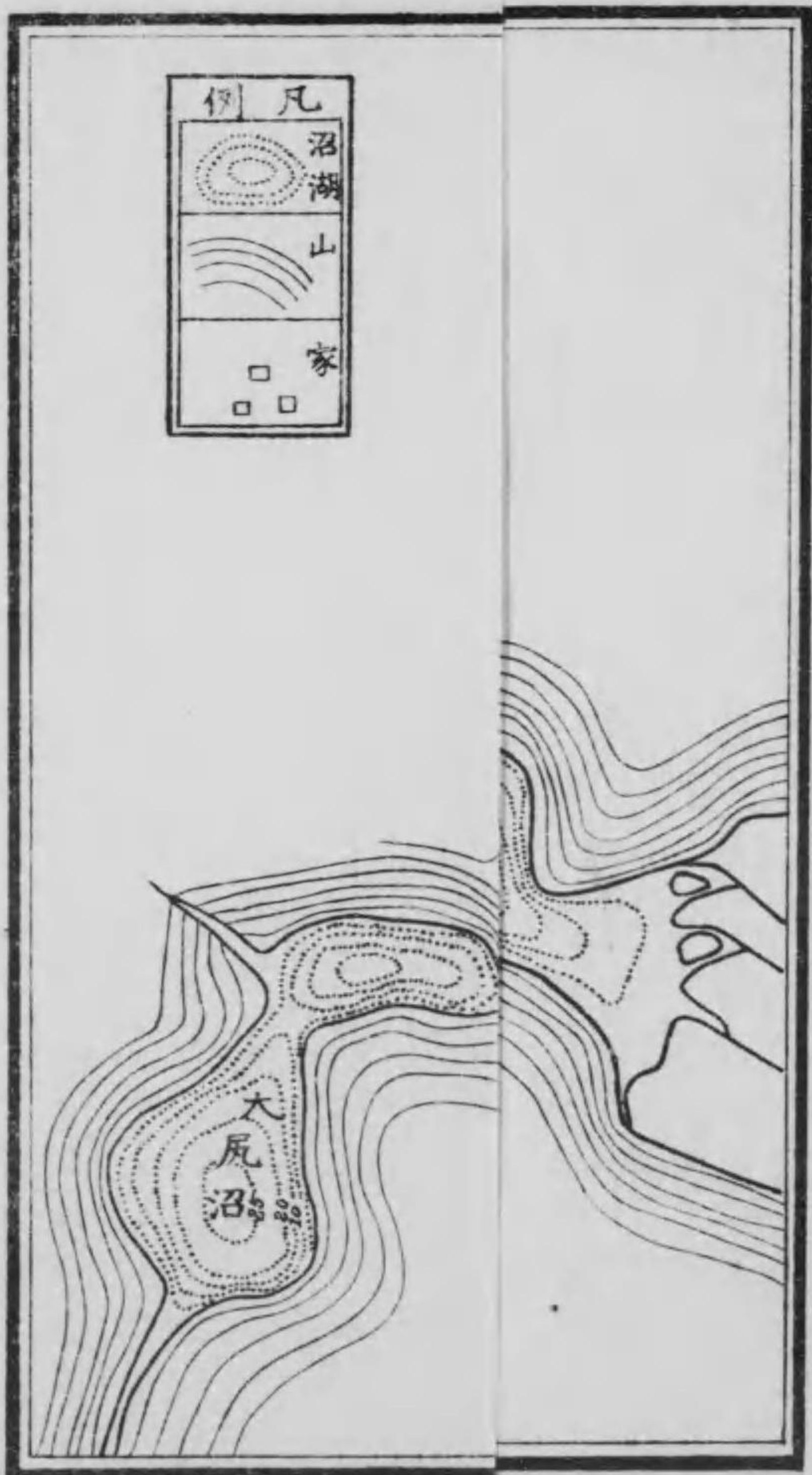
寄宿舎ハ總建坪五十六坪二合五勺ノ木造二階建ニシテ階上ヲ自修兼寢室ニ充テ階下ヲ事務室食堂トセリ元來同島ハ周圍約三町ノ官有禁伐林ニシテ寄宿舎ニ充ツヘキ人家ナキニヨリ此設備ヲ必要トセリナリ

五 五井海苔養殖試驗地

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあざくさのり養殖ノ試驗地トセリ

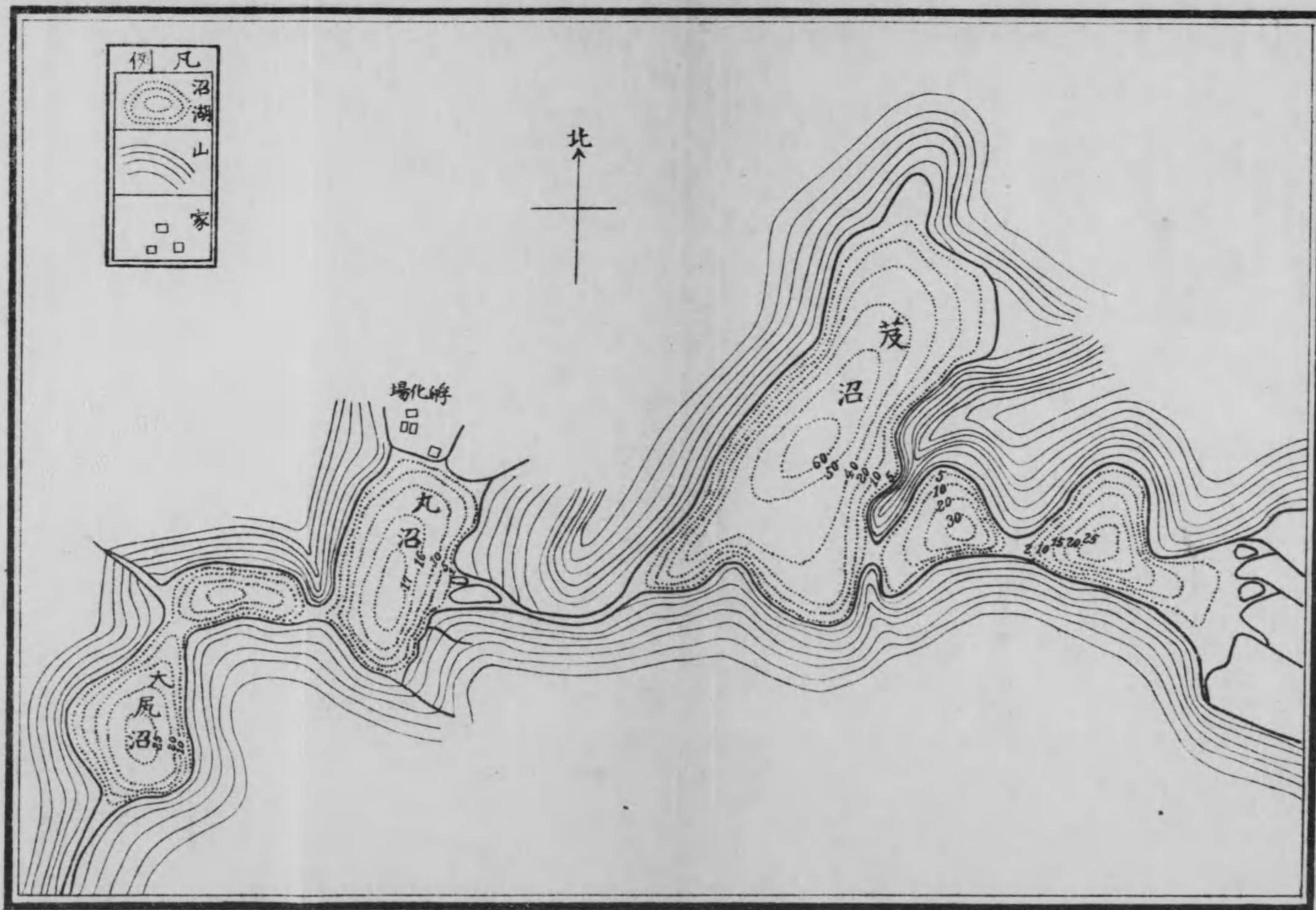
六 金澤養蠶試驗場

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣内ニ牡蠣種付場ヲ設ケ別ニ永島龜代司所有九百十五坪ヲ整形場トナシ牡蠣改良養殖試驗並ニ車蝦養殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣内ニ養蠶場及買入場ヲ増設シテ輸出向牡蠣養殖ノ目的ニ供セリ



大尻沼
海抜 十六百五十米突
面積 四十六町九二
最深 二十七米突

丸沼外二沼養魚試驗池



丸沼
 海拔 十六百五十米突
 面積 四十六町九二
 最深坪 二十七米突

丸沼
 海拔 千六百五十米突
 面積 二十二町五九
 最深坪 十九米突

丸沼
 海拔 千七百五十米突
 面積 八十四町九四
 最深坪 六十七米突

深川區冬水町養魚試驗地ハ總地積九千九百三十五坪二合七勺アリ
 淡水魚族養成ノ試驗ヲ兼テ生徒實習ノ用ニ供セリ而シテ養魚池ノ
 總面積ハ六千七百七十七坪ニシテ之ヲ十一箇ニ區別シ隅田川分流
 ヲリ用水ヲ引入シ各池ニハ水閘ヲ設ケテ水量ヲ調節スルノ裝置ヲ
 ナシ又大正四年度ニ於テ灌水及排水用トシテ離心動機筒ノ裝置ヲ
 ナセリ

四 高島實驗場

千葉縣館山高島實驗場ハ鹹水產魚族ニ就キテ其生理、發生、蕃殖
 ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一斑ニ通セシムルヲ
 主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシムルヲ
 シテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メニ孵化室活洲並實驗室ヲ設ケ又氣
 象觀測室及寄宿舎ヲ附設セリ、孵化室ハ桁行五間梁間三間ノ石造
 平家建ニシテ内部ヲ「タ、キ」トシ小形ノ「アクリリウム」ヲ設ケテ

ノ習性ニ及ボス關係ヲ研究セントスルノ用ニ供セリ
 寄宿舎ハ總建坪五十六坪二合五勺ノ本造二階建ニシテ階上ヲ自修
 兼寢室ニ充テ階下ヲ事務室食堂トセリ元來同島ハ周圍約三町ノ官
 有禁伐林ニシテ寄宿舎ニ充ツヘキ人家ナキニヨリ此設備ヲ必要トセ
 ルナリ

五 五井海苔養殖試驗地

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあさ
 くさノり養殖ノ試驗地トセリ

六 金澤養蠶試驗場

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣内ニ牡蠣種付場ヲ設ケ
 別ニ永島總代司所有九百十五坪ヲ整形場トナシ牡蠣改良養殖試驗
 館ニ車輦養殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣
 内ニ養蠶場及買入場ヲ増設シテ輸尙向牡蠣等養殖ノ目的ニ供セリ

七 丸沼外二沼養魚試驗地

明治四十五年二月群馬縣利根郡片品村千明賢治所有山林内丸沼、箕沼、大尻池ノ三池ニ於テ冷水性魚類ノ養殖試驗地ヲ設ケ孵化場ヲ設備セシメ十和田湖産姫鱒北海道産鱒及北米産紅鱒ノ孵化ヲ行ヘリ

八 中山養魚試驗地

大正四年四月千葉縣行徳町二俣模範養魚株式會社所有中山養魚場内ニ淡水性魚族養殖試驗地ヲ設ケ併セテ養魚ノ企業の實習ニ便セリ

三 實驗室其他ノ設備

講習及試驗用ノ器具機械等ハ近年學術ノ進歩ニ伴ヒ新設ヲ要スルモノ甚多シ而シテ目下設備シ得タルモノ左ノ如シ

一 物理實驗室

明治四十四年ノ新設ニ係リ大正二年度迄ニ爲シタル設備中主ナルモノハ水中ニ於ケル網及漁船ノ抵抗力ヲ計ルヘキ玻璃水槽並ニ附屬電氣裝置、魚類ノ骨格及發生ノ狀態等ヲ檢定スヘキX光線裝置眞空内ニ於テ測定又ハ蒸發等ヲ爲スヘキ水銀ボンブ及集魚燈ノ光度光力等ヲ測ルヘキ簡易裝置並ニ暗室及以上ノ裝置ニ使用スヘキ電路配線ノ設備、網用浮子及沈子ノ浮沈力ヲ測定スヘキ比重測定

本所敷地建物及諸設備

用ノ諸機械並ニ水ノ表面張力及液體粘性測定用器具、望遠鏡、「アムペアメーター」、「タムソン」反射電流計、「マクネットメーター」、「X線用真空管、光度計感應コイル」等ナリ

二 電氣化學室及自動給水室

近年電氣化學ノ應用益著シキヲ以テ本所ニ於テハ海藻類其他ノ漂白並ニ沃度ノ電氣採製法ヲ試ミント欲シ常設ノ蓄電池室ヨリ電路ヲ配シテ隨時實驗ヲ爲シ得ルノ設備ヲナセリ又生理化學用トシテ自動給水裝置ヲ設備シタリ

三 微生物實驗室及水槽室

魚病及腐敗等ニ關スル微生物ノ形態並ニ生理學上ノ研究及酵素ニ關スル試驗ヲ爲サンカ爲メ大正元年度ニ於テ試驗室ノ一部ニ微生物研究室ヲ設ケタリ、酵素研究ニ關シテハ從前ノ研究室ハ專ラ酵素ノ化學的研究ヲ爲シ得ルモ化學的藥物ノ障害アルモノハ之ヲ同室ニ於テ行フナ得サルヲ以テ微生物研究室ニ於テ爲スコト、セリ又生物實驗ノ爲メ病魚其他ヲ飼養スヘキ水槽室ヲ設ケ各種ノ病魚ニ就キ其實驗ヲ爲スノ用ニ供シ又「ツンツ」氏魚類呼吸機ヲ設備セリ

四 冷藏庫

本所冷藏庫ハ大正二年八月火災ニ罹リ燒失シタルヲ以テ同三年一月復舊工事ニ著手シ同三月竣工セリ總建坪七十餘坪其内冷藏庫十

五坪餘、冷藏室準備室八坪、機械室二十九坪餘、汽罐室十坪餘ヲ設ケ建築ハ凡テ防火材料ヲ用ヒ屋根ハ鐵網混泥土工事ヲ施行シタリ冷藏庫ハ五室及廊下ニ區別セラレ攝氏零下二十二度ヲ最低溫度トス

第一、第二、第四ノ三室ハ直接膨脹式ニ依リ第三第五及廊下ハ鹹水冷却式ニ依リ、第三室ハ特ニ光線ヲ射入セシムル裝置ヲ設ケ第五室ハ電動送風機ヲ備ヘテ通風式冷却裝置ト爲セリ
冷藏機ハ米國「ウキルター」會社製直立式單働「アンモニア」壓縮機一臺及英國「リンドン」會社製船用型「アンモニア」壓縮機一臺ヲ据付ケ又試驗用トシテ少量ノ製氷ヲ行ヒ得ル裝置ヲ設ケタリ、原動機ニハ獨逸「ウルフ」會社製十二馬力「コロモビル」過熱蒸氣機關ヲ採

用セリ
六四

五 自動製罐裝置

大正六年三月在來製罐工場ヲ模倣シテ在來製罐機ノ他ニ自動製罐裝置ヲ設置シタリ、本裝置ハ米國製罐會社製ニシテ「サニタリ」罐式トシ一封度半罐及ビ堅罐ノ兩種ヲ製作シ蓋底製作線ト罐體製作線トニ配置シ蓋底製作線ハ蓋底打拔機、蓋底整形機、コンパウンド塗着機、コンパウンド乾燥機ノ四機ヨリ成リ罐體製作線ハ罐體製作機、胴緣折曲機、卷縮機、空罐試驗機ノ四機ヨリ成リ罐體製作線ニハ自動送罐裝置ヲ完備セリ、本裝置ノ製罐能力ハ試運轉ノ結果ニヨレバ十時間約四萬個トス

第五章 圖書及標本

第一節 圖書及標本ニ關スル規程

一 圖書標本委員會規程

明治四十五年四月二十三日

第一條 圖書標本委員會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 圖書標本ニ關スル規則ノ制定及改廢ニ關スル件

二 圖書標本ニ關シ所長ヨリ諮問ノ件

第二條 委員會ハ圖書標本委員ヲ以テ組織ス

二 圖書保管規程

明治三十年六月

(沿革) 明治三十二年三月、同三十八年八月改正

第一條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 圖書ハ各部門ヲ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ

第三條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者各部門番號冊數ヲ記載スヘシ

第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ

第五條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之カ點檢ヲ爲スヘシ

第六條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ

第七條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノト定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ

第八條 雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ

第九條 各教科掛ニ平常備ヘ置クヘキ圖書ハ部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

但シ圖書掛ニ借用證書ヲ差出スヘシ

第十條 前條備付ノ圖書ハ時々圖書取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ

第十一條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引繼キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

圖書及標本

三 圖書借覽規程

明治三十年六月

(沿革) 明治三十二年三月、同三十八年八月改正

第一條 圖書ハ本所職員及囑託員ニ限リ借覽ヲ許ス

但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム

第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ

第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ續續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承諾及檢閱ヲ受クヘシ

第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得

第五條 前條圖書ハ所外ニ提出スルコトヲ許サス

但シ特ニ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科、掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第七條 貴重ノ圖書書類ハ閱覽室外ニ提出ナシ

但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 他官廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許可ヲ定ムヘシ

六五

第九條 他處ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ

所長ヘ稟請ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻ス

ヘシ

第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又

ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果サ、ル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第二節 圖書及標本ノ現況

本所々藏ノ圖書ハ元水産講習所ヨリ引繼キタルモノト農商務省ヨリ保管轉換ヲ受ケタルモノ及本所ノ購入シタルモノ竝寄贈ニ依ルモノニシテ明治四十五年現在目錄ヲ編成シ其後増減アルモ現在數左

ノ如シ (大正七年三月現在)

六六

外國書	一、七二三部	三、二〇五册
內國書	二、〇四一部	五、三五九册
歐文雜誌		三九種
和文新聞及雜誌		五一種
地圖及圖書	八九部	一、六九三枚
一本所職員ノ研究調査ニ係ル論文報告ノ隨時刊行シテ之水産講習所試験報告ト題シ昨年度ニ於テハ其第十三卷第一册ヨリ第六册マテ刊行セリ(卷末刊行圖書目錄參照)尙漁業基本調査報告第五册ヲ刊行セリ		
一標本ハ標本室ニ陳列シ本年度ニ於テハ其陳列ヲ改ム而シテ其蒐集スル所主トシテ水産動物標本、漁具漁船ノ模型、養魚裝置及模型並諸製品等ニシテ其數左ノ如シ		
一 漁具類	六二九種	
一 製品類	二六五種	
一 動物植物類	七七六種	
一 漁船其他雜形類	四三三種	

第六章 在外研究生

第一 在外研究生

明治四十年十月二十五日勅令第三二九號

第一條 水産講習所在外研究生ハ外國ニ於テ水産ニ關シ須要ナル學術技藝ヲ研究セシムル爲水産講習所ヲ卒業シタル者又ハ水産講習所ノ技術官

若ハ教官中ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

第二條 水産講習所在外研究生ノ研究スヘキ事項

研究地及在外期間等ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第三條 水産講習所在外研究生ニハ農商務大臣ノ

定ムル所ニヨリ一年金千八百圓以内ノ手當ヲ支

給ス但シ各地巡歷研究ノ必要アルトキ其ノ他特

別ノ事由アルトキハ相當ノ手當ヲ増給スルコト

ヲ得

第四條 水産講習所在外研究生ニハ判任官ニ準シ

旅費及支度料ヲ支給ス

前條但書ノ場合ニ於テ在官者ナルトキハ手當ヲ

増給セス其ノ官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

旅費及支度料ノ支給方法ハ外國旅費規則ニ依ル

第五條 在官者ニシテ研究生ヲ命セラレタル者ハ

本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄定員外ニ置キ本官

ノ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ特ニ俸給三分

ノ一以内ヲ支給スルコトヲ得

在外研究生

第六條 水産講習所在外研究生ハ歸朝ノ日ヨリ其

ノ在外期間ニ倍ニ相當スル期間農商務大臣ノ指

定スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

第七條 水産講習所在外研究生ニシテ農商務大臣

ノ命令ニ違反シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキ

ハ農商務大臣ハ其ノ支給シタル手當旅費及支度

料ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム水産講習所在外

研究生タリシ者ニシテ歸朝後前條ノ義務ヲ盡サ

サルトキハ亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一 戰事時變ノ際ニ於ケル

文部省海外留學生等定員

二關スル勅令

大正三年十月七日勅令第二百三十號

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所

六七

外研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲留學國ニ在留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ定員外ニ置クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外ニ置キタル者ハ本務ニ從

事セシメス學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニハ豫算ノ範圍内ニ於テ俸給ノ全部ヲ支給ス

第三 在外研究生

在外研究生規程ニ依リ海外ニ派遣シタル者左ノ如シ

研究事項	派遣期間	官名	氏名
獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究	自明治四〇年一月二二日至明治四二一年六月二七	技手	日暮忠
英國及諸威國ニ於テ漁撈法ノ研究	自明治四二一年一月一三日至明治四四一年三月三〇	技手	小瀬次郎
佛國ニ於テ水産食用品製造法研究	自明治四四一年八月三十一日至明治四六一年一月一	技手	小野辰次郎
獨逸國及諸威國ニ於テ水理生物學研究	自明治四四一年五月四日至明治四六一年八月一	技手	丸川久俊
米英佛國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究	自明治四六一年三月一日起至大正五年五月三十一日	技師	妹尾秀實
伊太利國珊瑚ノ研究	自明治四六一年三月一日起至大正五年五月三十一日	技師	山川洵
獨逸國ニ於ケル糖精其他食品及油蠟等ニ關スル事項並生理化學ノ研究	自明治四六一年三月一日起至大正五年五月三十一日	技師	山川洵
追加 北米合衆國ニ於テ前記研究事項ノ外國國食物條例實施方法ノ研究	自明治四六一年三月一日起至大正五年五月三十一日	技師	山川洵

第七章 生徒

第一節 在學生徒 (二百二十八名)

第一 生徒氏名

一、研究科 (六名)

本邦産牡蠣ノ輸出ニ就テ	吉田直道	長野士	金魚ノ形態並ニ其發生	應司信敬	東京華
蝦漁業及其處理法	服部愛之助	大阪平	鮮魚運搬及魚市場	郷朔雄	東京華
鮪漁業	福野久松	石川平	鮪鱈漁業ニ就テ	日置徳太郎	岡山華

二、遠洋漁業科 (十五名)

第三學年 (七名)	谷口武三	岐阜平	高橋千里	長崎士	和田秀政	東京士
中村吉次	長野平	仙波平馬	栃木平	人見秀四郎	東京士	
休學 家坂孝平	新潟平	第二學年 (六名)	田原精夫	東京士	吉田春吉	東京士
森村共正	石川士	佐々木政之助	宮城平	第一學年 (二名)	十川正夫	徳島平
日下部彦次郎	兵庫平	關口壽之助	東京平	副田徳平	佐賀平	

三、本科 (百九十二名)

漁撈科 (八十八名)	伊賀敏郎	兵庫平	大熊保道	山口平
第三學年 (二十七名)	友廣	岡山平	戸川千藏	鳥取士

森下伊三郎	坂倉今次郎	石田壽之	五十嵐昭	竹井增一	池田文爾	橫手武熊	乾明太郎	近藤重虎	小濱氏清	小俣信親	中島健輔	高久彰	桑原時藏	中島爲一	篠山武次郎	池田信也	秀島魁	大西清忠	庵原順一
和歌山平	靜岡平	群馬士	愛知士	岡山平	富山士	鹿兒島平	高知士	高知士	鹿兒島士	東京士	佐賀士	福島士	東京平	佐賀士	岡山平	廣島平	佐賀平	奈良平	兵庫平

第二學年 (二十二名)

高橋亮吉	瀨田稔	馬場政二	佐藤正夫	確井秋雄	後藤豪	國井林	小島信司	中目協	永井福三郎	中田賢吉	白石平七	神野三郎	中田吉太郎	赤星家雄	小石安一	河野通直
東京平	佐賀平	福岡平	大分平	福岡平	岡山士	栃木平	新潟平	宮城士	岡山平	長野平	福岡平	愛知平	東京平	大分平	福岡士	高知士

第一學年 (三十九名) (大正七年四月入學)

矢部武三	角田榮治	山口保三郎	黑田德次郎	山口虎雄	工藤辰雄	中原俊一	伴善居	廣瀨恒美	谷巖	本間豊	飯塚喜一	野口乾	石田稜威雄	北島正	久保慶男	太田久隆
新潟平	栃木平	茨城平	北海道平	佐賀平	靜岡平	福岡士	福岡士	高知士	高知士	茨城士	東京士	福島士	群馬平	長崎士	長野士	群馬平

生徒

岩田由武	松島平次郎	田中與平	原直人	濱邊清藏	井垣喜作	川原七郎	近藤道之助	宮崎眞司	岡本大助	大村三樹之助	鈴木輝	櫻井輝	古谷代吉	新野二郎	日高久彌	橫井太郎	溝口浩司	茂木小三郎	富田義德
福島士	三重平	香川平	東京士	鹿兒島平	兵庫平	鹿兒島士	東京士	三重士	熊本士	兵庫平	福島士	千葉平	福岡士	宮城平	宮崎平	愛知平	群馬平	群馬平	熊本平

製造科 (六十八名)

第三學年 (十七名)

吉川市次	石川成人	淺野一哉	村井午之助	原武雄	富崎善吾	大久保嘉壽彦	古川武毅	島田浦	中谷正雄	三浦政美	花本哲之助	岡屋慶光	野本市次郎	岸川由太郎	寶田穎作	中江富三	尹相喆
佐賀平	宮城士	千葉平	千葉士	廣島士	佐賀平	香川平	千葉平	大分平	大阪平	山形平	愛知平	山口平	愛知平	佐賀平	福岡平	大阪平	朝鮮平

第二學年 (二十四名)

相良谷次郎	田坂武文	有賀松夫	水野忠一	平松角治	西崎朝祐	山下武雄	稻葉茂祐	栗原傳四郎	川口武男	間庭秀文	李重漢	田邊武雄	宇津見修藏	森川庄次郎	楠鋼四郎	真田幸次	西磐
大阪平	山口平	長野士	神奈川士	長崎平	兵庫平	群馬士	熊本平	埼玉平	三重平	東京士	朝鮮平	山梨平	茨城平	大阪平	愛知士	石川平	山形士

山本益太郎 北海道平
 小泉喜代治 靜岡平
 藥 重 治 東京士
 高橋重治 廣島平
 高橋越洲 福井士
 內田康次 埼玉平
 川本壽雄 廣島平
 松永龍一郎 福岡平
 中川勤 廣島平
 新井昇次郎 東京平
 安藤信衛 東京平
 坂田信太郎 東京平
 堀越一三 茨城平

第一學年 (二十七名) (大正七年四月入學)

馬場孟夫 長野平
 佐藤虎之助 新潟平
 河村守誠 東京平
 寺崎重弘 福井平
 三吉豐久 東京士
 福岡國男 福井士
 金井準 群馬平
 門屋守二 東京士
 小畑千柄 鹿兒島士
 小野功一 宮城平
 宮良當宴 沖繩士
 河野襄 栃木平
 安井捨三 新潟平
 倉恒正賢 鳥取平
 橋爪友四郎 三重平
 金子安治 埼玉平
 山本元次郎 廣島平
 松崎秀雄 神奈川平
 石川作治 富山平
 奧田治郎 大阪平

養殖科 (三十六名)

第三學年 (十一名)

村上芳雄 靜岡平
 林政雄 鹿兒島平
 渡邊 兵庫平
 西岡丑三 佐賀平
 大島信夫 東京士
 建部豪 兵庫華
 齋藤光雄 千葉平
 明石博次 京都士
 秋谷庸 千葉士
 落合清 群馬平
 青木三雄 神奈川平
 加藤喜八郎 石川平
 濱名龜助 福島平
 江島靜次 靜岡平
 浦津幣太郎 熊本平
 永坂勝次 東京士
 巖谷那珂彦 福岡平

海老名謙一 千葉平
 永井正 東京士
 牧健三 福岡士
 上野惇五 東京士
 小林忠太 栃木平

第一學年 (十六名) (大正七年四月入學)

山田一男 群馬士
 森本敬義 東京平
 伊藤賢一 福岡平
 上遠章 東京士
 田中友三 東京平
 梶田與之亮 東京平
 熊田朝男 栃木平
 石川龜好 栃木平

四、別科 (貝殼彫刻專修十五名)

山本治惣吉 三重平
 植木清 新潟平
 市川友治 茨城平
 東角藏 岐阜平
 松野大五郎 長崎平

野口貞美 東京平
 多田館郷 山形平
 山本政七 高知平
 晉繁弘 鹿兒島平
 樽本覺平 長崎平

小島三藏 長崎平
 二見林太郎 神奈川平
 片岡順治 秋田平
 鷹本初太郎 愛媛平
 市川正次 栃木平

渡邊茂一 山梨平
 北村機 靜岡平
 川村正雄 東京士
 高島啓二 富山平
 五十嵐俊藏 山形平
 陳椿壽 支那
 陳謀琅 支那

第二 在學生徒府縣別

在學生徒府縣別並學年一覽表

生徒

外	區	海北	區海西	區海內
朝鮮 臺灣	長岐滋山奈柳群埼 野阜賀梨瓦木馬玉	北海道	德高宮沖鹿熊佐長福 兒 島知崎繩島本賀崎岡	大兵香岡廣愛 阪庫川山島媛
	— — — — — —			— — — —
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
	— — — — — —		— — — —	
三	四 二一六九三	二	五一一六四九三一	五七二五六
三	六二 二一八九三	二	一六一一七四〇七一	六八二六六一

七五

	區海北	區海東	道府縣種別
山大	秋山新石宮福京島島	青岩宮福茨千東神靜愛三和 奈歌	道府縣種別
口分	田形瀉川山井都取根	森手城島城葉京川岡知重山	道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
	— — — — — —		道府縣種別
三四	三四二三四一二	四六四七五三七八四一	合計
			合計
			合計
三四	一四六四三四一二	五六五七三三四七八五一	總計

七四

道府縣種別	研究科			漁撈科			製造科			養殖科			合計	別	總計	
	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年				
外國																
支那																
合計	六	二	六	三	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

第二節 卒業者

第一 卒業者氏名 (○ハ優等卒業×ハ死亡) (者大正七年三月調)

一 研究科 (三十七名)

(一) 漁撈科

○明治三十七年十二月卒業 (一名) 日高 靖 宮崎平
 ○明治四十年三月卒業 (一名) ×吉永貴八郎 長崎士
 ○明治四十三年六月卒業 (一名) (舊姓朝長) 渡邊理一 東京士
 ○明治四十二年七月卒業 (一名) 武富榮一 佐賀士
 ○大正三年七月卒業 (一名) 熊田頭四郎 栃木平
 山口縣水産試驗場技師

○大正四年七月卒業 (一名) 特許局囑託 鈴木敏三 福岡士

○大正五年五月卒業 (二名) 朝鮮總督府 齋藤陽三 東京士

○大正六年三月卒業 (一名) 朝鮮山簡易水産學校 李炫國 朝鮮

○大正七年一月二十九日卒業 (一名) 青島水産組合技師 德光外治 石川平

○大正七年一月二十九日卒業 (一名) 實業 石崎實三郎 愛媛平

(二) 製造科

○明治四十一年十二月卒業 (一名)

實業

○明治四十三年十二月卒業 (一名) 杉村泰治 三重士
 大倉組秘書役 (舊姓大竹) 梅浦健吉 東京士
 明治四十四年七月卒業 (一名) 京都府水産講習所技師 (舊姓坪田) 小山甲三 茨城平
 ○明治四十五年三月卒業 (一名) 實業 矢野實 富山平
 ○大正二年五月卒業 (一名) 丁字屋化學研究部技師 深山義道 千葉平
 ○大正二年六月卒業 (一名) 總房水産株式會社 內田孝雄 東京平
 ○大正二年七月卒業 (三名) 水産講習所助手 谷村重忠 和歌山平
 實業 山添兵造 兵庫平
 神奈川縣川崎町鈴木味素工場 關根豐 埼玉平
 ○大正四年七月卒業 (二名) 膠製造會社(王子) 深澤三郎 山梨平
 岩手縣水産技師 荻原茂 長野平
 ○大正五年三月卒業 (一名) 李商 朝鮮
 ○大正五年七月卒業 (一名) 輸出水産物株式會社技師 弓削讓 茨城平
 ○大正五年十月卒業 (一名) 業者

陸軍技手(東京陸軍糧秣廠)

○大正六年四月十二日卒業 近藤辰雄 新潟平

兵役 ○大正六年九月廿八日卒業 清水淳三 神奈川平

水産講習所助手 泰義輔 福井平

在米國 ○大正七年一月十八日卒業 小林敏行 東京平

(三) 養殖科

○明治三十七年十一月卒業 (一名) 今野虎吉 福島平

香川縣水産試驗場長 ○明治三十九年十月卒業 (一名) 丸川久俊 島根士

水産講習所技師 ○大正四年六月卒業 (一名) 中井信隆 和歌山士

岡山縣水産試驗場技師 (舊姓前田) 三木信幸 德島士

○大正五年十月卒業 (一名) 愛媛縣水産試驗場 片岡虎之助 山形士

高知縣真珠養殖會社 ○大正五年十一月卒業 (二名) 岡田彌一郎 東京平

東京帝國大學動物學研究室 ○大正六年四月十二日卒業 (一名) 中島顯一郎 大阪士

在米國 ○大正六年五月二日卒業 (一名) 佐藤玄三郎 東京平

水産講習所 業者

一 遠洋漁業科 (八十五名)

○大正六年七月九日卒業 (一名)

松井佳一 山口平

實業

○大正六年九月七日卒業 (一名)

藤本政男 兵庫士

七八

○明治三十三年五月卒業 (一名)

東京帝國大學農科大學水産科教授 黒田九萬男 東京士

○明治三十四年七月卒業 (二名)

南摩紀麿 東京士
藤田勘太郎 島根平

○明治三十四年八月卒業 (一名)

木村廣三郎 石川士

朝鮮總督府農商工部殖産局技手

○明治三十五年二月卒業 (二名)

高原剛太郎 福岡士
志村次郎 東京士

○明治三十五年七月卒業 (三名)

石野敬之 千葉平
松崎彌市 鹿兒島平
森茂樹 鹿兒島士

農商務技手

○明治三十六年一月卒業 (一名)

高橋剛二 岡山平

農商務技師兼水産講習所技師

○明治三十六年十月卒業 (一名)

下田奎一 廣島士

○明治三十七年五月卒業 (一名)

廣島士

○大正元年十月卒業 (四名)

島根縣水産試験場技師 與儀喜宣 沖繩平
島根縣水産講習所技師 後藤節藏 大分平
富山縣水産講習所技師 飯尾公壽 福岡士
鳥取縣水産講習所技師 日比義三 岐阜平
愛媛縣水産講習所技師 岩本清太郎 鳥取士

○大正元年十二月卒業 (一名)

關東州水産試験場技師 渡邊康介 愛知平
○大正二年八月卒業 (六名)

日本水産株式會社 加藤平吉 山形平
春丸一等運轉士 武富榮一 佐賀士
三重縣水産講習所技師 竹田重雄 靜岡士
日本水産株式會社 後藤榮助 香川平
實業 柴戸雅一 長崎平

○大正二年十月卒業 (三名)

明治漁業株式會社 伊東猪六 佐賀士
明治漁業株式會社 辻知一 長崎平
明治漁業株式會社 木村成松 福井士
海陸物産株式會社 木村 星 鳥取平

○大正三年三月卒業 (四名)

福岡縣立海丸船長 林卯吉 大阪平
臺灣海丸船長 越智章 靜岡士

七九

濱田造船所技師

○明治四十一年十二月卒業 (一名)

上枝平五郎 香川平

ラサ島燒礦合資會社

○明治四十三年五月卒業 (二名)

小松重利 高知平

共同漁業株式會社

○明治四十三年十月卒業 (四名)

林田甚八 長崎平
國司浩助 山口平

實業

○明治四十四年九月卒業 (四名)

柳悅多 東京士
長友寛 宮城士
安達誠三 愛媛平
秋山實 千葉平

朝鮮總督府丸船長

○明治四十四年十二月卒業 (一名)

吉田義男 長崎平
福野久松 石川平
木下信資 鳥取士
瀧上二州 兵庫士

愛媛縣水産講習場技師

○大正元年八月卒業 (四名)

宮脇伊太郎 鹿兒島平

岩手縣水産講習場技師

○大正元年八月卒業 (四名)

谷本坂惠 岡山平
市川峯吉 三重平
新井藤一 茨城平
荻田靜夫 鹿兒島平

山口縣水産講習場技師

○大正元年八月卒業 (四名)

高津商店

高津商店

○大正元年八月卒業 (四名)

高津商店

高津商店

○大正元年八月卒業 (四名)

高津商店

高津商店

○大正元年八月卒業 (四名)

高津商店

下關角輪組
○大正三年五月卒業 (二名)
小林草之 埼玉平
佐藤敬吉 山形平

長崎縣技手
○大正三年八月卒業 (一名)
上野省三 山形平
田中耕之助 東京平

水産講習所技手
○大正三年十月卒業 (二名)
山本靜一 愛媛平
御厨保太郎 長崎士

日魯漁業株式會社
○大正四年六月卒業 (一名)
大塚三平 茨城平

樺太宮内廳詰製造所
○大正四年十二月卒業 (五名)
古閑義康 熊本士
飯田與兵衛 東京平
葛城忠男 石川平
國分友海 鹿兒島士
× 莊司勇 山形士
× 島田喜一 靜岡平

臺灣南部海産株式會社
○大正五年四月卒業 (二名)
中川甚藏 東京平
三輪源造 岡山平

北洋水産株式會社
○大正五年七月卒業 (六名)
神壽丸運轉士
日本水産株式會社
高柳繁次郎 群馬平
馬上一福壽 福島平
山口慶四郎 群馬平
久富元 長崎平
松尾我何人 長崎平
塚崎謙吉 秋田士

三本 科 (八百三十二名)

神壽丸運轉士
日本水産株式會社
高柳繁次郎 群馬平
馬上一福壽 福島平
山口慶四郎 群馬平
久富元 長崎平
松尾我何人 長崎平
塚崎謙吉 秋田士

○大正五年十一月卒業 (一名)
堀井捨吉 東京平

○大正五年十二月卒業 (一名)
岡本重治 東京平

○大正六年一月卒業 (二名)
桐本富次 和歌山平
林準二 東京平

○大正六年四月十二日卒業 (一名)
山口縣水産試驗場旭丸船長
本田光吉 愛媛平

○大正六年六月二十七日卒業 (一名)
在シシガポール
永福 鹿兒島平

○大正六年八月三十日卒業 (三名)
沖繩水産學校教諭
大村道一 兵庫平
大石秀雄 靜岡平
山本清内 山形平

(一) 漁撈科 (三百五十六名)

○明治三十一年四月卒業 (十三名)
渤海漁業株式會社
家入四直 福岡士
橋本猪太郎 熊本平
加藤勢三 三重平
龜井順一 山口平
南摩紀隆 東京士
長友茂三郎 宮崎士
村田乙三郎 東京士
内田治三郎 山口士
武藤禮二 宮城士
福田久橋 長崎士
木村廣三郎 石川士
庄司與一 石川平
菅谷毅 茨城平

○明治三十二年四月卒業 (十五名)
農商務技手
石野敬之 千葉士
大庭弘雅 福岡平
大谷正猛 高知士
高橋劉二 岡山平
山下節治 長崎平
× 矢野新吉郎 熊本士
松崎彌一 鹿兒島平

宮城縣水産技師
沖繩縣立水産學校教諭
兼校長兼沖繩水産技師
(舊名小市)
三井物産株式會社
實業
函館日魯漁業株式會社技師
實業
朝鮮總督府農商工部殖産局技手
福阿縣糸島郡技手
實業
農商務技手
朝鮮總督府平安南道技手
島根縣笠川郡技手
實業
中村工業所
實業

大八洲漁業株式會社
逕信者參事官
千葉縣水産試驗場技師兼場長
實業(製網業)
島根縣八束郡水産技手
朝鮮平安道廳技手
實業
○明治三十三年四月卒業 (十二名)
吉永貴八郎 長崎士
田中仁吉 島根平
田谷英 石川平
津田美津彦 福岡士
○中村嘉壽 鹿兒島平
久保澤 青森士
松田林 宮崎士
小金丸増次郎 福岡平
小島才一 神奈川平
× 小木原元吉 鹿兒島士
× 森藏 助鹿兒島士
× 須田正治 山形平

○明治三十四年四月卒業 (八名)
鹿兒島縣加世田漁業會社取締役
× 須田正治 山形平

卒業者

宮城縣立水產學校教諭
天津直隸水產學校
在米國
輸出食品株式會社
長崎縣水產試驗場技手
朝鮮江原道春川水產實習所
秋田縣水產試驗場技手
石川縣技師
岡山縣水產試驗場長
實業
同
長崎縣北松浦郡水產技手
函館日魯漁業株式會社
福井縣技手
宮城縣水產試驗場技師
大分縣水產技手
水產講習所技手

○明治三十五年四月卒業 (五名)
石川 伸治 石川士
本間 平八 山形士
長內 泰助 岩手平
大川 辰藏 兵庫平
松尾 秀夫 長崎士
前田 春水 宮城平
荒 卯忠 福島士
喜多山 昇來 愛媛士

○明治三十六年七月卒業 (七名)
稻見 彌一 北海道平
岩 田 雄 京都平
內田 四郎 福井平
黒木 圓太 福岡平
山田 廣次 福岡平
宮 田 光 京都平
關 根 磯吉 東京平

○明治三十七年七月卒業 (十二名)
元 木 淑人 德島平
日 高 靖 宮崎平
佐藤 正孝 山形平
小島 省吾 石川士
額 田 喜一 香川平
小島 省吾 石川士

水產講習所技手
神戸盛和商會
潜水工業株式會社
實業
實業(在智利)
鹿兒島縣薩摩郡水產技手
島根縣水產試驗場技手
長崎縣西彼杵郡長島真珠養殖場技師

○明治三十八年七月卒業 (十三名)
伊 藤 剛 愛知平
岩本 千代馬 高知士
林 田 甚八 長崎平
堀 江 英一 廣島平
川 口 謙一 岐阜士
川 添 友志 鹿兒島平
南 部 寬 福井士
村 上 素 宮城士
上 枝 平五郎 香川平
久 保 雷之助 愛媛平

函館堤商會
神奈川縣鎌倉郡水產組合技師
小笠原水產試驗場長
大日本水產株式會社
山口縣水產試驗場技師
臺灣南部海產株式會社
北海道水產試驗場技師
宮崎縣水產試驗場技師
福岡縣水產試驗場技師
實業
鈴木商店
東洋捕鯨株式會社
富山縣水產講習所技手

○明治四十一年十月卒業 (十七名)
野間 口兼美 鹿兒島士
小川 幸之進 岡山平
長 田 景貞 鹿兒島士
國 司 浩助 山口士
熊 田 頭四郎 栃木平
小 崎 彰 宮城士
安 達 誠三 石川士
木 津 和秀男 廣島平

○同年九月卒業 (三名)
友 寬 宮崎士
秋 山 實 千葉平
柳 悅多 東京士

朝鮮總督府技手
三井物產株式會社釜山支店
朝鮮總督府丸船長
遠洋漁業練習生(在米)
沖繩縣立水產學校
明治漁業株式會社

○明治四十四年七月卒業 (十五名)
芳賀 奈七郎 岩手平
秦 牛兵衛 東京平
東 郷 保一 宮城平
川 島 信一 廣島士
中 北 靜 岐阜平
村 山 吉助 山形士
村 岡 貫一 山口平

實業
實業
鹿兒島縣揖宿郡水產技手
在墨國
海外實業練習生(在米)
實業
實業
神奈川縣技手
實業
實業
京都水產講習所技師
朝鮮濟州郡技手
千葉縣技師
山陽工作所
熊本縣水產試驗場長
實業(鮮魚運搬業)
實業
愛知縣水產組合技師
實業(大敷網)
實業

○明治三十九年七月卒業 (十二名)
山 根 左中 島根平
水 間 春吉 德島士
登 坂 高三 山形士
和 田 美穂 宮崎平
鎌 田 武造 青森平
笠 松 彌一 東京平
河 野 光三 山口平
田 中 登 三重平
中 村 源一 鹿兒島平
奥 津 興美 群馬士
山 田 純太郎 東京平
橋 川 章 宮城士
榎 本 驛正 香川平
杉 浦 保吉 埼玉平

○明治四十四年七月卒業 (十五名)
秦 牛兵衛 東京平
東 郷 保一 宮城平
川 島 信一 廣島士
中 北 靜 岐阜平
村 山 吉助 山形士
村 岡 貫一 山口平

石川 伸治 石川士
本間 平八 山形士
長內 泰助 岩手平
大川 辰藏 兵庫平
松尾 秀夫 長崎士
前田 春水 宮城平
荒 卯忠 福島士
喜多山 昇來 愛媛士
石川 伸治 石川士
本間 平八 山形士
長內 泰助 岩手平
大川 辰藏 兵庫平
松尾 秀夫 長崎士
前田 春水 宮城平
荒 卯忠 福島士
喜多山 昇來 愛媛士
石川 伸治 石川士
本間 平八 山形士
長內 泰助 岩手平
大川 辰藏 兵庫平
松尾 秀夫 長崎士
前田 春水 宮城平
荒 卯忠 福島士
喜多山 昇來 愛媛士

日本汽船株式會社技師

植木憲吉 兵庫平

茨城縣技師

福野久松 石川平

千葉縣技師

天野莊助 愛知平

農商務技師(速島丸船長)

宮脇伊太郎 鹿兒島平

愛媛縣水產試驗場技師

溝上二州 兵庫士

○明治四十二年七月卒業 (九名)

神奈川縣水產試驗場技師

奧村伊三郎 滋賀平

實業

金刺琢磨 香川平

福島縣技師

橫田壯 福島士

長崎縣南松浦郡技師

吉田定次郎 鹿兒島平

春丸一等運轉士(在歐)

武富榮一 佐賀士

青森縣水產試驗場技師

辻志郎 栃木士

實業

明山保次郎 兵庫平

東京潛水工業株式會社

水下定之助 山形平

○同九月卒業 (十二名)

關東州水產試驗場技師

岩本清太郎 鳥取士

鳥取縣水產試驗場技師

市川峯吉 三重平

島根縣水產試驗場長水產講習所長

飯尾公壽 福岡士

岩手縣水產試驗場技師

與儀喜宣 沖繩平

富山縣水產講習所技師

谷本坂惠 岡山平

輸出水產株式會社

後藤節藏 大分平

古閑義康 熊本士

山口縣水產試驗場技師

高津商店

北海道人

愛媛縣水產試驗場技師

小樽水產學校教諭

伊吹群作 福井平

南洋貿易株式會社

濱田五六 廣島平

新井藤一郎 茨城平

齊藤齊 福島士

○ 養田靜夫 鹿兒島士

白井勝三郎 茨城平

日比義三 岐阜平

○明治四十三年七月卒業 (十五名)

伊吹群作 福井平

濱田五六 廣島平

新國逸夫 新潟士

細川可也 栃木平

富永盛治郎 福島平

岡本曉 山口平

橫山將來 石川士

竹本正文 東京士

竹田重雄 靜岡士

長棟暉友 鳥取平

能美猪勇武 福岡平

黑田藤五郎 愛媛平

秋山立見 香川平

柴戶雅一 長崎平

王文泰 支那

伊藤猪六 佐賀士

加藤平吉 山形平

林卯吉 大阪平

越智章 靜岡士

○ 黑野元憲 東京士

福岡縣玄海丸船長

臺灣凌海丸船長

角輪組

明治漁業株式會社

樺太廳技師

長崎縣技師

日營漁業株式會社

水產講習所技師

石川縣水產試驗場技師

○明治四十五年七月卒業 (十二名)

新瀉縣水產試驗場技師

和歌山縣南牟婁郡技師

農商務屬兼技師

實業

水產講習所助手

實業

青森縣水產試驗場技師(下北部分場)

農商務技師

日本水產株式會社

日營漁業株式會社

林卯吉 大阪平

越智章 靜岡士

○ 黑野元憲 東京士

佐藤敬吉 山形平

辻知一 長崎平

松本修二 兵庫平

上野省三 山梨平

御厨保太郎 長崎士

小林章之 埼玉平

山本輝一 愛媛平

田中耕之助 東京平

石井文吉 東京平

○ 佐々木三治 富山平

月井田二郎 熊本平

神山捨吉 岐阜士

野崎知之 福島平

大場哲夫 宮城平

須藤三策 新潟平

八木三千彦 鹿兒島士

松尾政次郎 佐賀平

平瀨博 兵庫平

清藤太郎 靜岡平

霜村平七 佐賀平

日本水產株式會社

日營漁業株式會社

青森縣水產試驗場技師(下北部分場)

農商務技師

日本水產株式會社

日營漁業株式會社

青森縣水產試驗場技師(下北部分場)

農商務技師

日本水產株式會社

日營漁業株式會社

日本水產株式會社

在米國

海陸物產株式會社

明治漁業會社

○明治四十四年七月卒業 (十七名)

水產講習所助手

千葉縣水產試驗場技師

實業(大敷網)

實業(大敷網)

岡山縣水產試驗場技師

實業

大分縣東國東郡水產技師

樺太宮內廳詰場

樺太廳技師

山口縣技師

三重縣水產試驗場技師

實業

廣島縣水產技師

○同年九月卒業 (十二名)

日營漁業株式會社

青木貞治 北海道平

李士襄 支那

林元良 支那

清水隆道 山口平

宮崎盛盛 長崎士

吉川隆治 秋田平

後藤榮助 香川平

秋田榮治 東京平

木村榮 鳥取平

木村成松 福井士

三浦正 秋田平

矢吹正夫 岡山平

石原重耶 熊本平

山田橋一 愛媛平

藤川若松 廣島平

牛山美廣 長野士

山根揆一 埼玉平

大塚三平 茨城平

布目孜 石川士

高木繁春 東京平

高橋照文 東京平

水戸川運一 千葉平

吉川隆治 廣島平

宮崎盛盛 長崎士

清水隆道 山口平

林元良 支那

李士襄 支那

青木貞治 北海道平

林元良 支那

清水隆道 山口平

宮崎盛盛 長崎士

吉川隆治 秋田平

山口縣水產試驗場技師

高津商店

北海道人

愛媛縣水產試驗場技師

小樽水產學校教諭

○明治四十三年七月卒業 (十五名)

伊吹群作 福井平

濱田五六 廣島平

新國逸夫 新潟士

細川可也 栃木平

富永盛治郎 福島平

岡本曉 山口平

橫山將來 石川士

竹本正文 東京士

竹田重雄 靜岡士

長棟暉友 鳥取平

能美猪勇武 福岡平

黑田藤五郎 愛媛平

秋山立見 香川平

柴戶雅一 長崎平

王文泰 支那

伊藤猪六 佐賀士

加藤平吉 山形平

林卯吉 大阪平

越智章 靜岡士

○ 黑野元憲 東京士

佐藤敬吉 山形平

辻知一 長崎平

松本修二 兵庫平

上野省三 山梨平

御厨保太郎 長崎士

小林章之 埼玉平

山本輝一 愛媛平

田中耕之助 東京平

石井文吉 東京平

○ 佐々木三治 富山平

月井田二郎 熊本平

神山捨吉 岐阜士

野崎知之 福島平

大場哲夫 宮城平

須藤三策 新潟平

八木三千彦 鹿兒島士

松尾政次郎 佐賀平

平瀨博 兵庫平

清藤太郎 靜岡平

霜村平七 佐賀平

日本水產株式會社

日營漁業株式會社

青森縣水產試驗場技師(下北部分場)

農商務技師

日本水產株式會社

日營漁業株式會社

○大正元年九月卒業 (九名)

臺灣南部海產株式會社

北洋水產株式會社
基隆水產株式會社

德島縣水產試驗場技手
愛知縣水產試驗場技手

農商務技手
鹿兒島縣技手

海外實業練習生
青森縣水產試驗場技手
高知縣水產試驗場技手
在米國

日本水產株式會社
日魯漁業株式會社
特許局囑託

山口縣水產試驗場旭丸船長

○大正二年七月卒業 (十名)

飯田與兵衛 東京平
丹羽六一 岐阜平
葛城忠男 石川平
國分友海 鹿兒島平
小塚銀八 愛知平
照井賢三 岩手平
水野均治 愛知平
島田喜一 靜岡平
× 莊田勇 山形平

○大正二年九月卒業 (十一名)

飯山太平 茨城平
濱崎末長 高知平
吉安新次 兵庫平
田面欽次 兵庫平
松田鶴次郎 福岡平
小安正三 東京平
小林敏行 東京平
宮本義永 茨城平
島田儀三郎 熊本平
鈴木敏三 福島平

本田光吉 愛媛平
岡本重治 東京平

神壽丸運轉士

澎湖島水產組合技手
大阪商船會社榮取丸乘組

日本水產株式會社
實業(在香港)
在シンガポール
福島縣水產試驗場技手
鰐瀧船高鵬丸船長

○大正二年十月卒業 (二名)

長崎縣水產試驗場技手

○大正三年七月卒業 (九名)

研究科在學(在米)
熊本縣水產試驗場技手
滋賀縣水產試驗場技手
新潟鐵工所東京出張所
鹿兒島縣出水部技手
實業
研究科在學(在南洋ジヤバ)
青島水產組合技師
堤商會

○大正三年九月卒業 (九名)

八六

高柳繁次郎 群馬平
塚崎謙吉 秋田平
中川甚藏 東京平
山口慶四郎 群馬平
馬上福壽 福島平
松尾我何人 長崎平
永福 鹿兒島平
三輪源造 岡山平
久富元 長崎平

○大正三年十月卒業 (九名)

服部愛之助 大阪平
原田健兒 熊本平
野崎民平 三重平
前田英二 新潟平
梅本儀助 福岡平
本間久四郎 新潟平
莊得一 岡山平
德光外治 石川平
山田勝衛 長野平

飯沼壽 東京平
林準二 東京平

遠洋漁業科在學(在米)

雲鷹丸運轉士
沖繩水產學校教諭
堤商會
水產講習所助手
兵役

○大正三年十月卒業 (一名)

沼野御吉 新潟平

○大正三年十一月卒業 (二名)

中村吉治 長野平
重田瑞穂 兵庫平

○大正四年七月卒業 (十七名)

石崎實三郎 愛媛平
渡邊六造 山形平
吉田秀一 東京平
田代正治 新潟平
津田守規 福岡平
中山琢三 福島平
岡本正一 靜岡平
栗田要吉 京都平
山田盛雄 福岡平
山本德 愛媛平
合原一 福岡平

卒業者

高知縣幡多郡水產技手

富山縣水產講習所技手
朝鮮總督府
福田大敷組合
大八洲漁業株式會社
朝鮮群島簡島水產學校
○大正四年九月卒業 (十名)

家坂孝平 新潟平
高橋千里 長崎平
浦山精一 靜岡平
山井隆亮 栃木平
峯辰三 長崎平
日下部彦次郎 兵庫平
森村共正 石川平
桃田利惣 新潟平
仙波平馬 栃木平
進 福岡平

○大正四年十月卒業 (一名)

三宅好美 岩手平

○大正四年十二月卒業 (二名)

村上正男 愛媛平
淵山貞 長崎平

○大正五年七月卒業 (九名)

雁部松三郎 宮城平

八七

朝鮮成鏡南道西湖津漁業監督
岩手縣水產學校教諭
臺灣義勇團

鹿兒島縣川邊郡技手
佐賀縣水產試驗場技手
和歌山縣北牟婁郡水產技手
靜岡縣水產技手

石川縣鹿島郡水產技手
研究科在學
遠洋漁業科在學

高知縣安藝郡水產技手
遠洋漁業科在學
遠洋漁業科在學

角輪組
兵 役
兵 役
兵 役
遠洋漁業科在學

北野 退藏
金村 正己
秋山 俊一
谷村 豐吉
須貝 實
根岸 勝彌
尾藤 信正
岡 島 清
荻 龍 明七
吉田 春吉
田原 精夫

宮城 平
山形 平
高知 平
高知 平
山形 士
福島 士
熊本 士
廣島 平

栃木 平
東京 士
東京 士
東京 士

宮城 平
東京 平
東京 平

千葉 平
三重 平
香川 平
宮城 平
兵庫 士

日本水產株式會社
兵 役
兵 役

福井縣小濱水產學校教諭
兵 役
遠洋漁業科在學

兵 役
兵 役
研究科在學

兵 役
兵 役
兵 役

兵 役
兵 役
兵 役

正木 一作
中島 正一
柳川 和民
甘利 集基
市川 友賀
人見 秀四郎
岡田 正人
菅 三郎
平 山 繁
澤池 一雄
郷 朔雄
金 泳 煥

千葉 平
東京 士
島根 平
長野 平
神奈川 平
東京 士
兵庫 平
岩手 士
鹿兒島 士
京都 士
東京 華

福岡 平
廣島 平

福岡 平
廣島 平

埼玉 平
廣島 平
慶手 平

堤商會
○大正六年十一月十日卒業 (二名)
岩尾 正人 三重 士

輸出食品株式會社
○大正六年十一月三十日卒業 (一名)
山下彌三左衛門 鹿兒島 平

遠洋漁業科在學
堤商會
輸出食品株式會社

角輪組
神奈川縣川邊大敷網漁場
靜岡縣福田大敷網漁場
明治漁業株式會社

遠洋漁業科在學
角輪組
靜岡縣蒲原中村大敷網漁場
福田漁業事務所
新潟縣三島郡役所

卒業 者

(二) 製造科 (三百七十七名)

○明治三十一年四月卒業 (三十四名)
今井 次郎 神奈川 平
長谷川 作次 石川 平
濱元 四夏太郎 富山 平

○大正六年五月三日卒業 (一名)
大津 清 福岡 平

○大正六年五月十二日卒業 (一名)
飯野 真佐 埼玉 平

○大正六年五月十六日卒業 (二名)
今岡 源一 廣島 平

○大正六年五月廿五日卒業 (一名)
青木京一郎 慶手 平

八九

實業

東京府技師 前田庄五郎 兵庫平
北海道根室五星織詰會社技師 藤村守一 高知士
鹿兒島縣立商船水產學校教諭 松生猪三男 福岡士
北海道水產試驗場技師(釧路支場) 古賀駿輔 佐賀士
宮崎縣水產試驗場技師 北川克郎 石川士
實業 宮木周市 佐賀士
肝油製造業 白石靜 鹿兒島士
實業 平野友安 千葉平
東津織詰株式會社 關原東太 千葉平
○明治三十二年四月卒業(二十二名)

實業

在米國 久雨恒介 山口市
朝鮮海產組合技師(鎮南浦支部) 府中喜八郎 石川平
高知縣水產試驗場技師兼場長 小石季一 秋田士
青森縣水產試驗場技師 小岩井治世 青森士
茨城縣鹿島郡若松村立水產學校教諭 藍野一男 千葉平
福喜洋行 佐々木繁太郎 香川平
○明治三十三年四月卒業(十五名)

九〇

實業

臺灣打狗專賣支局技師 實業 井關正行 和歌山平
朝鮮總督府技師 實業 市橋丁丸 東京華
臨時產業調查局技師 實業 四堀良造 北海道士
神奈川水產試驗場技師兼場長 實業 富經恒 千葉士
青森縣水產試驗場技師兼場長 實業 小川清一 佐賀士
○明治三十四年四月卒業(九名)

實業

日本勸業銀行員 實業 一宮弘人 長崎士
宮崎縣南那珂郡水產技師 實業 伊藤哲太郎 茨城平
山口縣水產組合技師 實業 濱田直作 富山平
臺灣總督府技師 實業 鈴木珍平 岩手平
實業(在朝鮮鎮南浦) 實業 金高喜一郎 千葉平
吉田虎藏 德島平
室伏俊五郎 三重平
○明治三十七年七月卒業(八名)

在米國

浦山伍作 石川平
久保茂助 山口平
久木田勝馬 鹿兒島士
久谷歡一 島根平
阿部徹 宮城平
齋藤七郎 千葉平
水野幸次郎 愛知平
鹽田愛隣 千葉平

實業

橫濱織詰檢査所 實業 石原重良 山形士
北海道水產試驗場技師 實業 岩本正孝 長野士
愛媛縣水產試驗場技師 實業 渡邊安忠 大分士
靜岡縣水產試驗場技師 實業 宗吉秀之 石川平
實業(織詰及卸製造) 實業 內村可一 德島平
田島百人 熊本士
松尾豐彦 愛知平
淺井謙吉 東京士
酒井惣次郎 三重平
菊池健 岩手士
宮内友吉 青森平
志村彦藏 山形士

實業

明治漁業株式會社 實業 池田熊之助 鹿兒島士
樺太水產試驗場長 實業 千葉幸三郎 東京士
滿洲製粉株式會社專務取締役 實業 小野寺利吉 宮城平
水產講習所助教 實業 中井國太郎 愛媛平
宮崎縣水產試驗場技師 實業 野元俊一 鹿兒島士
專賣局技師兼書記(專賣局事業部在勤) 實業 松原榮 兵庫平
船橋晉吉 神奈川平
小見山富市 熊本平
朝比奈雪 靜岡士

實業

加藤製膠工場 實業 實業 堀田熊次郎 岩手平
鐵道院囑託 實業 河村尊雄 京都平
輸出食品株式會社取締役 實業 鍋島聰道 高知平
鈴木商店 實業 倉田秀雄 熊本平
下ノ關山神組專務取締役 實業 安藤俊吉 兵庫平
白石庸次郎 新潟士
森萬次郎 東京平
勢島莊太郎 福岡平

在米國

○明治三十五年四月卒業(三名)
岩城宣郎 靜岡平
田淵速吉 德島平
久保田信治 兵庫平

實業

○明治三十八年七月卒業(十七名)
勢島莊太郎 福岡平

卒業者

○明治三十六年七月卒業(十三名)
久保田信治 兵庫平

九一

水産工業株式會社
實業練習生(在南米)
水産講習所臨時囑託
北洋水産株式會社
實業

內外水産株式會社

橫濱野崎商會

宮城縣技師

愛知縣渥美郡水産組合並
三河海苔同業組合技師
水産講習所助教

輸出食品株式會社技師

實業

長崎縣水産試驗場技師
專賣局技師兼書記(販出專
賣支局高松出張所(在勤)
東洋製糖株式會社技師長
臨時產業調查局技師

實業
愛媛縣四宇和郡水産技師

○明治三十九年七月卒業 (十八名)

伊東 二郎 茨城平
林 碌 耶 大阪平
馬場 清 止 宮城士
河西 延次 郎 香川平
武 季 作 東京士
長屋 熊 雄 廣島平
宇加治 文 雄 茨城平
國 島 徹 北海道士
安永 宗 治 福岡平
牧野 健次 郎 靜岡平
松坂 省 輔 山口平
益滿 行 綱 東京士
江島 悅次 郎 福岡士
栗屋 協 二 愛知士
木村 金 太郎 東京士
鈴木 幸 太郎 靜岡平
杉山 恒 吉 德島士
池 内 清 愛知士
岩 井 龜 治 高知平
高崎 達之助 大阪平
立川 卓 逸 新潟士
仲野 九 郎 兵庫平
中川 克 己 高知平

○明治四十年七月卒業 (十五名)

中村 隆 義 東京士
吉 野 季 長野士
永峰 治 光 北海道士
中島 董 一 郎 東京平
梅宮 鶴 藏 福岡平
野口 莊 次 埼玉平
岡本 剛 三 東京平
山 中 巖 廣島平
問世 田名 臣 鹿兒島士
楠谷 六 三 埼玉平
佐々 田 榮 重 島根平

中村工業所

(舊姓里深)
高田 清 一 兵庫平

(舊姓市川)
阪 元 清 東京平
三 森 富 雄 東京士
島崎 眞 哉 高知士

富山縣技師、富山縣水産
講習所技師兼所長
北海道後志支庁水産技師
新潟能生水産學校教諭

○同年九月卒業 (一名)

實業
杉村 泰 治 宮城士

實業(確詰製造業)

○明治四十一年七月卒業 (二十六名)

濱部 常三 郎 和歌山平
西方 梯次 郎 神奈川平
富山 正 己 千葉士
富田 達 道 高知平
梅 浦 健 吉 東京士
大島 慎 二 東京平
岡田 勝 夫 東京平
田口 寧 一 郎 茨城平
角田 鶴 雄 埼玉平
中島 安 太郎 愛知平
久志 本 欣之助 三重平
柳淵 覺 太郎 群馬平
山 極 七 郎 長野平
松 下 高 福岡士
前田 隆 一 兵庫平
石川 平

朝鮮總督府專賣局技師(廣梁灣出張所)
眞田 吉之助 石川平

卒業者

榊太郎技師

榊太郎 愛媛平

沖繩縣立島尻水産學校教諭

實業
赤嶺 慎 一 沖繩平

朝鮮稅關技師(釜山)

實業
相 澤 毅 長野平

島根縣水産試驗場技師

實業
神 隆 三 東京士

三重縣水産試驗場技師

實業
森 谷 茂 鹿兒島士

支那浙江模範鹽業試驗場(修業證書)

技師
鈴木 厚 三 郎 兵庫平

青森縣水産技師

實業
陳 非 清 國

朝鮮總督府技師

實業
曹 文 淵 清 國

大倉組店員(上海在勤)

實業
一ノ瀬 福 己 福岡士

和歌山水産試驗場技師

實業
小 倉 善 平 栃木平

陸軍技師(宇留陸軍糧秣廠在勤)

實業
若 林 忠 雄 茨城士

京都府水産講習所技師

實業(確詰製造業)
田 中 眞 平 埼玉平

大阪輸出確詰検査所員

日魯漁業株式會社
谷口 直 太郎 兵庫平
高瀬 重 之 兵庫平
田代 實 範 福岡平
武 晴 宜 群馬平
小山 甲 三 茨城平
永 井 眞 神奈川平
中岡 盛 繼 岡山士
山路 政 一 廣島平
増田 久 家 愛媛士

福岡縣水産試験場技手
實業(神戶)

○福井守一 東京平
小林丈太郎 岡山平
有賀篠夫 長野平

水産講習所技手
實業
實業(朝鮮江原道注文津)

×北島格一 佐賀平
北川政次郎 神奈川平
木村松太郎 群馬平
三木源吉 兵庫平
菅原元一 岩手平

○明治四十三年七月卒業(十七名)

宮崎縣水産組合
臨時産業調査局技手

×岩佐定一 長崎平
西村和雄 東京平
○中山留八 福島平

ゼ、フランコ、イタリヤン
臨時産業調査局技手
水産講習所技手
實業

×高宮正 山形平
×内藤俊一 山口平
○中野常徳 北海道平
太田貞太郎 東京平
矢野實 富山平

神戶總詰検査所
實業(在シンガポール)

○前澤熾衛 長野平
山本祥吉 廣島平
有坂利一 群馬平
青田春藏 福岡平
九條良叙 東京平

南滿洲製糖株式會社
明治漁業株式會社

鈴木儀八 岩手平

支那江蘇省立水産學校長(修業證書)

張鏗 清國

○同年十月卒業(五名)

(舊姓中光)

孫英 清國

海陸物産株式會社
務田商店技師(富山市)

加隈真介 熊本平
村上次郎 山口平
布施達治 千葉平
海老澤光治 東京平
菅宮清吉 茨城平

實業(函館)

○明治四十四年七月卒業(二十一名)

飯澤發 宮城平
池山光藏 三重平
德水盛雄 熊本平
吉田敬雄 熊本平
谷村重忠 和歌山平
武本源四郎 岡山平
津田弘一 東京平
塚越繼二 群馬平
根岸林造 兵庫平
内田孝雄 東京平
内田林治 東京平
牛島實 鹿兒島平
安井章一 兵庫平
山添兵造 兵庫平
小柳石男 山形平

實業
肝油製造業(樺太)
東築地土地株式會社(名古屋)
實業(食料品業)
北海道水産試験場技手(高島)
特許局技手
染料製造業
福井縣立小濱水産學校教諭

×實川計徳 千葉平
大川實 靜岡平
長光悟 靜岡平
三井澄 東京平
平林愛民 長野平
森田巽 佐賀平
鈴木武 栃木平
清水一司 東京平
市島徹太郎 新潟平
飯岡忠重 栃木平
本田鹿人 熊本平
鳥居強次 東京平
萩原茂 長野平
大槻房吉 京都平
小野彌一 靜岡平
小野太亮 山口平
神住潔光 山口平
内藤謹三郎 東京平
中村信治 福井平
中村真 石川平
黒田元治 北海道平
久保田覺齋 茨城平

農商務省水産局
專賣局技手兼書記(阪出專賣支局在勤)

江副元三 佐賀平
齋藤登樓 香川平
×佐藤善右衛門 岩手平

丁字屋化學研究部技師

○同年十一月卒業(五名)

○修業證書) 深山義道 千葉平
○修業證書) 胡澤泰 清國

堤總詰工場技師(勸察加)

伊藤孝夫 新潟平
外山源吾 新潟平
×横尾藤作 群馬平
荻野波一 兵庫平
佐田作郎 宮崎平

實業練習生(在米國)

○明治四十五年七月卒業(十二名)

池田真作 山形平
○伴誠一 東京平
大内義男 福島平
川端豐松 兵庫平
×山口久四郎 三重平
河村兵三 三重平
中村悌二郎 京都平
大橋哲郎 靜岡平
深澤三郎 山梨平
關根豐 埼玉平
榎下威儀 熊本平

名古屋中央市場株式會社
高知縣水産試験場技手
尾製糖株式會社
總房水産株式會社
膠製造會社(王子)
鈴木味素工場
朝鮮總督府技手

卒業者
(舊姓島村)
榎下威儀 熊本平

千葉縣夷隅郡技手

○大正元年十一月卒業(八名)

島添真一 京都平

總詰販賣業

(舊姓岩澤)

實川計徳 千葉平

輸出食品株式會社技師
赤坂總詰製造所(樺太)
臺灣澎湖島廳技手
佐賀水産株式會社
中村工業所

×大川實 靜岡平
長光悟 靜岡平
三井澄 東京平
平林愛民 長野平
森田巽 佐賀平
鈴木武 栃木平
清水一司 東京平

實業練習生(在新西國)

○大正二年七月卒業(二十四名)

市島徹太郎 新潟平

樺太廳技手

飯岡忠重 栃木平

水産工業株式會社

本田鹿人 熊本平

水産講習所助手

鳥居強次 東京平

岩手縣水産技手

萩原茂 長野平

三越吳服店

大槻房吉 京都平

橫濱海産乾物同業組合

小野彌一 靜岡平

山口縣大津郡水産試験場技手

小野太亮 山口平

青森縣水産試験場技手

神住潔光 山口平

水産工業株式會社

内藤謹三郎 東京平

臺灣海産株式會社

中村信治 福井平

鈴木工場(川崎)

中村真 石川平

函館總詰検査所

黒田元治 北海道平

後藤總詰製造所技師(長崎縣野母村)

久保田覺齋 茨城平

日本化學工業株式會社
東北帝國大學助手
樺太總詰合資會社
陸軍技術(東京陸軍糧秣廠)
海產物株式會社
新潟縣能生水產學校教諭
中村工業所
實業
水產講習所助教
實業練習生(南洋)
○大正三年七月卒業(十四名)
伊藤眞三 新潟平
池尻文郎 福岡平
西島直太郎 大阪平
渡邊富藏 茨城平
吉田實 千葉平
吉村善一 兵庫平
中村鐵太 東京平
內海直國 愛媛平
小野信之 神奈川平
前田石之助 京都平
小和田金吾 新潟平
荒川 東京平
北野 長崎平

千葉縣海上郡水產技術
○大正四年七月卒業(十三名)
岩松三郎 東京平
入田秋治 鹿兒島平
富田四郎 東京平
吉永一隆 熊本平
田山來介 埼玉平
津幡文八郎 青森平
村田繁 山口平
熊澤楠吉 高知平
佐藤秀雄 福島平
菊山武雄 愛媛平
弓削讓 茨城平
鈴木鉦三 愛知平
李商 朝鮮
○大正四年十月卒業(六名)
中島吉十郎 佐賀平
中須辰二 石川平
柳谷善吉 北海道平
美川秀信 熊本平
水口元 石川平
清水淳三 神奈川平
桑義輔 福井平

星製糖株式會社
遠間總詰所技師
中村工業所
水產講習所助手
青島水產組合
在米
○大正五年九月卒業(一名)
寺西爲信 大阪平
○大正五年十月卒業(五名)
吉澤久藏 北海道平
山田永雄 大分平
原三太 佐賀平
田邊五郎 山梨平
平塚顯橋 宮城平
○大正六年三月卒業(十四名)
小林小一郎 新潟平
加藤清一郎 富山平
佐野貞三 福島平
杉山泰 岡山平
岡野滿津次郎 德島平
福住吉慶 東京平
赤松 愛媛平

堤商會
兵役
○大正六年六月八日卒業(一名)
桑原義輔 山口平
○大正七年三月三十日卒業(二十名)
新妻善七 宮城平
山田壽信 愛媛平
松田權六 群馬平
成田 千葉平
富岡謙吉 兵庫平
本村 惟鹿兒島平
松葉篤鴉 東京平
濱本清志 鳥取平
三輪儀三郎 大阪平
中島計次 群馬平
田村光三 大阪平
梶原賴久 兵庫平
河內吾郎 山口平
井出孝吉 東京平

卒業者

古谷商店(横濱)
長崎縣松浦郡水産技手
山陽皮革株式會社
瀨萬食料品店(大阪)
秋田縣水産試驗場技手
株式會社岡田商店(東京)

(三) 養殖科 (百五十名)

○明治三十一年四月卒業 (九名)

(舊姓冬木)

(舊姓柳部)

山崎秋生 京都平
村井英雄 福岡平
三木觀藏 兵庫平
上原元助 香川平
松本清之丞 福島平
兼本盛光 神戶士

○明治三十四年四月卒業 (三名)
(舊姓伊達)
片倉健吉 東京華
長島八郎 神奈川平
須田義二郎 山形士

○明治三十五年四月卒業 (三名)
臺灣總督府在勤
福井縣小濱水産學校長
實業
秋山養魚場(東京)
鳥取縣水産技師
水産講習所技手
農商務技師
○明治三十七年七月卒業 (二名)
丸川久俊 島根士

在米國

○明治三十八年七月卒業 (三名)

推原廣男 鹿兒島士
西山伊六 佐賀士
東道太郎 東京士
平木治 福岡平

○明治三十九年七月卒業 (二名)

萩原實治 兵庫平
鐘久江東作 佐賀士

○明治四十年七月卒業 (二名)

德久三種 山口平
谷口利三郎 廣島平

○同年九月卒業 (一名)

西村茂生 山口平

○明治四十一年七月卒業 (七名)

金子政之助 東京平
河合盾丸 愛知平
八幡光造 山形平
柳本斗夫 德島平
藤城存知 廣島平
阿部圭 福島平
須賀原善太郎 群馬士

○明治四十二年七月卒業 (七名)

加藤保 愛媛平
田直 宮城士

○明治四十五年七月卒業 (十七名)

宮城縣水産學校教諭兼水産試驗場技手武田直 宮城士

○明治三十三年四月卒業 (八名)

石田五一郎 山口平
今野虎吉 福島平
伊藤俊治 千葉平
緒方茂十郎 大分平
小野佐久雄 東京士
秋山永次 東京士
肥後了一 鹿兒島士
櫻田廣吉 秋田士

○明治三十四年四月卒業 (三名)

片倉健吉 東京華
長島八郎 神奈川平
須田義二郎 山形士

○明治三十五年四月卒業 (三名)

臺灣總督府在勤
福井縣小濱水産學校長
實業
秋山養魚場(東京)
鳥取縣水産技師
水産講習所技手
農商務技師
○明治三十七年七月卒業 (二名)
丸川久俊 島根士

○明治三十六年七月卒業 (四名)

河合殿 愛知平
山下平造 兵庫平
山本由一 東京士
越田德次郎 石川平

北海瀛水産試驗場技手
福岡縣水産試驗場技手
臺灣總督府
實業

○明治四十三年七月卒業 (五名)

倉上政幹 埼玉平
藤森三郎 長野士
青木越雄 滋賀士
目崎守義 埼玉士
菅俣吉之助 東京平

○明治四十四年七月卒業 (十一名)

早坂夏次 山形士
山田政滿 福井士
小林雄次 廣島平
三木保次郎 兵庫平
三宅仙吉 東京士

○明治四十四年七月卒業 (十一名)

井田助作 新潟平
中野宗治 長野平
河村加四郎 廣島平
田中林三 大阪平
塚越靜吉 群馬平
下郷誠一 愛知平
松野助吉 東京平
小林尙次 靜岡平
島村結彦 高知士
鈴木拙郎 三重平
神谷尙志 東京士

○明治四十五年七月卒業 (十七名)

宮城縣水産學校教諭兼水産試驗場技手武田直 宮城士

水産講習所助手
 富山縣水産講習所助手
 熊本縣技手
 福岡縣技手
 山形縣水産技手
 臺灣南廳殖産係

實業
 宮崎縣水産試驗場技手
 帝室林野管理局技手(箱根出張所在勤)
 臺灣總督府
 朝鮮總督府技手(木浦稅關)
 新潟縣立能生水産學校教諭
 佐賀縣水産試驗場技手

實業
 岡山縣兒島養貝會社技師
 (朝鮮麗水在勤)
 ○大正二年七月卒業 (十名)
 朝鮮忠清南道勸業課
 東京帝國大學物理學教室
 臺北廳
 水産講習所
 研究科在學(在米)

川村久治郎 福井平
 笠村 確 栃木平
 吉田 深 福岡士
 田中修次郎 東京平
 高橋宗作 山形平
 中山 勝 熊本士
 中澤貞雄 長野平
 村松 鼎 愛知士
 鬼塚正治 鹿兒島平
 牧野謙二 靜岡平
 前田九平 兵庫平
 小林彦四郎 栃木平
 小金丸汎愛 福岡平
 阿曾文雄 千葉士
 姉帯定助 岩手平
 北村強彦 熊本士
 春藤一市 岡山平
 片岡虎之助 山形士
 川尻 稔 三重士
 米田 保 福岡平
 田中正男 東京士
 中村正明 埼玉平
 中島頭一郎 大阪士

岡山縣水産試驗場技手
 高知縣真珠養殖會社
 ○大正二年十月卒業 (一名)
 ○大正三年七月卒業 (十三名)
 東京帝國大學動物學教室
 實業
 大村真珠會社
 研究科在學(在米國)
 長崎縣水産試驗場技手
 瀨美養魚會社
 愛媛縣水産試驗場技手
 中村工業試驗所
 山口縣水産試驗場技手
 實業
 佐賀縣水産技手
 神奈川縣水産試驗場技手
 愛媛縣新居郡技手
 ○大正四年七月卒業 (十四名)
 和歌山縣水産試驗場技手
 山口縣水産技手

中井信隆 和歌山士
 × 松崎冬次 東京平
 × 荒野謙三 東京士
 × 住道潔水 福井士
 岡田彌一郎 東京平
 石井宗吉 東京平
 富永次男 長崎士
 渡邊龜一 愛媛平
 吉田直道 長野平
 田口長次郎 長崎平
 能勢忠雄 愛知士
 大月菊男 茨城平
 松井佳一 山口平
 牧義男 熊本平
 天野京一 愛知平
 平井佐吉郎 東京士
 關晴雄 岩手士
 鈴木 晋 千葉平
 岩手準平 東京士
 磯野泰二 福井平

重慶度會部技手

名古屋大實農林株式會社

東京府水産技手

千葉縣水産試驗場技手

福井縣小濱水産學校

農商務省水産局

水産講習所

熊本縣蓋北郡技手

三重縣志摩郡技手

日本水産株式會社(五島在勤)

○大正四年十二月卒業 (一名)

水産講習所助手

實業

鹿兒島縣水産試驗場技手

島根縣水産講習所技手

實業

福島縣水産試驗場技手

高島 胤雄 三重平

中村 巖 廣島士

太田知度 岡山士

長田正男 長野平

小池正保 東京平

幸田伴次郎 福井士

佐藤玄三郎 岡山平

坂本寅市 京都平

三野友之助 香川平

三木信幸 德島士

日比谷爲造 神奈川平

劉 彭 支那

澤田 進 東京士

石森武男 宮城平

本間幸次郎 北海道平

笠井繁治 山梨平

藤本政男 兵庫士

越田秀包 石川士

大分縣水産技手
 フレリツビン、ザンボアンカ
 太田興業會社

農商務省水産局
 水産講習所助手
 兵 役

○大正六年三月卒業 (十一名)

福岡縣水産組合
 三重縣水産試驗場技手
 實業練習生
 佐賀縣東松浦郡技手
 水産講習所助手
 兵 役

○大正七年三月三十日卒業 (五名)

青山 鉦吉 東京士

小西芳太郎 東京平

鈴木秀策 靜岡平

吉武 實 山口平

原 信 福岡平

宮崎敏正 熊本平

小園龍次 佐賀平

江熊哲翁 大分平

遠谷光時 山形士

嶋川虎三 東京士

堀 重 和歌山平

沼田礎助 大分平

鷹司信敬 東京華

丹治經治 福島平

松本友雄 愛媛平

福島慶造 宮城平

越石俊雄 新潟士

今野壽三郎 山形士

× 青山 鉦吉 東京士

× 小西芳太郎 東京平

鈴木秀策 靜岡平

吉武 實 山口平

原 信 福岡平

宮崎敏正 熊本平

小園龍次 佐賀平

四 水産教員養成科

○明治三十年十二月卒業 (十五名)

在米國 市原佐太郎 高知平

卒業 者

(二十五名) (姓名イロハ順)

× 羽生辨之進 愛媛士

× 大竹敬造 北海道士

101

靜岡縣三島高等女學校教諭

加藤伊砂吉 靜岡平
片田久次郎 新潟平
加藤登太郎 山形平
正富彌藏 岡山平
正林英雄 長崎平
秋保知次 京都平
佐々木武治 青森平
宮崎賢一 長崎平
瀨岡彦三 佐賀平
關山嘉門 岩手平
長崎縣技手 秋田平

沖繩縣技手

マニラ麻網糸製造株式會社
專務取締役(東京府大森)

長崎縣技手

五 製鹽技術員養成科

(四十三名) (イロハ順)

○明治三十九年三月卒業 (十名)
朝鮮總督府專賣局技手(廣梁灣出張所)市川信次 鹿兒島平
專賣局技手(三田尻專賣支局)濱清一 栃木平
富田登吉 埼玉平
東條高治 新潟平
岡本靜一郎 福岡平
室川重義 和歌山平
中原經治 福島平
中村文 福岡平

○明治四十三年三月卒業 (七名)
北川九一郎 滋賀平
平林保義 東京平
尾關素一 東京平
吉武幾甫 山口平
水井重藏 兵庫平
黒田藤五郎 愛媛平
黒住安臣 岡山平
松田一平 徳島平
三浦一 岩手平

專賣局技手(金澤支局請)

○明治四十一年三月卒業 (六名)
專賣局技手兼書記(神戸專賣支局赤穂出張所)橋本昇次郎 栃木平
片山甲太郎 三重平
永山千春 東京平
安岡貞雄 高知平
清水新太郎 香川平
清家幹一郎 愛媛平

ラサ礫礫株式會社

專賣局技手(岡山專賣支局在勤)

○明治四十二年三月卒業 (十名)

三輪清彦 愛知平
糸賀仁一 埼玉平
伊藤純造 埼玉平
谷本喜夫 廣島平
大塚松次 栃木平
早稻田俊彦 愛知平

六 特殊技術員養成科

(七十四名) (イロハ順)

明治四十四年三月卒業 (八名)
製鹽科
金子 團三 新潟平
米倉 八郎 宮城平
吉野 久 北海道平
山田章治丸 大分平
丸山 廣作 新潟平

大正二年三月卒業 (十二名)
遠藤 金治 宮城平
佐藤 與市 大分平
柴田 政行 北海道平
鶴肝油採製
法短期講習
伊藤 傳次 青森平
畑中 彦助 愛知平

西尾磯三郎 東京平
地井 辰藏 千葉平
吉川 昌俊 愛知平
田村 音吉 千葉平
村尾 福太郎 奈良平
安田 豊吉 千葉平
山下 太郎 東京平

大正三年三月卒業 (九名)
胸澤 惣平 北海道平
小形 徳治 東京平
越中谷定吉 秋田平
鶴肝油採製
法短期講習
畑中 彦助 愛知平
田村 音吉 千葉平

○明治三十六年四月卒業 (十名)

專賣局技手兼書記(阪出專賣支局多喜濱出張所)長内清吾 青森平
實業 山本次郎八 熊本平
實業 松波虎之助 和歌山平
佐藤 暹 岡山平
証子 治 千葉平
喜多川良吉 東京平
志水 清 兵庫平
菅原直 廣島平
藤川 茂藏 福井平

專賣局技手兼書記(鹿兒島專賣支局那覇出張所)宗安宅 福島平
專賣局技手兼書記(長崎市大里町出張所)那須文六 香川平
酒井鐵三郎 茨城平
木下實治 京都平
壬生勇一郎 東京平

○明治四十三年三月卒業 (九名)

稻垣基一 香川平
羽鳥久雄 東京平
大澤國助 東京平
武田晴彦 鹿兒島平
谷 悦三郎 徳島平
工藤甚五郎 青森平
五島 彰 茨城平
相場好作 群馬平
宮宗料介 廣島平

竹田 與八 石川平
 田村 寅吉 千葉平
 田中 半七 香川平
 高瀬鶴次郎 富山平
 安田 政吉 東京平
 小杉 徳治 東京平
 越中谷定吉 秋田平
 大正三年八月卒業
 冷水魚族繁殖(十七名)
 法短期講習
 石川 久治 東京平
 石川廣之助 茨城平
 池田藤太郎 兵庫平
 星野 守治 群馬平
 和井内貞時 秋田平
 金子傳次郎 岐阜平

高木初太郎 福島平
 谷川吉之助 福井平
 村井藏三郎 福島平
 村上秀治郎 福井平
 山崎 貞輔 秋田平
 菊地 興易 茨城平
 北原 定治 福井平
 標 賢一 山梨平
 平野 長藏 福島平
 平塚金兵衛 長野平
 門馬富次郎 福島平
 大正三年十月卒業
 船用發動機關科(三名)
 土肥 長作 新潟平
 小出健太郎 新潟平

山本 通 愛媛平
 大正四年九月卒業
 養殖及漁業基
 本調査法
 田谷 英 石川平
 村松 鼎 愛知平
 照井 賢三 岩手平
 阿部 圭 福島平
 赤根金太郎 秋田平
 大正四年十月卒業
 製造化學(二十名)
 伴 誠一 東京平
 島崎 眞哉 高知平
 北川政次郎 神奈川平
 河村 兵三 三重平
 内田 孝雄 東京平

安井 章一 兵庫平
 鈴木 儀八 岩手平
 立川 卓逸 新潟平
 福井 守一 東京平
 内藤謙三郎 東京平
 藍野 一男 千葉平
 西村 和雄 東京平
 (以下八名講話ニ關
 スル科目ノ講習)
 濱野 仙吉 京都平
 大島 慎二 東京平
 大戸 與七 福井平
 宮木 周市 山口平
 大川 龜吉 秋田平
 村上 次郎 山口平
 久保田覺壽 茨城平
 關 虎雄 東京平

(一) 漁撈科

明治三十年三月修業
 巾着網漁業專修(五名)
 戸田 圓次 高知平
 土井 常吉 新潟平

七 別科 (現業科ヲ含ム)

大橋 直吉 静岡平
 紙子 次作 石川平
 多風勢四郎 和歌山平
 明治三十九年十月修業
 遠洋漁業專修(五名)
 池田 兼吉 千葉平
 石井 次郎 千葉平

濱田 進 鹿兒島平
 渡邊 梅吉 千葉平
 津島 徳松 千葉平
 明治四十年九月修業
 鹽流業流網
 及河繩漁業(五名)
 岩崎吉兵衛 静岡平
 田崎 次郎 茨城平

增田 鬼一郎 静岡平
 有原初三郎 静岡平
 見原 萬吉 静岡平
 明治四十年十月修業
 延繩及流網漁業(四名)
 津田 萬治 千葉平
 上原 丈助 千葉平

平田辰五郎 千葉平
 鈴木萬之助 千葉平
 明治四十年十二月修業
 鱈漁業(二名)
 伊藤猪之助 福岡平
 小田 積美 東京平
 明治四十一年四月修業
 遠洋漁業專修(六名)
 畑中 彦助 愛知平
 西川村三郎 徳島平
 田中由三郎 東京平
 竹内治郎吉 三重平
 柳生 政藏 愛知平
 笹田 歌吉 東京平
 明治四十一年六月修業
 捕鯨專修(八名)
 岩村 孫作 長崎平
 向井 三吉 和歌山平
 上原由之助 静岡平
 倉光 三郎 青森平
 山岸留之助 北海道平
 小坂 定治 長崎平
 島 可淳 神奈川平
 柴 恒太郎 岡山平

明治四十一年十月修業
 流網及延繩漁業(六名)
 一色 勇 京都平
 川崎徳左衛門 石川平
 横山林四郎 三重平
 齋藤與太郎 山形平
 榊 梅太郎 新潟平
 鈴木 三郎 千葉平
 明治四十二年一月修業
 延繩及流網漁業(一名)
 兼城 徳 沖繩平
 明治四十二年三月修業
 鱈及鮪漁業(七名)
 染田 五助 長崎平
 中世古白吉 三重平
 山本 重松 愛知平
 湯淺辰太郎 三重平
 平松 幸枝 三重平
 平賀源之助 三重平
 洲加本三五右衛門 長崎平
 明治四十二年四月修業
 延繩及流網漁業(一名)
 鈴木 梅吉 千葉平
 明治四十二年八月修業

岩重勝次郎 千葉平
 明治四十三年一月修業
 延繩及流網漁業(一名)
 石塚甚四郎 山形平
 明年四十四年四月修業
 延繩及流網漁業(八名)
 中川 菊藏 三重平
 山下三之助 三重平
 出口 數平 三重平
 湯淺 萬吉 三重平
 石塚 直彦 山形平
 佐藤 徳松 秋田平
 宮崎長太郎 秋田平
 鹿内 力松 青森平

森 義直 京都平
 明治三十二年三月修業
 魚油、魚鱗、
 沃度專修(五名)
 田中清之助 三重平
 山口三之助 千葉平
 昆 良八 岩手平
 越瀬 市松 和歌山平
 佐藤 義厚 茨城平
 明治三十二年十二月修業
 鱈專修(五名)
 中村里次郎 愛知平
 内田藏次郎 島根平
 松浦 善市 熊本平
 松坂豊次郎 富山平
 菅沼仙之助 福島平
 明治三十三年二月修業
 魚油、魚鱗、
 沃度專修(五名)
 畑谷丑太郎 北海道平
 赤平卯十郎 青森平
 佐藤漁太郎 宮城平
 宮津 吾弼 山口平
 杉本傳太郎 静岡平
 明治三十三年十二月修業
 鱈專修(五名)

卒業者

及川 豊壽 宮城士
村田新五郎 愛知平
山田 徳松 宮崎平
× 梁瀬 弘 長崎士
吉川 徳吉 滋賀平
明治三十四年三月修業
魚油、魚蠟、
沃度専修 (三名)
田中 富佐 福井平
松本龜次郎 富知平
木高金之助 千葉平
明治三十四年十月修業
鯨節、其他 (二名)
節類専修
大黒 一誠 高知平
齋藤 初治 長崎平
明治三十四年十二月修業
魚油、魚蠟、
沃度専修 (四名)
池内林太郎 高知平
熊谷伊三郎 福岡平
山口 太助 佐賀平
森崎 茂樹 静岡平
明治三十四年十二月修業
鯨節、其他 (五名)
節類専修
村江 保良 長崎士
小公 由平 千葉平

宮内 喜一 鹿兒島平
鈴木 兼助 愛知平
菅原 養藏 宮城平
明治三十五年十月修業
鯨節、其他 (五名)
節類専修
秦 信之助 島根平
米田 隆保 青森平
熊谷伊三郎 福岡平
山本荒太郎 和歌山平
山下藤三郎 鹿兒島平
明治三十五年十二月修業
鯨節、其他 (六名)
節類専修
桑井 藤吉 京都平
米田 隆保 青森平
中尾千代之助 鹿兒島平
山田忠五郎 東京平
新井 元吉 和歌山平
里見時之助 山口平
明治三十六年四月修業
魚油、魚蠟、
沃度専修 (四名)
米山 隆保 青森平
前田隆次郎 愛知平
小松 由平 千葉平

齋藤 玉治 愛知平
明治三十六年十一月修業
鯨節、其他 (三名)
節類専修
市川 忠吉 山形平
山岡 則重 高知平
安里 積勳 沖繩平
明治三十六年十二月修業
鯨節、其他 (六名)
節類専修
井上三次郎 三重平
花見 七治 北海道平
金子 房治 千葉平
河合 音治 愛知平
田村忠太夫 岩手平
黃 桂芬 清 國
明治三十六年十二月修業
魚油、魚蠟、
沃度専修 (五名)
大久保直太郎 高知平
島山 吉雄 宮城平
砥板源三郎 福岡平
古川九滿次 熊本平
坂口榮太郎 静岡平
明治三十七年十月修業
鯨節、其他 (八名)
節類専修
濱 壽楠 和歌山平

加藤 磯次 富山平
八木 佐吉 滋賀平
山田 遠 愛知平
松浦 金平 兵庫平
紺谷 平治 石川平
相木 嘉一 福井平
專 眞 静岡平
明治三十八年十月修業
鯨節、其他 (二名)
節類専修
箱石 米定 岩手平
名嘉 幸徳 沖繩平
明治三十八年十二月修業
鯨節、其他 (十名)
節類専修
堀内 謙藏 岩手平
堀部 貫一 大分平
小野 末男 福島平
大上伊勢吉 兵庫平
高橋敬三郎 三重平
田河 恒藏 熊本平
× 高杉 賢藏 秋田平
田中寅之助 愛知平
仲田文五郎 沖繩平
森本喜之助 和歌山平
明治三十八年十二月修業

魚油、魚蠟専修 (五名)
土岐 音吉 千葉平
高鍋 志郎 兵庫平
田井安太郎 京都平
曾根武兵衛 和歌山平
松浦萬龜太 島根平
明治三十九年十月修業
鯨節、其他 (六名)
節類専修
徳平 秀郡 沖繩平
竹田 信平 島根平
國吉 榮洪 沖繩平
淺沼 文八 東京平
隈下圓次郎 岩手平
柴正 式 富山平
明治三十九年十二月修業
鯨節、其他 (十名)
節類専修
濱口 義正 三重平
西川 正次 東京士
放生 要松 富山平
相馬 柳吉 秋田平
梅野 忠政 愛知平
岡田 太郎 鹿兒島士
矢野 喜藏 新潟平
松浦 久雄 三重士

小松 義篤 新潟平
趙 桐 清 國
明治四十年一月修業
魚油、魚蠟専修 (三名)
芳賀岩治郎 宮城平
花坂 傳吉 岩手平
小澤 謙三 千葉平
明治四十年九月修業
冷藏法 (一名)
村上 徳市 廣島平
明治四十年十月修業
鯨節、其他 (三名)
節類専修
岩城 宇平 宮崎平
村上倉次郎 北海道平
齋藤 八郎 静岡平
明治四十年十二月修業
鯨節、其他 (七名)
節類専修
一色 彌太 京都平
石川 喜助 北海道平
山道 隆 長崎士
大畑 伊八 三重平
秩父 重宏 青森士
三浦 大造 愛知平
野村利兵衛 京都平

明治四十一年九月修業
鯨節、其他 (四名)
節類専修
井合 榮俊 新潟平
三浦 操 島根平
佐野 實 香川平
日比谷要造 神奈川平
明治四十一年十二月修業
鯨節、其他 (七名)
節類専修
伊藤末千代 山口平
今藤 一馬 宮城平
岩崎 正巳 島根平
石原 彦三 三重平
河野 徳治 神奈川平
野川重五郎 岩手士
小堀 誠一 滋賀平
明治四十二年九月修業
鯨節、其他 (三名)
節類専修
橋本喜之助 青森平
田所 壽彦 高知平
桂 信吉 京都平
明治四十二年十二月修業
鯨節、其他 (九名)
節類専修
今立 昌雄 福井士
馬場 一夫 滋賀平

山中 敏三 山形平
高橋 善三 宮城平
山本 金吉 三重平
吉川 廣助 熊本平
佐藤 哲郎 三重士
三橋 淳 鳥取平
明治四十三年七月修業
貝殼彫刻専修 (四名)
伊登 小六 東京士
津田 徳 高知士
遊佐 孫藏 宮城平
森本 繁尾 高知士
明治四十三年十二月修業
鯨節、其他 (十二名)
節類専修
池山 盛一 三重平
芳賀岩次郎 宮城士
岡崎 常松 愛媛平
渡邊 照吉 北海道平
加藤 福松 愛媛平
上林 唯治 京都平
加瀬 松吉 茨城平
田中東太郎 北海道平
福士 夏三 青森平
酒井 茂吉 高知士

紀谷金之助 北海道 平
東 鐵造 大分 平
明治四十四年七月修業
貝殼彫刻專修 (六名)
池田興志雄 熊本 士
德井利左衛門 三重 平
渡邊 正勝 福島 平
隈部 文男 熊本 士
三好徳三郎 愛媛 平
弘末 英男 高知 士
大正三年四月修業
珊瑚彫刻專修 (四名)

泉 助次郎 宮城 平
知場伊太郎 福島 平
竹中 尙三 鹿兒島 平
江夏 武義 鹿兒島 平
大正四年九月修業
珊瑚及介殼彫刻 (一名)
高橋清一郎 長崎 平
大正六年三月修業
珊瑚及介殼彫刻 (三名)
有島 好光 鹿兒島 平
宮司 登 靜岡 平
清水 義八 新潟 平
大正六年十一月修業

珊瑚及介殼彫刻 (一名)
栗田 達道 熊本 平
大正六年十二月修業
貝殼彫刻專修 (一名)
南風原英富 沖繩 士
大正六年十二月修業
罐詰專修 (十四名)
後藤 滿 愛知 平
藤井 金吾 廣島 平
山口 保平 神奈川 平
田中 泰夫 京都 平
上野 務 大分 平

鈴木富太郎 三重 平
赤沼由敬二 東京 平
菅原誠一 秋田 平
星野 誠 宮城 平
宗像 健吉 福岡 平
田中長一郎 北海道 平
中村 義男 北 平
大正六年十二月修業
貝殼彫刻 (一名)
赤井 卯八 福井 士
明治四十一年三月修業
鮭鱒養殖 (三名)
野村菊次郎 宮城 平
石川廣之助 茨城 平
柳川之助 茨城 平

第二 卒業者狀況

卒業者一覽表 (大正七年三月調)

本表中×印ハ本科流撈科卒業者以外ノモノトス
別科ニ於テハ本科ニ於テハ魚撈科三名、製造科六名、養殖科一名計十名
別科ニ於テハ罐詰專修二名ノ支那人卒業者アリ

科 別	年 別	卒業者	
		年 別	計
流 撈 科	三十一年	1	1
	三十二年	1	1
	三十三年	1	1
	三十四年	1	1
	三十五年	1	1
	三十六年	1	1
	三十七年	1	1
	三十八年	1	1
	三十九年	1	1
	四十年	1	1
製 造 科	三十一年	1	1
	三十二年	1	1
	三十三年	1	1
	三十四年	1	1
	三十五年	1	1
	三十六年	1	1
	三十七年	1	1
	三十八年	1	1
	三十九年	1	1
	四十年	1	1
養 殖 科	三十一年	1	1
	三十二年	1	1
	三十三年	1	1
	三十四年	1	1
	三十五年	1	1
	三十六年	1	1
	三十七年	1	1
	三十八年	1	1
	三十九年	1	1
	四十年	1	1
計	三十一年	3	3
	三十二年	3	3
	三十三年	3	3
	三十四年	3	3
	三十五年	3	3
	三十六年	3	3
	三十七年	3	3
	三十八年	3	3
	三十九年	3	3
	四十年	3	3
總計		30	30

科 別	年 別	卒業者	
		年 別	計
流 撈 科	三十一年	1	1
	三十二年	1	1
	三十三年	1	1
	三十四年	1	1
	三十五年	1	1
	三十六年	1	1
	三十七年	1	1
	三十八年	1	1
	三十九年	1	1
	四十年	1	1
製 造 科	三十一年	1	1
	三十二年	1	1
	三十三年	1	1
	三十四年	1	1
	三十五年	1	1
	三十六年	1	1
	三十七年	1	1
	三十八年	1	1
	三十九年	1	1
	四十年	1	1
養 殖 科	三十一年	1	1
	三十二年	1	1
	三十三年	1	1
	三十四年	1	1
	三十五年	1	1
	三十六年	1	1
	三十七年	1	1
	三十八年	1	1
	三十九年	1	1
	四十年	1	1
計	三十一年	3	3
	三十二年	3	3
	三十三年	3	3
	三十四年	3	3
	三十五年	3	3
	三十六年	3	3
	三十七年	3	3
	三十八年	3	3
	三十九年	3	3
	四十年	3	3
總計		30	30

卒業者狀況

卒業者就職狀況一覽表 (大正七年三月調)

府縣別	區											總計
	福	長	佐	熊	鹿	神	宮	高	德	北	海	
別	岡	崎	賀	本	島	繩	島	知	島	道	北	海
研究科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
漁業科	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
漁撈科	8	7	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
製造科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養殖科	5	2	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1
計	34	23	5	11	5	5	5	5	5	5	5	5
養成科員	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
製煉技術員	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養成技術員	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特別技術員	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
別科	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	18	11	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
總計	46	34	10	15	10	10	10	10	10	10	10	10

附 錄

一 職員移動 (自大正六年四月至同七年三月)

- 大正六年四月十七日任水産講習所技師 技手 田和駒吉
- 大正六年四月十八日依願免本官 技師 田和駒吉
- 大正六年四月二十六日動物學教授ヲ囑託ス 寺尾新
- 大正六年四月三十日任水産講習所技師 北川政次郎
- 大正六年六月二日任水産講習所技師 淺野彦太郎
- 大正六年六月二日依願免本官 技師 柳直勝
- 大正六年七月二十六日製造ニ關スル傳習及試驗ヲ囑託ス 平野茂吉
- 大正六年八月十三日任水産講習所技師 技手 菊池健
- 大正六年八月十五日依願免本官 技師 菊池健
- 大正六年九月三日任水産講習所技師 谷村重忠
-
- 大正六年十一月九日依願免本官 技手 鎌田武造
- 大正七年一月九日商船學校教授ニ轉任 技師 淺利孝爾
- 大正七年一月十一日任水産講習所技師 教授 岡村金太郎
- 大正七年一月十一日任水産講習所技師 囑託 平野茂吉
- 大正七年一月十一日任水産講習所書記 囑託 中司正朔
- 大正七年三月四日任水産講習所技師 稻葉安四郎
- 大正七年三月四日臨時産業調查局技師ニ轉任 助教 中山留八
- 大正七年三月廿七日任水産講習所技師 囑託 山本靜一
- 大正七年三月廿七日任水産講習所助教 助手 鈴木直辰
- 大正七年三月廿七日雲鷹丸運轉士事務取扱ヲ囑託ス 郵井繪吉

二 學友會

德操ヲ研礎シ體育ノ發達ヲ期センガ爲メ職員生徒相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並生徒ノ饋金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分チ運動部ヲ更ニ端艇柔道劍道庭球及角力ノ五部トシ學藝部ニ於テハ毎月一回講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ生徒ノ德風ヲ發揚センコトヲ期シ又一方ニ於テハ寄宿舎ノ一部ニ圖書室ヲ設ケ各種ノ書冊ヲ蒐集シテ自由ニ之ヲ閱覽スルノ便ニ供セリ

運動部ニ於テハ各部毎年一回大會ヲ開キテ常ニ其技術ノ鍊磨身體鍛鍊ノ目的ヲ達セシメンコトヲ期セリ

本會役員左ノ如シ
會長 伊谷以知二郎

- 一 通常會員(本所生徒)
- 二 特別會員(本所職員)
- 三 贊助會員(本所出身者及舊職員)

第三章 役員

- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 一 會長 一名本所所長之ニ任ス
 - 二 幹事 三名本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
 - 三 部長 學藝部、運動部各一名 同上
 - 四 運動部委員長 五名 同上
 - 五 但端艇部ニハ副委員長一名ヲ置ク
 - 六 會計掛 二名 同上
 - 七 委員 學藝部四名、運動部各各二名、會計委員各級各二名生徒互選
- 但シ端艇部委員ハ六名トス
- 第八條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ事務ヲ掌ル
- 部長ハ其部ノ事務ヲ掌ル
- 運動部委員長ハ部長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ掌ル
- 會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル
- 委員ハ其部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐シ各其事務ヲ處理ス

三 財團法人水産研究獎勵會

附 錄

一一四

水産講習所學友會規則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス
- 第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚フシ精神ノ修養身體ノ鍛鍊ヲ爲スヲ目的トス
- 第三條 本會ハ本所現職職員出身者及生徒ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ハ其目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク
- 一 學藝部
 - 二 運動部
- 運動部ヲ分チテ端艇部、柔道部、劍道部、庭球部及角力部ノ五部トス
- 第五條 各部ニ於テ其細則ヲ設クルトキハ會長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 會 員

第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス

第九條 委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

第四章 會 議

- 第十條 會議ヲ分チテ總會役員會及部會トス
- 第十一條 總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク
- 第十二條 役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會務ヲ決議ス
- 第十三條 部長ハ其部ニ關スル事務ヲ決議ス
- 部會ハ決議ハ會長ノ承認ヲ承クヘシ
- 第十四條 必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

第五章 會 計

- 第十五條 通常會員ノ會費ハ一ケ年三圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ前納ス
- 特別會員、會費ハ俸給年額二百分ノ一トシ毎月之ヲ分納ス
- 第十六條 通常會員ハ入會金壹圓五拾錢ヲ納ムルモノトス
- 第十七條 豫算ハ毎年三月役員會ニ於テ之ヲ決議ス
- 各部會ニ於テハ毎年三月ニ其部豫算ヲ決議シ會長ニ差出スヘシ
- 第十八條 會計決算ハ毎年ノ總會ニ之ヲ報告スルモノトス
- 第十九條 經費ノ剩餘アルトキハ之ヲ基本金トシテ積立テ確實ナル銀行ニ預ケ入ルルモノトス

一一五

本所創立ヨリ十年水産傳習所創立ヨリ二十年ニ相當スル明治四十年三月二十二日ヲトシ有志者相謀リ水産研究獎勵會獎學資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立資金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團法人ヲ設立シ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲學資又ハ資金ヲ補助或ハ貸與シ若ハ賞與スルコトトナセリ同財產ハ現時登錄資產貳萬七千五百圓ニシテ創立以來本所生徒ノ學資補助ヲ受ケタルモノ七人此金額三千五百九十四圓五十錢貸與ヲ受ケタルモノ十四人此金額二千二百三十三圓賞與ヲ附與セラレタルモノ十四人此金額百三十圓二十五錢ニシテ內本年度ニ於テ學資補助ヲ受ケタル者三人此金額二千八百圓學資貸與ヲ受ケタル者四名此金額二百七十八圓賞與ヲ受ケタルモノ二人此金額二十六圓ナリ

寄附行爲

一 目的

第一條 本財團法人ハ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲學資又ハ資金ヲ補助シ貸與シ若ハ賞與ヲ附與スルニアリ

二 名稱

第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究獎勵會ト稱ス

三 事務所

第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島水産講習所内ニ置ク

四 資產

第四條 收捐其募集ニ保ル水産講習所獎學資金ノ現在金及存價證券全部ヲ寄附シ本法人ノ資產トス

第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受ケタルコトヲ得

第六條 本法人ノ經費ハ其ノ資產ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス但寄附金募集ニ要スル經費ハ資產ヨリ支出スルコトヲ得

第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 本法人ノ收入事業ノ狀況ハ毎年一回前會計年度ニ屬スル分ヲ發表スヘシ

第九條 本法人解散スルニ至リタルトキハ理事會ノ同意ヲ得且評議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其資產ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナル方又ハ之ト類似セル他ノ學校團體若クハ學會ニ寄附シ本法人ノ設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

五 解散

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニマラサレハ解散スル

トトナシ

六 役員

第十一條 本法人ニ理事四名評議員十名ヲ置ク
理事ハ理事長之ヲ囑託ス理事長タル理事缺ケタル時ハ他ノ理事ノ合議ニ依リ之ヲ囑託ス本法人設立當時ノ理事及理事長ハ寄附行爲者ニ於テ第十二條ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

第十二條 理事一名ヲ理事長ニ充ツ
理事長ハ水産講習所長タル者ヲ以テ充ツ其ノ任期ハ水産講習所長ノ任期ニ從フ

水産講習所長タル者囑託ニ應セサル時ハ理事ノ合議ニ依リ之ヲ左ノ如シ

四 試驗報告及其他刊行物

明治三十二年以降本所ニ於テ刊行シタル試驗報告其他主ナルモノノ左ノ如シ

水産講習所試驗報告

第一卷

第一册(三十二年三月)

- 浮子材料試驗第一回報告 川合角也
- 各種鰵肝油採取試驗第一回報告 伊谷以知二郎
- 海豚皮製革試驗第一回報告 谷中知信
- 普通製鹽ト洗取製鹽トノ成分農學士 塚本道遠
- 比較 小野辰次
- 鰵魚温室及普通孵化試驗 農學士 藤田經信

附 錄

定ム此場合ニ於テハ其任期ハ理事ノ協議ニ依リ評議員ノ理事ノ協議ニ依リ囑託スルモノトス

七 寄附行爲ノ變更

第十三條 本寄附行爲ハ目的ニ關スル規定ヲ除クノ外理事會ノ同意ヲ經タル後評議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

八 附 則

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數決ニヨリ之ヲ定ム之ヲ變更スル場合亦同シ

- 鰵卵孵化水質適否試驗 農學士 藤田經信
- 神奈川縣下牡蠣飼育試驗 農學士 藤田經信
- いたばき養殖方法調査報告 農學士 藤田經信
- 多摩川香魚人工孵化試驗 農學士 藤田經信
- 第一回報告 オフアール
- 龍蝦孵化試驗第一回報告 オフアール
- ウロスリツクスノ結實作用ニ關スル研究 農學博士 岡村金太郎

第二册(三十二年七月)

牝川 温

第二卷 (三十四年八月)

纖維試驗成績第一回報告 理學士 吉岡 哲太郎
天蠶絲製造試驗第一回報告 農學士 藤田 經信
牡蠣養殖試驗第一回報告 理學士 服部 他助
附東京灣海水觀測表 理學士 今野 寅吉
龍卵室孵化培養試驗 理學士 岡村 金太郎
第一回報告 理學士 岡村 金太郎

第二册(三十二年七月)

わかれ養殖準備試驗報告 理學博士 岡村 金太郎
あさくさのリ調査ニ付神奈川、愛知、三重、宮城、岩手縣下出張報告 理學博士 岡村 金太郎
多摩川香魚人工孵化試驗 理學博士 岡村 金太郎
第二回報告 理學博士 岡村 金太郎
龍蝦孵化試驗第二回報告 理學博士 岡村 金太郎

第三卷 (三十八年五月)

漁網絲試驗第二回報告 理學博士 岡村 金太郎
ひらめ人工孵化試驗報告 農學士 藤田 經信
あさくさのリ移殖試驗報告 理學博士 岡村 金太郎
てんくさの構造ヲ論シテ寒天質ノ所在ニ及ブ 理學博士 岡村 金太郎

第四卷 (四十一年一月)

生牡蠣輸出試驗 理學士 妹尾 秀實
獨逸種草鰹及本邦種鰹成長比較試驗 日 暮 忠
靜岡縣てんくさ養殖試驗 理學博士 岡村 金太郎

第六卷

第一册(四十三年三月) 菊池 池
第二册(四十三年三月) 越田 徳次郎
第三册(四十三年四月) 川合 角也
第四册(四十三年四月) 伊谷 以知二
第五册(四十三年四月) 小野 辰次郎
第六册(四十三年四月) 菊池 池
第七册(四十三年四月) 丸野 久俊
第八册(四十三年四月) 赤湖ノ調査 理學士 丸野 久俊

第七卷

第一册(四十四年一月) 理學士 妹尾 秀實
第二册(四十四年一月) 理學士 川合 角也
第三册(四十四年一月) 理學士 小野 辰次郎
第四册(四十四年一月) 理學士 小野 辰次郎
第五册(四十四年一月) 理學士 小野 辰次郎
第六册(四十四年一月) 理學士 小野 辰次郎
第七册(四十四年一月) 理學士 小野 辰次郎
第八册(四十四年一月) 理學士 小野 辰次郎

第八卷

第一册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第二册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第三册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第四册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第五册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第六册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第七册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎
第八册(四十四年一月) 理學士 岡村 金太郎

附 録

本邦産浮游生物ノ一部(伊豆ニ於ケル攪脚類)(和英兩文) 丸川 久俊
日本産綠蠟ニ就テ 谷口 利三郎
多摩川産カサガシノ消化器ヨリ得タル硅藻ノ一部(和英兩文) 徳久 三種

第五卷

第一册(四十一年六月) 菊池 健
第二册(四十二年三月) 工學士 小野 辰次郎
第三册(四十三年三月) 理學士 吉岡 哲太郎
第四册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎
第五册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎
第六册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎
第七册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎
第八册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎
第九册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎
第十册(四十二年三月) 理學士 岡村 金太郎

第二册(四十四年三月)

秋海苔ノ附着狀態ニ就テ 理學博士 岡村 金太郎
海苔被害調査報告 理學博士 岡村 金太郎
てんくさ養殖試驗第二報告 理學博士 岡村 金太郎
露頭沿海州ニコラエウスタ方面水産業調査 理學博士 岡村 金太郎
英國鹽業並ニ燻製業ノ概略 理學博士 岡村 金太郎
第三册(四十四年七月) 理學博士 岡村 金太郎
佐賀縣沿岸海苔養殖法 理學博士 岡村 金太郎
佐賀縣東松浦郡ノリ養殖試驗成績報告 理學博士 岡村 金太郎
第四册(四十四年八月) 理學博士 岡村 金太郎
本邦産沿岸硅藻類一斑(和文及英文) 理學博士 岡村 金太郎
第五册(四十四年九月) 農學士 西村 金太郎
第六册(四十四年十月) 農學士 西村 金太郎
第七册(四十四年十月) 農學士 西村 金太郎
第八册(四十四年十月) 農學士 西村 金太郎

第七卷

第一册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第二册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第三册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第四册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第五册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第六册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第七册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二
第八册(四十四年十一月) 工學士 阪谷 以知二

第八卷

第一册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第二册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第三册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第四册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第五册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第六册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第七册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎
第八册(四十四年十一月) 理學博士 岡村 金太郎

第一冊(大正元年八月)

罐詰製造中微付ニ關スル研究農學士 西村 寅三
製造地ノ差異ト罐詰ノ品等成分トノ關係
第二冊(大正元年九月)

漁業試驗

第三冊(大正元年九月)

養蠶改良試驗

第四冊(大正元年十一月)

第五冊(大正元年十二月)

第六冊(大正元年十二月)

第七冊(大正二年三月)

第八冊(大正二年三月)

第九冊(大正二年三月)

冬木町養魚場試驗

工學士 菊池 秀實

理學士 妹尾 秀實

農學士 松井 秀三

工學士 橋本 英三

理學士 中澤 毅一

農學士 松井 秀三

理學士 藤原 英一

理學士 安田 弘一

川村 久治郎

第十冊(大正二年三月)

鮑中ノ硫黃化合物ニ就テ 農學士 山本 祥吉
介汁中ノ「グリコゲン」ニ就テ
魚介類ノ「エキス」ニ就テ
罐詰研究第一回以下第三回

第九卷

第一冊(大正二年五月)

第二冊(大正二年六月)

第三冊(大正二年十一月)

第四冊(大正二年十月)

第五冊(大正二年十一月)

第六冊(大正二年十一月)

第七冊(大正二年十一月)

第八冊(大正二年十一月)

第九冊(大正二年十一月)

第十冊(大正二年十一月)

小野 辰次郎

農學士 松井 秀三

農學士 松井 秀三

理學士 中澤 毅一

工學士 星野 三郎

工學士 星野 三郎

農學士 西村 寅三

理學博士 岡村 金太郎

理學博士 岡村 金太郎

理學士 中野 治房

第五冊(大正三年二月)

罐詰原料トシテたらばかに雌雄肉ノ優劣ニ就キテ罐詰トセル花咲蟹ノ成分たらばかにノ肉及其ノ雌雄ニ依ル相異

第六冊(大正三年三月)

各種網糸類ノ腐朽ニ就テ

網糸腐敗ニ關スル研究

網糸染色防腐試驗

網皮固形率寧越幾新ニ關スル試驗

第七冊(大正三年三月)

中宮洞湖産鱈寄生蠍蟲調査

第八冊(大正三年三月)

第九冊(大正三年三月)

第十冊(大正三年三月)

魚種改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

活體運搬試驗

第二冊(大正三年八月)

第三冊(大正三年十二月)

第四冊(大正四年三月)

第五冊(大正四年三月)

第六冊(大正四年三月)

第七冊(大正四年三月)

第八冊(大正四年三月)

第九冊(大正四年三月)

第十冊(大正四年三月)

第十一冊(大正四年三月)

第十二冊(大正四年三月)

第十三冊(大正四年三月)

第十四冊(大正四年三月)

第十五冊(大正四年三月)

第十六冊(大正四年三月)

第十七冊(大正四年三月)

第十八冊(大正四年三月)

第十九冊(大正四年三月)

日暮 江東作

農學士 松井 秀三

農學士 松井 秀三

理學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

農學士 池田 晏平

附 錄

一一一

附飲食物被掩材料ノ性質
ト細菌侵害トノ關係
農學士 西村 寅三

第五册(大正四年三月)
網ニ對スル水ノ抵抗ノ研究
理學博士 寺野 寅三

第一次報告

第六册(大正四年三月)
養殖魚類利用試驗第一回報告

第十一卷

第一册(大正四年七月)

布其納延繩漁船設計

工學士 春日 信市

ソコロフ式乾燥機試驗

工學士 伊谷 以知二

新式卷縮機械及液狀護膜試驗

工學士 伊谷 以知二

自記乾燥計

工學士 星野 三郎

駿河灣產櫻蝦調查報告

理學士 中澤 毅一

重要蝦蟹類調査第二報告

理學士 中澤 毅一

瀬戸内海調査

理學博士 岡村 金一

海藻蕃殖用岩掃除器

理學博士 岡村 金一

第三册(大正五年二月)

養魚餌料試驗報告

大正二年度冬木町養魚池產卵孵化成績

大正三年度冬木町養魚池產卵孵化成績

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

川村 久治

丸沼養魚試驗池水質調査報告 水産學士 酒井 順三

附錄

ツンツ氏魚類呼吸作用實驗器説明書

第四册(大正五年三月)

「シラス」鹽運搬試驗

丸川 久俊

第五册(大正五年三月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚兒

神谷 尙志

第六册(大正五年三月)

罐詰傳熱試驗報告

伊谷 以知二

田和 駒吉

第十二卷

第一册(大正五年六月)

新シキ「プロタミン」ニ就キ

農學士 山本 川

朝倉 唯祥

第二册(大正五年七月)

網ノ染法網糸ノ腐敗網糸ノ材

川合 角也

料ニ就テノ研究試驗報告

野崎 知之

第三册(大正五年八月)

柔魚鹽辛ノ成熟並ニ貯藏中

農學士 深井 秀三

ニ於ケル窒素化合物ノ分解

農學士 深井 秀三

及ヒ之ニ對スル食鹽ノ影響

農學士 深井 秀三

ニ就キテ

乾海苔ノ價格及ヒ淺草海苔

農學士 深井 秀三

ノ品質ト成分ニ就キテ

農學士 深井 秀三

第十三卷

第一册(大正六年十月)

罐油漬試驗報告

小野 辰次

第二册(大正六年十二月)

海苔色素試驗第一報告

中野 道太郎

第三册(大正六年十二月)

てんぐさ成長試驗

理學博士 岡村 金太郎

第四册(大正七年三月)

鯉肉ノ研究

農學士 松井 秀三

鯉節研究(第十一回)

農學士 松井 秀三

同 (第十二回)

農學士 松井 秀三

第五册(大正七年三月)

罐詰トセル蝦肉ノ軟化ニ就

農學士 松井 秀三

罐詰トセル蝦肉ノ軟化ニ就

農學士 松井 秀三

附錄

雄雌ニ於ケル成分ノ相違	農學士 松井秀三 悅郎
魚膠及ヒ食用「ゼラチン」中ノ無機鹽ニ就キテ	農學士 松井秀三 悅郎
腐敗セルあげまきヨリ「アトレン」ノ分離	農學士 松井秀三 悅郎
九州製紙會社排水ノ亞硫酸含量並ビニ其致磨川ニ及ボス影響	農學士 松井秀三 悅郎
第六册(大正七年三月)	
養蠶試驗報告(第二報)	日 暮 忠
菅沼、丸沼、大尻沼水温調査報告(第二報)	田 中 阿 歌 磨
其他ノ刊行物	
獨伊埃淡水產魚觀察報告	日 暮 忠
日本鮭鱒養殖誌	松 原 新 之 助
水産講習所圖書目錄(明治四十五年二月)	
海産物ノ化學的研究(代勝寫) 農學博士 鈴木梅太郎	
原種改良論(代勝寫) 理學博士 石川千代松	
魚類冷藏法	矢 野 實
海獸魚皮製法	谷 村 重 忠
漁業基本調査報告(第四册)	
浮游生物檢索圖解	
歐米鹹水養殖觀察報告 理學士 妹 尾 秀 實	
漁業基本調査報告(第五册)(大正七年三月)	

大正七年八月十五日印刷
 同・ 八月十八日發行

水産講習所

印刷者 金澤求也

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷所 元真社

東京市麴町區紀尾井町三番地

296
3

215N-3

終

